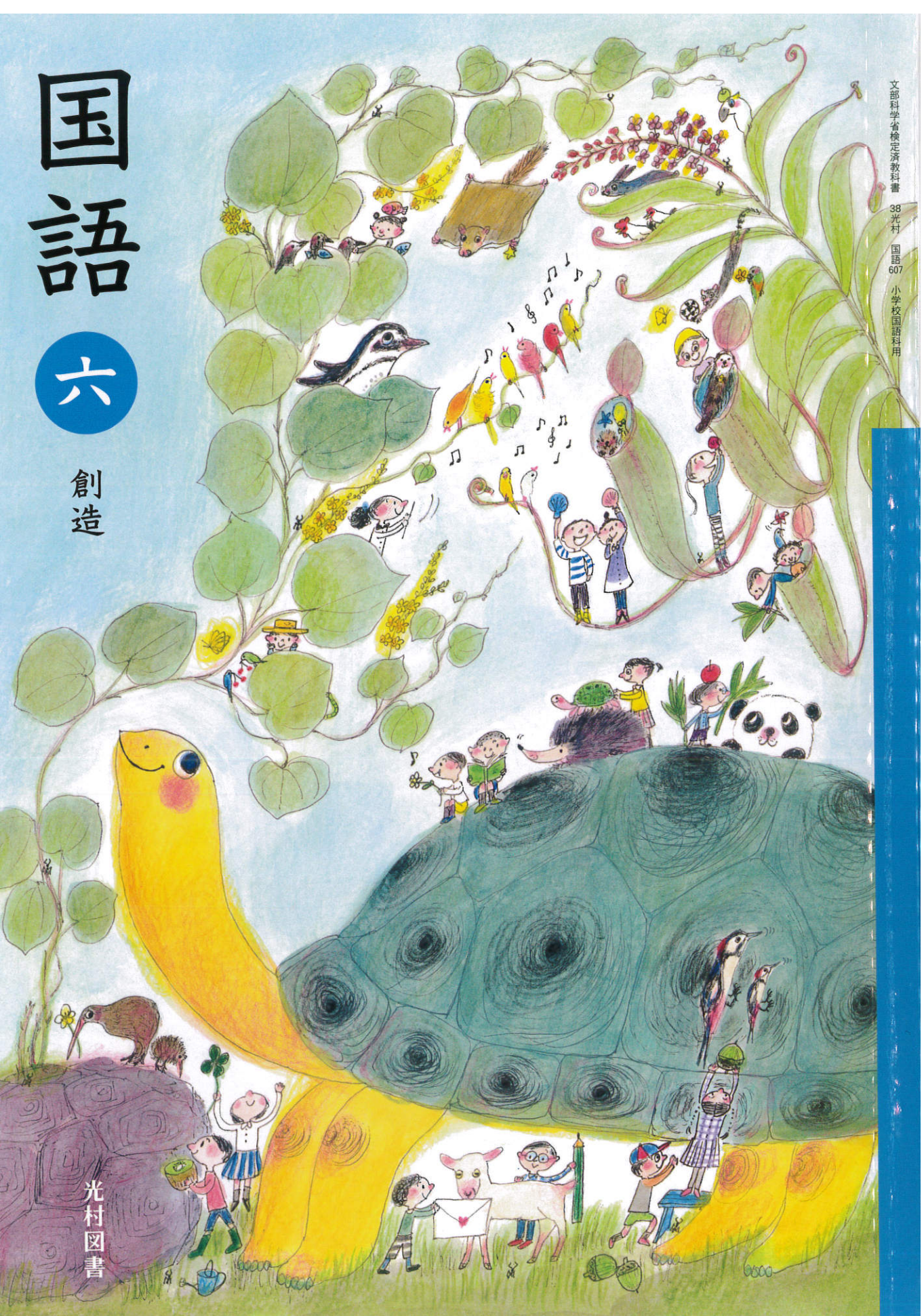


国語

六

創造





この本で学習するみなさんへ

この本では、次の印が使われています。



話したり聞いたりしましょう。



書きましょう。



読みましょう。



言葉の学習をしましょう。



覚えておきましょう。他の学習や生活の中でも役に立ちます。



国語の学習に用いる言葉を確認しましょう。



学習を進めるときに気をつけることなどをまとめています。



音声を聞いて、学習しましょう。



学習に関係のあるページを示しています。

文字や言葉の印

- 新しく学習する漢字。
- 読み方が新しい漢字。
おん かたかな
音は片仮名で、訓は平仮名で示してあります。



この印があるところには、学習の助けとなる資料があります。読み取る際には、必ず、先生や保護者の方と、いっしょに行いましょう。

国語

六

創造



一まいの紙から、

船が生まれる。飛行機が生まれる。

ひとかたまりのねん土から、

象が生まれる。つぼが生まれる。

生まれる、生まれる。

わたしたちの手から次々と。

目次

六年生の国語の学びを見わたそう

情報 ものの考え方、伝え方

つないで、つないで、一つのお話 話す・聞く

春の河 山村暮鳥 / 小景異情 室生犀星 読む

続けてみよう

① 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう 読む

帰り道 森 絵都

本は友達 地域の施設を活用しよう

言葉 漢字の形と音・意味

聞いて、考えを深めよう 話す・聞く

② 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう 読む

〈練習〉笑うから楽しい 中村 真

時計の時間と心の時間 一川 誠

情報 主張と事例

言葉 話し言葉と書き言葉

たのしみは 書く

言葉 文の組み立て

天地の文 福澤 諭吉

情報 情報と情報をつなげて伝えるとき

68

66

64

60

58

57

48

45

40

36

34

17

16

14

12

11

6





私たちにできること **書く**

本は友達

私と本……

森へ 星野道夫……

83 78



詩を味わおう **読む**

せんねん まんねん まど・みちお……

92

いちばん大事なものは **話す・聞く**

利用案内を読もう **読む**

言葉 熟語の成り立ち……

100 96 94



3 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう **読む**

やまなし 宮沢賢治……

【資料】イーハトーヴの夢 畑山博……

言葉 言葉の変化……

128 115 103



みんなで楽しく過ごすために **話す・聞く**

コラム 伝えるにくいことを伝える……

4 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう **読む 書く**

『鳥獣戯画』を読む 高畑勲……

情報 調べた情報の使い方……

日本文化を発信しよう……

153 152 141



古典芸能の世界——演じて伝える……

カンジ―博士の漢字学習の秘伝……

5 伝統文化を楽しもう 読む

5 狂言 柿山伏

「柿山伏」について 山本 東次郎……

大切にしたい言葉 書く

詩の楽しみ方を見つけよう 読む

詩を朗読してしようかいしよう……

言葉 仮名の由来……

6 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう 読む

メディアと人間社会 池上 彰……

大切な人と深くつながるために 鴻上 尚史……

「資料」プログラミングで未来を創る 石戸 奈々子……

言葉 漢字を正しく使えるように……

人を引きつける表現……

思い出を言葉に 書く

今、私は、ぼくは 話す・聞く

160 158

174 163

176

184

186

189

193

199

201

204

208

212





7 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう **読む**

海の命 立松 和平……………217

卒業するみなさんへ

中学校へつなげよう……………233

生きる 谷川 俊太郎……………236

今、あなたに考えてほしいこと 中村 桂子……………240

季節の言葉 春 38 夏 76 秋 130 冬 182

漢字の広場 ① 44 ② 102 ③ 140 ④ 162 ⑤ 181 ⑥ 216

付録 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……………248

課題の見つけ方、調べ方……………252

考えを図で表そう……………254

言葉を使って伝えるときには……………256

言葉の交流……………258

敬語……………260

ローマ字の表……………261

対話を通して学び合う……………262

デジタル機器を使って、……………264

プレゼンテーションをしよう……………264

本の世界を広げよう……………265

いかだ……………270

平和のとりでを築く……………276

時代をこえて伝わる古典……………282

六年間に習う漢字……………284

この本で習う漢字……………297

表彰状……………306

言葉の宝箱……………307



六年生の

国語の学びを 見わたそう

これから国語の学習が始まります。
みんなで考え、学びを深めていくために、
六年生で学ぶことを確かめましょう。
学習の進め方と、

学習の進め方

初めに

「やってみたい。」「考えてみたい。」
「こうすればうまくいきそう。」
「どうして——だろう。」



読む

書く

話す・聞く



ふりかえる

「こんな言葉の力がついた。」
「考えが深まった。」
「もっとみんなで考えたい。」



学習や生活にいかす

「——のときに、
いかすことができそう。」
「——のときに、
この言葉を使おう。」



六年生で学ぶことを確かめたり、学習したことをふり返ったりして、言葉の力を高めていきましょう。

つないで、つないで、一つのお話…… 12

聞いて、考えを深めよう…… 40

聞いて、考えを深める

いちばん大事なものは…… 94

みんなで楽しく過ごすために…… 132

目的や条件に応じて、計画的に話し合う

今、私は、ぼくは…… 212

資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝える

五年生の学びを確かめよう

決める 集める

- 目的や意図に合わせて、伝えたいことや自分の考えなどを観点を分けて書き出す。
- 事実と感想、意見とを区別する。
- 「初め」「中」「終わり」などの構成を考える。

準備する

- 自分の体験や調べた事実など、具体的な理由を入れて話す。
- 図表などを資料にまとめて提示する。
- 相手の意図をとらえて、話の要点をまとめたり、内容を確認したりする。
- 質問を通してたがいの考えをよく聞き、共通点や異なる点をはっきりさせる。
- 目的や条件、進行計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりする。

話す・聞く

話し合う

- 話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことを伝え合う。

聞く

話す

たのしみは…… 60

言葉を選んで、短歌を作る

私たちにできること…… 70

提案する文章を書く

日本文化を発信しよう…… 153

伝えたいことに合わせた構成を考える

大切にしたい言葉…… 176

考えたことや感じたことを伝える

推敲

思い出を言葉に…… 208

伝えたい思いを明確にして書く

五年生の学びを確かめよう

決める 集める

- 目的や意図に応じて、読み手に伝えたい情報は何かを考えて、書く内容をしぼる。
- 集めた情報の中から、伝えたいことに合う理由や根拠を選び、その適切さを確かめる。
- どこに何が書かれているかが分かりやすいように、段落の分け方を工夫する。
- 「初め」と「終わり」で自分の考えをはっきりと述べ、「中」でその理由や根拠を複数示すなどすると、説得力が増す。
- 実際にあったことや、その記録（具体例・引用など）と、自分の考えを区別して書く。
- 写真や図表と文章とを対応させて書く。
- 書いたものを読み返し、よりよい構成や表現がないかを考え、書いたものを整える。
- 分かりやすいところや、説得力があると思った書き方を中心に伝え合う。

組み立てる

書く

つなげる



説明する文章

笑うから楽しい……………45

時計の時間と心の時間……………48

✎ 筆者の主張と、それを支える事例をとらえる

利用案内を読もう……………96

『鳥獣戯画』を読む……………141

✎ 筆者の考えと表現の工夫をとらえる

メディアと人間社会……………189

大切な人と深くつながるために……………193

✎ プログラミングで未来を創る

✎ 複数の文章を読んで考えたことを交流する

今、あなたに考えてほしいこと……………240

物語・詩

春の河／小景異情……………14

帰り道……………17

✎ 視点のちがいに着目して、人物像をとらえる

視点

せんねん まんねん……………92

やまなし

✎ 『資料』イーハトーヴの夢

✎ 作品の世界をとらえる

狂言 柿山伏／「柿山伏」について……………163

詩を朗読してしようかいしよう……………184

海の命……………217

✎ 物語の読みを広げる

生きる……………236

言葉の使い方

漢字の形と音……………36

意味……………36

話し言葉と書き言葉……………58

文の組み立て……………64

熟語の成り立ち……………100

言葉の変化……………128

カンジー博士の漢字学習の秘伝……………160

仮名の由来……………186

漢字を正しく使えるように……………201

人を引きつける表現……………204

漢字の広場①⑥……………204

情報

ものの考え方、伝え方……………11

主張と事例……………57

情報と情報をつなげて伝えるとき……………68

調べた情報の使い方……………152

著作権……………152

受けつがれる言葉

天地の文……………66

古典芸能の世界……………158

季節の言葉……………158

春・夏・秋・冬……………158

読書

地域の施設を活用しよう……………34

私と本……………78

✎ 自分と本との関わりについて考える……………78

森へ……………83

五年生の学びを確かめよう

説明する文章

とらえる

- ・初めや終わりに書かれていて、筆者の考えから、要旨をとらえる。
- ・取り上げている事例や理由にも、筆者の考えが表れる。

物語・詩

- ・人物の関係を、言動や心情が分かる表現からとらえる。
- ・人物の関係が変化するきっかけとなる出来事に着目する。

ふかめる

説明する文章

- ・図表やグラフ、絵、写真などを、それぞれ文章と対応させて読む。
- ・筆者の考えと事例や資料が、どう結び付いているかを整理しながら読む。

物語・詩

- ・言動や心情を表す複数の表現から、人物像を想像する。
- ・心情を情景によって想像させるなど、さまざまな表現の工夫に着目して読む。

まとめる

- ・自分の知識や経験と重ねながら読むことで、自分の考えを明確にする。

ひろげる

- ・読んだ感想や考えを伝え合い、たがいの感じ方のちがいを明らかにすることで、新たなものの見方・考え方に会うことができる。





考えるときに使おう

ものの考え方、伝え方

物事をいろいろな見方や考え方で整理したら、次のような言葉を使って伝えましょう。

観点を決めて整理し、

伝える

■順序立てる

初めに—。
次に—。

■分ける

—という点で
分けると—。

■比べる

—という点で比べる
と—。

関係を明らかにし、

伝える

■全体と中心

言おうとしている
ことは全体とし
て—。

■考えと、
その理由や事例

理由は—。

例えば—。

具体的には—。

■原因と結果

—が起きた原因は
—。

—によって—。

—から—という結
果になった。

考えをつなぎ、
伝える

■考えをつなげる、広げる

—とつなげて
考えると—。

—と関連する
のは—。

「考えを図で表そう」

 254ページ

自分の見方や
考え方が、よく
伝わる言葉は、
どれだろう。





言葉の準備運動

つないで、つないで、

一つのお話

友達と協力して、お話を考えてみませんか。

五、六人のグループで輪になり、一文ずつ順につないで、二周する間に一つのお話を作りましょう。どんなお話ができるでしょう。

ある小学校に、大きな木がありました。

その木に、三羽の小鳥がすんでいました。

ええっと



1 これから作るお話の、最初の一文と、最後の一文を決めよう。

〈例〉

【最初の一文】

今日は運動会です。

【最後の一文】

道にりんごが落ちていました。

2 グループで、最初の一文と最後の一文を言う役をそれぞれ決めよう。



わたしから始めて、時計回りにならう。

ぼくが、最後の一文を言う役だね。

3 一人目から順番に、一文ずつお話を つないでいこう。

たろうさんは、上手にダンスが できるか心配でした。

今日は運動会です。



4 最後の人は、決めておいた最後の一文を 言って終わろう。

道にりんごが落ちていました。



音の聞こえた方を見てみました。

5 できたお話を みんなに発表して、感想を 伝え合おう。

- 前の人の話をよく聞いて、楽しくお話を続ける。
- あまり考えすぎずに、思いうかんだことを一文で言う。

もつと楽しもう

- 最初と最後の一文を、入れかえたり、自由に考えたりする。
- 三周、四周とつないだり、クラス全員で一つのお話をつないだりする。

友達とお話を作って、どう感じましたか。



詩を楽しもう

春の河

(たつぶり)
たつぶりと

春は

小さな川々まで

あふれてゐる^(い)

あふれてゐる^(い)

5

やまむら
山村
ぼちよう
暮鳥





小景異情い

室生犀星むろう さいせい

あんずよ

花着け

地ぞ早はやかに輝かがやけ

あんずよ花着け

あんずよ燃えよ

5

学習

● 二つの詩から、どんな春の景色が広がりますか。
友達と音読を聞き合って、話しましょう。

植田真絵うえだ まこと



この本、読もう

おーい ぽぽんた

続けてみよう

気になる

ニュースを

集めよう

小学校最後の一年が始まります。社会で起きていることに興味をもち、気になったニュースを一年間、書きためましょう。あなたの世界を広げる、大切な記録になるでしょう。

書いたものを話題にして、朝の会などでスピーチをしてもいいですね。

5

日づけ

日本人宇宙飛行士、
国際宇宙ステーションへ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ニュースの内容を書き。新聞記事があれば、切りぬいてはっておく。

○年○月○日

日本人が国際宇宙ステーションの船長になると聞いて、うれしくなった。いつか、だれもが宇宙を旅行できるようになるといいと思った。

ニュースについての感想や意見を、二、三文で書く。

大好きな宇宙についてのニュースがあった。書き留めておこう。



5



視点のちがいに着目して読み、
感想をまとめよう

これまでの学習

 五年生の学びを確かめよう
(物語・詩)

9ページ

帰り道

1

あなたは、毎日、どんな帰り道の時間を過ご
していますか。「律」と「周也」にとって、今
日の帰り道はどのようなものになるのでし
ょうか。



帰り道

森 絵都 作

スカイエマ 絵

放課後のさわがしい玄関^{げん}口で、いきなり、周也から「よっ。」と声をかけられて、どきっとした。

「あれ。周也、野球の練習は。」

「今日はなし。かんとか、急用だった。」

うわばきをぬぎながら周也が言って、くつしたにぽっかり空いた穴から、やんちゃそうな親指をのぞかせた。その指をスニーカーにおさめても、周也はなかなか歩きだそうとしない。どうやら、いっしょに帰る気のようにだ。



5

○穴^{あな}

○視^シ点

小四から同じクラスの周也。家も近いから、周也が野球チームに入るまでは、よくいっしょに登下校をしていた。なのに、今日のぼくには、周也と二人きりの帰り道が、はてしなく遠く感じられる。

もたもたとくつをはきかえて外へ出ると、五月の空はまだ明るく、グラウンドに舞う砂ぼこりを西日がこがね色に照らしていた。

「ああ、腹へった。今日の夕飯、何かなあ。あしたの給食、何かなあ。」

「な、律。昨日の野球、見たか。」

「夏休みまで、あと何日だったっけ。」

周也の話があちこち飛ぶのは、いつものこと。なのに、今日のぼくにはついていけない。まるでなんにもなかったみたいに、周也はふだんと変わらない。ぼくだけがあのことを引きずっているみたいで、一步前に行く紺色のパーカーが、どんだんにくらしく見えてくる。

今日の昼休み、友達五人でしゃべっているうちに、「どっちが好き。」って話になった。「海と山は。」「夏と冬は。」「ラーメンとカレーは。」「歯ブラシのかたいのと

やわらかいのは。——みんなで順に質問を出し合い、「海」「海」「山」「海」と、ぼんぼん答えていく。そのテンポに、ぼくだけついていけなかった。「どっちかなあ。」とか、「どっちもかな。」とか、一人でごによごによ言っていたら、周也が急にいらついた目でぼくをにらんだんだ。

「どっちも好きってのは、どっちも好きじゃないのと、いっしょじゃないの。」

先のがったするどいものが、みぞおちの辺りにずきっとささった。そんな気がした。そのまま今もささり続けて、歩いてても、歩いてても、ふり落とせない。

返事をしないぼくに白けたのか、周也の口数もしだいに減って、大通りの歩道橋をわたるころには、二人してすっかりだまりこんでいた。階段をのぼる周也と、ぼくとの間に、きよりが開く。広がる。ここ一年でぐんと高くなった頭の位置。たくましくなった足どり。ぼくより半年早く生まれた周也は、これからもずっと、どんなこともテンポよく乗りこえて、ぐんぐん前へ進んでいくんだろう。

はあ。声にならないため息が、ぼくの口からこぼれて、足元のかげにとけていく。どうして、ぼく、すぐに立ち止まっちゃうんだろう。思っていることが、

なんて言えないんだろう。ぼくは海のこんなところが好きだ。山のこんなところも好きだ。その「こんな」をうまく言葉にできたなら、周也とちゃんとかたを並べて、歩いていけるのかな。「どっちも好き」と「どっちも好きじゃない」がいつしよなら、「言えなかったこと」と「なかったこと」もいつしよになっちゃうのかな。考えるほどに、みぞおちの辺りが重くなる。

市立公園内の遊歩道にさしかかったころには、ぼくは周也に三步以上もおくれをとっていた。もうだめだ。追いつけない。あきらめの境地でぼくは天をあおいだ。信じがたいものを見たのは、そのときだった。

10

5



空一面からシャワーの水が降ってきた。

もちろん、そんなわけはない。なのに、なぜだかとききにプールの後に浴びるシャワーがうかんだのは、公園の新緑がふりまく初夏のにおいのせいかもしれない。

「うおっ。」

「何これ。」

頭に、顔に、体中に打ちつける水滴てきを雨と認めるのには、少し時間がかかった。晴れているのに雨なんて、不自然すぎる。ぼくと周也はむやみにじたばたし、意味もなくとんだりはねたりして、またたく間に天気雨が通り過ぎていくと、たがいのぬれた頭を指さし合って笑った。

本当に、あつというまのことだったんだ。ざざっと水が降ってきて、何かを洗い流した。周也の気どった前がみがぺたっとなったのがゆかいで、ぼくはさんざん腹をかかえ、気がつくつと、みぞおちの異物が消えてきた。

単純すぎる自分はずかしくなったのは、笑いの大波が引いてからだ。うっかり

○異物
○単純

○洗い流す

○認める

○初夏

○降る



はしゃいだばつの悪さをかくすように、ぼくはすつと目をふせた。アスファルトの水たまりに西日の反射がきらきら光る。そのまぶしさに背中をおされるように、今だ、と思った。今、言わなきゃ、きっと二度と言えない。

「ぼく、晴れが好きだけど、たまには、雨も好きだ。」

勇気をふりしぼったわりには、しどろもどろのたよりない声が出た。

「ほんとに両方、好きなんだ。」

周也はしばしばたきを止めて、まじまじとぼくの顔を見つめ、それから、こっくりうなずいた。周也にしてはめずらしく言葉がない。なのに、分かってもらえた気がした。

「行こっか。」

「うん。」

ぬれた地面にさつきよりも軽快な足音をきざんで、ぼくたちはまた歩きだした。

何もなかったみたいにするまえは、何もなかったことになる。そんなあまい考えをすてたのは、校門を出てから数分後、最初の角を曲がった辺りだった。どんなに必死で話題をふっても、律はうんともすんとも言わない。背中に感じる気配は冷たくなるばかり。やっぱり、律はおこってるんだ。そりゃそうだ。

昼休み、みんなで話をしていたとき、はっきりしない律にじりじりして、つい、言わなくてもいいことを言った。軽くつつこんだつもりが、律の顔を見て、重くひびいてしまったのが分かった。まずい、と思うも、もうおそい。以降、絶対にぼくの顔を見ようとしないうるのことが気になって、野球の練習を休んでまで玄関口で待ちぶせをしたのに、いざ並んで歩きだすと、気まずいちゃんもくにたえられず、またぺらぺらとよけいなことばかりしゃべっている自分がいた。

「この前、給食でプリンが出てから、もうずいぶんたつよな。」

「むし歯が自然に治ればなあ。」

「山田んちの姉ちゃん、一輪車が得意なの、知ってたか。」

何を言っても、背中ごしに聞こえてくるのは、さえない足音だけ。ぼくがしゃべればしゃべるほど、その音は遠のいていくような気がする。

ふいに母親の小言が頭をかすめたのは、下校中の人かげがあっちへこっちへ枝分かれして、道がすいてきたころだった。

「周也。あなた、おしゃべりなくせして、どうして会話のキャッチボールができないの。会話っていうのは、相手の言葉を受け止めて、それをきちんと投げ返すことよ。あなたは一人でぼんぼん球を放っているだけで、それじゃ、ピンポンの壁打ちかべといっしょ。」

ピンポン。なんだそりゃ、とそのときは思ったけど、今、こうして壁みたいただまりこくっている律を相手にしていると、その意味が分かるような気がしてくる。たしかに、ぼくの言葉は軽すぎる。ぼんぼん、むだに打ちすぎる。もっとじっくりねらいを定めて、いい球を投げられたなら、律だって何か返してくれるんじゃないか。

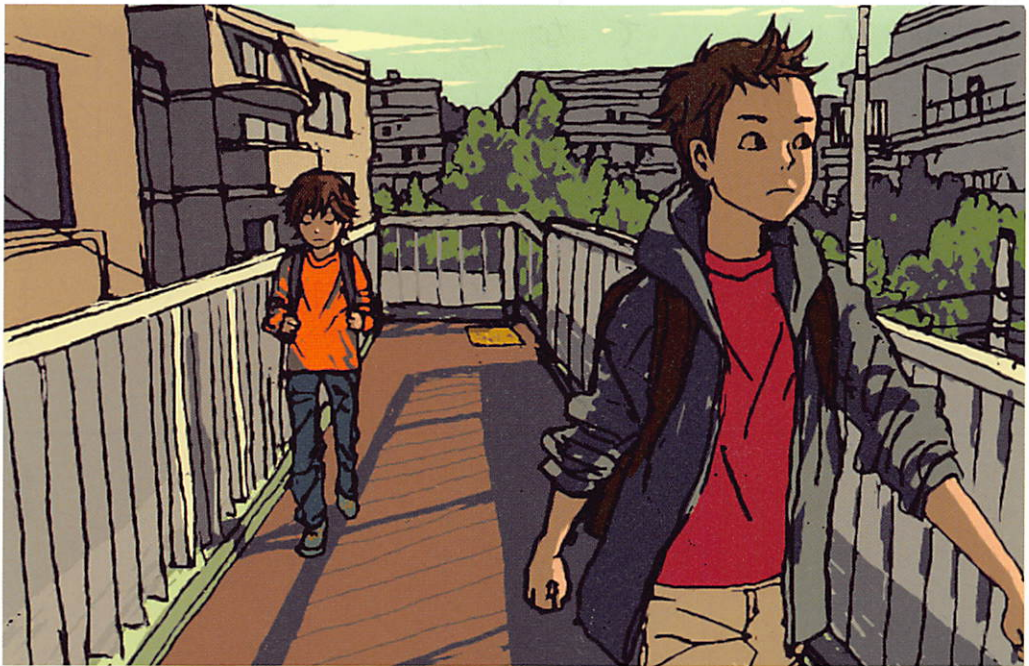
でも、いい球って、どんなのだろう。考えたとたんに、舌が止まった。何も言えない。言葉が出ない。どうしよう。あわてるほどにぼくの口は動かなくなっていて、逆に、足は律からにげるようにスピードを増していく。

無言のまま歩道橋をわたった先には、しかも、市立公園が待ち受けていた。道の両側から木々のこずえがたれこめた通り道。ひとごえ人声も、車の音も、工事の騒音そごも聞こえない緑のトンネル。ぼくはこの静けさが大の苦手だった。

正確にいうと、だれかといるときにちんもくが苦手だ。たちまち、そわそわと落ち着きをなくす。何か言わなきゃってあせる。野球チームに入る前、律とよくいっしょに帰っていたころも、ぼくはこの公園を通りかかるたび、しんとした空気をかきまぜるみたいに、

10

5



ピンポン球を乱打せずにはいられなかった。律のほうはちんもくなんてちつとも気にせず、いつだって、マイペースなものだったけど。

そつと後ろをふり返ると、やっぱり、今日も律はおつとりと一步一步をきざんでいる。まぶしげに目を細め、木もれ日をふりあおぐしぐさにも、よゆうが見てとれる。ぼくにはない落ち着きつぶりに見入っていると、とつぜん、律の両目が大きく見開かれた。

なんだ、と思う間もなく、ぼくのほおに最初の一滴が当たった。大つぶの水玉がみるみる地面をおおっていく。天気雨——頭では分かっているながらも、ピンポン球のことばかり考えていたせい、空からじゃんじゃん降ってくるそれが、ぼくの目には一しゅん、無数の白い球みたいにうつつたんだ。

ぼくがむだに放ってきた球の逆襲。^{しやう}「うおっ。」と思わずとび上がったら、後ろからも「何これ。」と律の声がして、ぼくたちは全身に雨を浴びながら、しばらくの間はたばたと暴れまくった。はね上がる水しぶき。びしょぬれのくつ。たがいのあわてつぶり。何もかもがむしようにおかしくて、雨が通りすぎるなり、笑い

があふれだした。律もいっしょに笑ってくれたのがうれしくて、ぼくはことさらに大声をはり上げた。

はっとしたのは、爆発的な笑いが去った後、律が急にひとみを険しくしてつぶやいたときだ。

「ぼく、晴れが好きだけど、たまには、雨も好きだ。ほんとに両方、好きなんだ。」
たしかに、そうだ。晴れがいいけど、こんな雨なら大かんげい。どっちも好きってこともある。心で賛成しながらも、ぼくはとっさにそれを言葉にできなかつた。こんなときにかぎって口が動かさず、できたのは、だまっとうなずくだけ。なのに、なぜだか律は雨上がりみたいなおねがひにもどって、ぼくにうなずき返したんだ。

「行こっか。」

「うん。」

しめった土のにおいがただようトンネルを、律と並んで再び歩きだしながら、ひよっとして——と、ぼくは思った。投げそこなった。でも、ぼくは初めて、律の言葉をちゃんと受け止められたのかもしれない。

10

5

森 絵都

一九六八年、東京

都生まれ。作家。

「D DiveIVE!!」「 グラスメイツ」などの作品がある。





見通しをもとう

視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

- 登場人物の心情を想像しながら音読しよう。
- 視点のちがいに着目し、登場人物の心情や人物像をとらえよう。



視点

物語などで、語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。

309ページ

とらえよう

- この物語は、「律」の視点から書かれた「1」と、「周也」の視点から書かれた「2」で構成されている。同じ出来事に対する、それぞれのとらえ方や心情を確かめよう。
- 共通点と異なる点は何か。
- 「1」と「2」を合わせることで読み取れることは何か。
- 登場人物の心情が伝わるように音読しよう。

1

5

ふかめよう

- 「律」と「周也」は、どのような人物だろう。
- 「律」と「周也」、それぞれが思う自分自身。
- 「律」から見た「周也」と、「周也」から見た「律」。
- あなたから見た「律」と「周也」。
- 「律」と「周也」はそれぞれ、「言葉」や「言葉にすること」

2

10

1 二つの視点からとらえる

次の場面について、「律」と「周也」それぞれのとらえ方や心情をまとめるとよい。

- 「周也」が一人でしゃべり続けているとき
- 昼休みの出来事
- 二人ともだまりこんでしまったとき
- 天気に雨が降られたとき
- 雨が上がリ、二人で歩き始めたとき

2 人物像をとらえる手がかり

様子や心情を直接表す言葉とともに、次のような点も人物像を想像する手がかりとなる。

- それぞれの人物が見ているものと、その表し方
- 会話文や心内語(心の中で言っていること)
- 情景を表す言葉

など

10

5



ふりかえろう

- 知る 心情が伝わるように音読するために、どのようなことに気をつけましたか。
- 読む どのようなことを手がかりにして、人物像をとらえましたか。
- つなぐ あなたが考えるこの作品のいちばんのみりよくは、何だと思いますか。

異なる

ひろげよう

● 書いたものを読み合い、友達の感想について、思ったことや感じたことを伝え合おう。

10

まとめよう

● 物語全体を読み深めることで、どのようなことを感じたり、考えたりしただろう。観点を決めて感想を書こう。

3

- 「ぬれた地面に——ぼくたちはまた歩きだした。」(24ページ12行目)と、「しめった土のおいが——受け止められたのかもしれない。」(29ページ12行目)には、「律」と「周也」のどんな心情の変化が表れているだろうか。
- この後、二人の関係はどのように変化すると思うか。考えたことを友達と話そう。

5

3 感想を書く観点の例

〈内容に着目して〉

- ・ 「律」と「周也」の言動や考え方、二人の関係の変化を、自分の経験と重ねて。
- ・ 物語をきっかけにして、「言葉」について考えたこと。

〈書かれ方に着目して〉

- ・ 言葉の使い方や表現で、特に印象に残っていること。
- ・ 視点を変えて書かれた「1」と「2」という構成によって、物語にどんな効果が表れているか。



10

5



たいせつ

視点のちがいに着目して、
人物像をとらえる

● 人物の様子や行動を表す言葉、会話文などから、その人物のものの見方や考え方を想像する。

● 語られる視点によって、人物の見え方はちがってくる。

● 自分と比べながら読むことで、人物像を深くとらえることができる。



いかそう

物語を読むときには、人物を表す言葉が、だれの視点から語られているのかに着目しましょう。

10

5

この本、読もう

視点や構成を効果的に用いた

物語は、たくさんあります。「帰り道」のように、一つの出来事を複数の立場からえがいたものや、一つの物事について、さまざまな人物がそれぞれの立場で語るものなど、その手法も多様です。

また、一人の視点からえがかれた物語を、他の登場人物の視点からとらえ直すとうどうだろうか、想像してみるのも楽しいものです。だれの視点で語られているのか、別の視点から見るとどうなのかなど、視点に着目して物語を楽しんでみましょう。

10

5



付録

「いかだ」

↓
270ページ

異
こと

視
シ

純
ジュン

穴
あな

射
シヤ

砂
すな

背
ハイ

腹
はら

舌
した

段
ダン

乱
ラン

並
なみ

降
コウ

認
みとめる

洗
セン



流れ星キャンプ
圭太はキャンプがきっかけで、おじいさんと、入院中の明里に出会う。そして、三人にきずなが生まれる。

糸子の体重計
食べるのが何より好きな糸子。いつも本音で全力の糸子をめぐる、クラスメイトの心の内や変化をえがく。

なみだの穴
海に開いた穴を見つけた光太が「なんだあれ？」とつぶやいたとたん、なみだが止まらなくなってしまう。

10

5

日付	読んだ本	作者・筆者
4月23日	どうぶつさいばん ライオンのしごと	たけたづみのる 竹田津実
<p>《ひとこと》 ヌーの母親を殺したライオンが、うったえられる。 ----- さまざまな動物の証言を通して、ライオンのした ----- ことの意味が明らかになるところがよい。 -----</p> <p>(おすすめ度 ★★★★★)</p>		

本を読んだら、記録を付けましょう。

おすすめ度のらんには、だれかにすすめたい気持ちを、5段階程度で書きましょう。

地域の施設を活用しよう

さがしている本や、知りたい情報が学校図書館にないときには、公共図書館をはじめとした、地域の施設を活用しましょう。

■ 公共図書館



広い館内には、多様な資料が所蔵されている。コンピュータで蔵書を検索できるところも多い。



地域にゆかりの作家のコーナー。

■ 文学館

物語の作者や作品について深く知りたいときには、文学館に行ってみましょう。一人の作家を中心にあつかったところや、地域にゆかりのある作家や作品を集めたところなど、さまざま文学館があります。



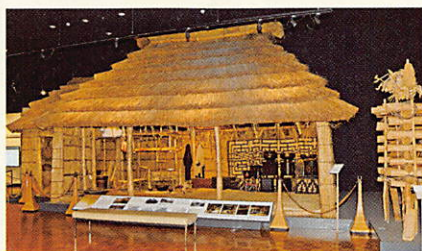
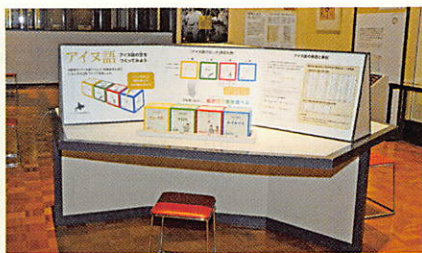
写真や年表、手紙などの資料から、作家の人生を知ることができる。

この地域をぶたいにした作品があるんだ。読んでみたいな。



所蔵ゾウ地域イキ





歴史や文化、芸術、産業、自然科学などについて深く知りたいときには、博物館や資料館、美術館などに行くとよいでしょう。

■ 博物館・資料館

館内には、展示パネルや、実物模型、パンフレットなどのさまざまな資料がある。また、小学生向けの展示やイベントを通じて、実際に体験しながら知識を得られる施設もある。

域

イキ

蔵

ソウ

展

テン

訪

ホウ
たずねる

記録カード

4月25日

• 調べること
人間が初めて宇宙に行ったのは、いつか。

• 分かったこと
「1961年4月12日、ソ連のパイロット、ユーリ・ガガーリンが人類史上初めて宇宙飛行を行った。」 (108ページ)

• 出典「よく分かる世界の歴史」
高本正秋 監修
ひかり社、2018年

• 出典 ○○宇宙科学館
展示資料「宇宙飛行の歴史」
2020年4月15日訪問

■ 調べて分かったことを、書き留めておこう

▼ あなたの住む地域には、どんな施設があるでしょう。それは、どんなときに利用するとよいでしょうか。

その他、水族館や動物園などでは、実際の生き物を見て、その生態を知ることができます。

5

○ 訪問
○ 展示

漢字の形と音・意味 おん

同じ部分で同じ音

- 我々の要求が認められた。
- プロ野球のリーグ戦が始まる。
- けが人は、無事に救助された。

「求」「球」「救」は、漢字の形に着目すると、「求」の部分が共通しています。また、どれも「キユウ」と読みます。このように、同じ部分をもつ漢字は、形ばかりでなく音も共通する場合があります。

1 次の各文の□に当てはまる漢字を、() から選びましょう。どの部分が共通で、どんな読み方をしているでしょうか。

10

5

① (化・貨・花)

- 文□を伝承する。
- 校庭の桜が開□した。
- 蒸気機関車が、□物列車を引っ張る。

② (静・清・晴・青)

- 細心の注意をはらって、手紙を□書する。
- 冷□な判断で、物事に対処する。
- あの□年は、銀行に就職した。
- □天なので、洗濯物を干す。

③ (則・側・測)

- 地層の年代を□定する。
- 規□正しい生活をする。
- 箱の□面に名前を書く。

10

5

我々 われ 伝承 シヨウ 蒸気 ジョウキ 細心 サイシン 対処 シヨ 就職 シユウ 干す ホ 地層 ソウ

同じ部分と意味

同じ部分をもつ漢字は、意味のうえでつながりがある場合があります。

イ (ぎょうにんべん)

「行く」や「道」などの意味を表す漢字に使われます。

- ・役所と駅の間を、徒歩で往復する。
- ・母は恩人を招待し、得意料理をふるまった。
- ・裁判官は、法律にもとづいて判断する。

5

我 われ
律 リツ

承 ショウ
脳 ノウ

蒸 ジョウ
臓 ソウ

処 ショ
肺 ハイ

就 シュウ
胃 イ

干 カン
腸 チョウ

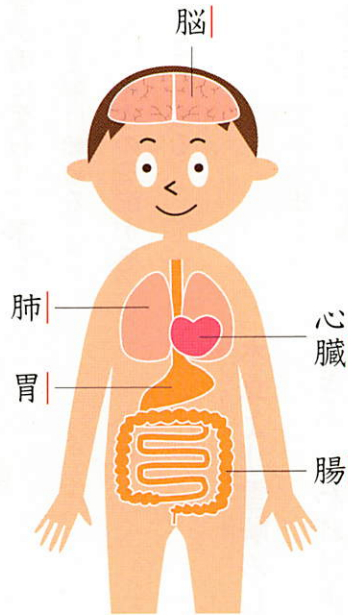
層 ソウ

恩 オン

裁 サイ
さばく

月 (にくづき)

元は「肉」で、体に関係のある漢字に使われます。



2

次の部分をもつ漢字を集め、部分が表す意味を考えた後、漢字辞典で確かめましょう。

「六年間に習う漢字」
284ページ

ハ
オ
ト
リ

5

- 腸 (チョウ)
- 胃 (イ)
- 肺 (ハイ)
- 心臓 (シンゾウ)
- 脳 (ノウ)
- 法律 (リツ)
- 裁判官 (サイバンカン)
- 恩人 (オンジン)

298ページ

春のいぶき

立春 雨水 啓蟄 春分 清明 穀雨 立夏 小満 芒種 夏至

「りっしゅん」

立春

二月四日ごろ



こよみのうえで、春が始まる日。まだ寒さはきびしいが、だんだん日がのび、木々が芽ぶいてくる。

「うすい」

雨水

二月十九日ごろ



降る雪が雨に変わり、深く積もった雪も解け始める。このころから、早春の気配が感じられるようになる。

「けいちつ」

啓蟄

三月六日ごろ



地中で冬眠していた虫がはい出てくるころという意味。春も、もうまもなく本番になるころである。

木立より雪解のしづく落つるおと
聞きつつわれは歩みをとどむ

さいとう 茂吉
斎藤 茂吉



小暑 しょうしょ 大暑 たいしょ 立秋 りっしゅう 処暑 しょしょ 白露 はくろ 秋分 しゅうぶん 寒露 かんろ 霜降 そうこう 立冬 りっとう 小雪 しょうせつ 大雪 たいせつ 冬至 とうじ 小寒 しょうかん 大寒 だいかん

〔しゅんぶん〕

春分

三月二十一日ごろ



昼と夜の長さがほぼ等しくなる。これより後は、昼の時間が長くなっていく。春のひがんの中ちゅうにち日である。

啓蟄あぶの蛇はや花粉まみれかな

星野 立子

〔せいめい〕

清明

四月五日ごろ



気候がしだいに温暖だんになり、すがすがしく、明るい空気に満ちあふれるころ。

掘ほり返す塊つちくれ光る穀雨かな

西山 泊雲

〔こくう〕

穀雨

四月二十日ごろ



いろいろな穀物をうるおし、芽を出させる春の雨という意味。これを過ぎると、いよいよ夏が近づいてくる。

日本では、こよみのうえで季節を二十四に区切っていました(二十四節気)。「春」と

いっても、時期によって、見られる風景はさまざまです。あなたの地域の今の「春」を、俳句はいや短歌に表しましょう。



話す・聞く

話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう

聞いて、考えを深めよう

あなたが友達の話を書くときには、どんなことに気をつけていますか。ここでは、賛成・反対の立場からたがいに意見を出し合う場面を例に、聞き方について考えます。友達の話の内容をとらえて、自分の考えをまとめたり深めたりするには、どうすればよいでしょうか。



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 話題を確かめ、自分の考えを整理する。

準備しよう

2 友達から聞きたいことを考える。

話そう
聞こう

3 意見と理由に気をつけて、グループで聞き合う。
4 考えを深める。

つなげよう

5 話を聞くときに大事なことについて考える。

● ふりかえろう

 7ページ

1 話題を確かめ、自分の考えを整理しよう。

初めに、何について意見を出し合うのかを確かめましょう。それに対して、あなたはどうか考えますか。賛成・反対の立場をはっきりさせて、具体的な理由とともに整理しましょう。

2 友達から聞きたいことを考えよう。

話題に対して、友達はどうのように考えているでしょうか。実際に聞き合う前に、自分の考えに関わって聞きたいことを明らかにしたり、立場がちがうとどんな考えになるかを予想したりしましょう。

3 意見と理由に気をつけて、グループで聞き合おう。

グループで意見を伝え合いましょう。聞くときには、話し手が何を、どのように伝えようとしているのかに注意しましょう。

全員が発言し終えたら、意見と理由の関係が分かりにくかったり、挙げられた事例が適切ではないと感じたりしたことについて、たがいに質問しましょう。

10

5

■話題の例

- ・学習では、シャープペンシルよりもえんぴつを使ったほうがよい。
 - ・学級文庫にまんがを置いてもよい。
 - ・外国の映画は、字幕で見るのがよい。
 - ・スポーツ観戦は、テレビより競技場がよい。
- など

■話を聞くときの観点

- ・どんな理由や事例を挙げているか。
 - ・自分の考えた理由と関係することはあるか。
 - ・自分の考えを補強する考え方はないか。
- など

10

5

○映画
○字幕
○補強

わたしは、学習ではえんぴつを使ったほうがいいという考えに賛成です。


それは、えんぴつのほうが、しんが折れにくく、書いているときに集中できるからです。シャープペンシルも使ったことがあります。しんが折れやすかったです。また、書いているとちゅう

で、しんを出すためにノックボタンをおすのは、少しの間ですが、それまでにしていたことや考えていたことが一度中断された感じがしました。それに比べて、えんぴつは、ずっと書き続けられるので、いいと思います。



4 考えを深めよう。

グループで出た意見をもとに、自分の考えを深めましょう。他の人の意見や理由を自分のものと比べたり、みんなの意見に共通することをさがしたりしましょう。他の人の意見から、自分の意見に取り入れられそうなことも見つけましょう。

 話を聞き取るときに
気をつけたい表現

- つなぎ言葉……つなぎ言葉の後に続く内容が、直前の発言とどのような関係にあるのかが分かる。
- 文末表現……意見を表しているのか、理由を表しているのかを確かめることができる。また、意見や理由の強さも想像できる。

岡田さんは、えんぴつのほうが集中できると言っていた。でも、ぼくは、えんぴつの先が丸くなって、線が太くなってくると、気になってしまう。集中できる事例として、岡田さんが挙げたものは、適切なのかな。



5 話を聞くときに大事なことについて考えよう。

友達の話を聞いたり、それをもとに自分の考えを深めるときには、どのようなことが大事だと思いましたか。みんなで話し合ひましょう。



話し手が、何を話そうとしているかを、初めにおさえることが大事だと思った。

意見の理由や、裏づけになる事例が挙げられているかを、確かめることも必要だね。



ふりかえろう

- 知る 理由と意見を聞き分けるときに、どのような言葉に着目しましたか。
- 話す・聞く 自分の考えを深めるためには、他の人の話をどのように聞くとういいますか。
- つなぐ 自分の考えを伝えるときには、どんな話し方をしたいですか。



聞いて、考えを深める

- 話し手が、目的や話題に沿って意見を述べ、その理由や事例として適切なものを挙げているかどうかを確かめる。
- 自分の考えと比べる、共感したり納得したりできる点を取り入れるなどして、考えを深める。

 いかそう

学級会などで話したり聞いたりするときにも、意見と理由のつながりに気をつけましょう。

裏づけ
浴そう

映

エイ
うつす

幕

マク

補

ホ
おきなう

裏

うら

浴

エン
そう



漢字の広場

5年生で
習った漢字

1

町のあちこちで、いろいろな出来事が起こっています。出来事を記事にして、町の人に伝えましょう。

〈例〉 お寺では、文化財である仏像を、どのように保護していくかについて話しています。





読む

筆者の主張や意図をとらえ、
自分の考えを発表しよう

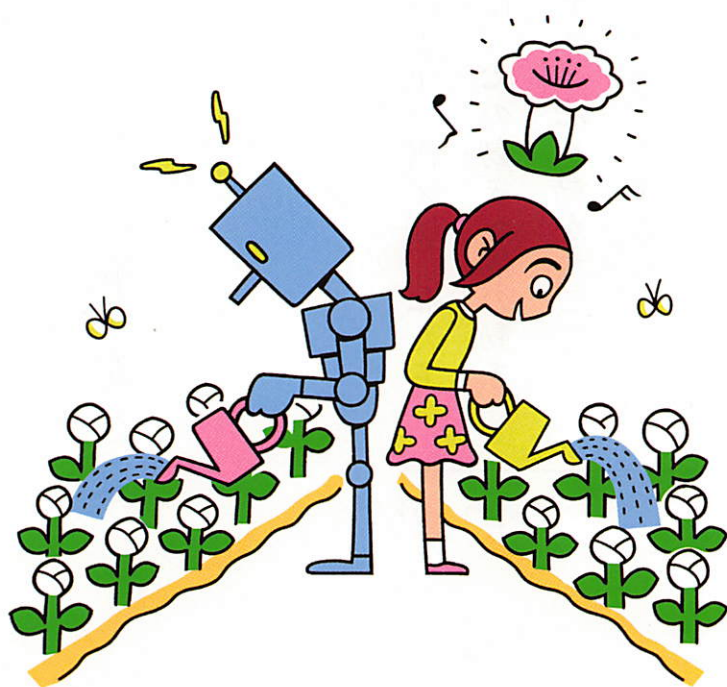
〈練習〉笑うから楽しい

時計の時間と心の時間



情報
主張と事例

私たちの心の動きは、体や時間とどのように
関わっているのでしょうか。日常生活での経験
をふり振り返りながら、読みましょう。



これまでの学習



五年生の学びを確かめよう

(説明する文章) ……………

9 ページ

2

練習 「時計の時間と心の時間」の学習にいかしましょう。

笑うから楽しい

中村真 なかむらまこと

初め

① 私たちの体の動きと心の動きは、密接に関係しています。例えば、私たちは悲しいときに泣く、楽しいときに笑うというように、心の動きが体の動きに表れます。しかし、それと同時に、体を動かすことで、心を動かすこともできるのです。泣くと悲しくなったり、笑うと楽しくなったりするということとです。

② 私たちの脳は、体の動きを読み取って、それに合わせた心の動きを呼び起こします。ある実験で、参加者に口を横に開いて、歯が見えるようにしてもらいました。このときの顔の動きは、笑っているときの表情と、とてもよく似ています。実験の参加者は、自分たちがえがおになっていることに気づいて

5

私 わたし
密接 ミツ

呼び起こす よ

●筆者の考えはこの段落に書かれているだろうか。

ていませんでしたが、自然とゆかいな気持ちになっていました。このとき、脳は表情から「今、自分は笑っている」と判断し、笑っているときの心の動き、つまり楽しい気持ちを引き起こしていたのです。

③ 表情によって呼吸が変化し、脳内の血液温度が変わることも、私たちの心の動きを決める大切な要素の一つです。人は、脳を流れる血液の温度が低ければ、ここちよく感じるのが分かっています。笑ったときの表情は、笑っていないときと比べて、鼻の入り口が広くなるので、多くの空気を取りこむことができます。えがおになって、たくさん空気を吸いこむと、脳を流れる血液が冷やされて、楽しい気持ちが生じるのです。

④ 私たちの体と心は、それぞれ別々のものではなく、深く関わり合っています。楽しいという心の動きが、えがおという体の動きに表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかけるのです。何かいやなことがあったときは、このことを思い出して、鏡の前でにっこりえがおを作ってみるのもよいかもしれません。

10

5

●筆者はどのような事例をもとに、考えを述べているだろうか。

●事例がある場合とない場合とで、読み手の理解はどう変わるだろうか。

●あなたは、この文章を読んで、どう思っただろうか。自分の経験などをふり返りながら考えよう。

呼吸コキユウ

吸ナいこむ

中村 真

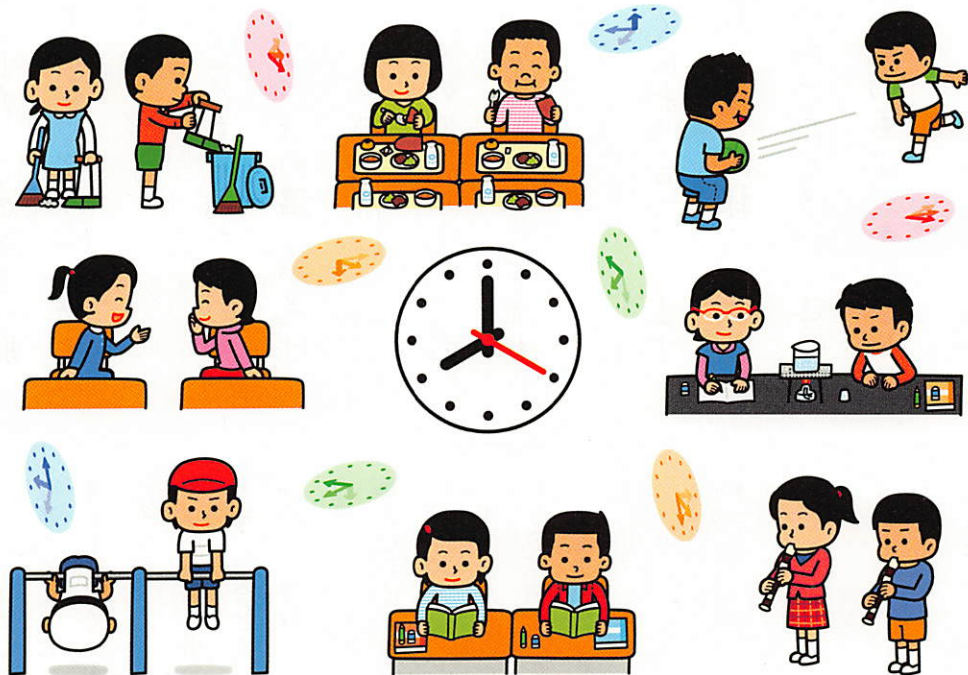
一九六二年、鳥取県生まれ。心理学者。

時計の時間と心の時間

いちかわまこと
一川 誠文

タラジロウ 絵

私たちは毎日、当たり前のように時間と付き合いながら生活しています。みなさんも、全く時計を見ずに過ごす日はないでしょう。そんな身近な存在である「時間」ですが、実は、「時計の時間」と「心の時間」という、性質のちがう二つの時間があり、私たちはそれらと共に生きているのです。そして、私は、「心の時間」に目を向けることが、時間と付き合っていくうえで、とても重要であると考えています。



みなさんが「時間」と聞いて思いうかべるのは、きっと時計が表す時間のことでしょう。私はこれを、「時計の時間」とよんでいます。「時計の時間」は、もととは、地球の動きをもとに定められたもので、いつ、どこで、だれが計っても同じように進みます。しかし、「心の時間」はちがいます。「心の時間」とは、私たちが体感している時間のことです。みなさんは、あつというまに時間が過ぎるように感じたり、なかなか時間がたたないと思ったりしたことはありませんか。私たちが感じている時間は、いつでも、どこでも、だれにとっても、同じものとはいえません。「心の時間」には、さまざまな事からのえいきょうを受けて進み方が変わったり、人によって感覚がちがったりする特性があるのです。

分かりやすい例が、「その人がそのときに行っていることをどう感じているかによって、進み方が変わる」というものです。みなさんも、楽しいことをしているときは時間がたつのが速く、たいくつなときはおそく感じたという経験があるでしょう。このようなことが起こるのは、時間を気にすることに、時間を長く感じさせる効果があるためだと考えられています。例えば、あなたがゲームに夢中

になっているときには、集中しているので、時間を気にする
 回数が減ります。すると、時間はあつというまに過ぎるよう
 に感じます。逆に、きらいなことやつまらなく感じることに
 は、集中しにくくなるので、時間を気にする回数が増えます。
 その結果、時間がなかなか進まないように感じるのです。

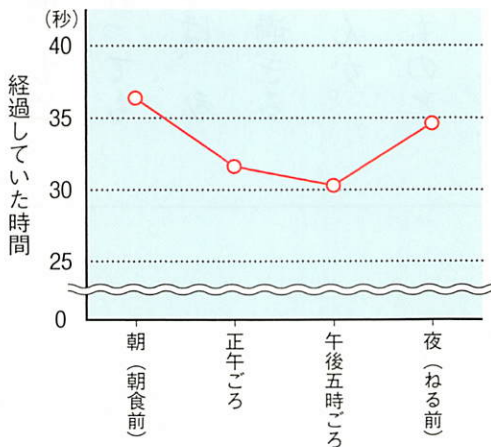
一日の時間帯によっても、「心の時間」の進み方は変わ
 ります。実験①はこの変化について調べたものです。実験の参
 加者に、一日四回、決まった時刻に、時計を見ないで三十秒
 の時間を計ってもらい、そのとき「時計の時間」がどのくら
 い経過していたかを記録してもらいました。実験①のグラフ
 は、それぞれの時刻ごとに、記録の平均を示したものです。
 グラフを見ると、感じた時間は同じ三十秒でも、朝や夜は、
 昼に比べて長い時間がたつていたことが分かります。つまり、
 昼よりも時間が速くたつように感じているということなので

10

5

実験① 時間帯による時間の感じ方の変化

計測した時刻ごとに、複数の参加者の記録を平均し、
 その数値をグラフとして表した。



刺
激

時
刻

す。これは、その時間帯の体の動きのよさと関係があると考
えられています。私たちの体は、朝、起きたばかりのときや、
夜、ねる前には、動きが悪くなります。すると、昼間であれ
ばすぐにできることでも、時間がかかるので、あつというま
に時間が過ぎるように感じるのです。

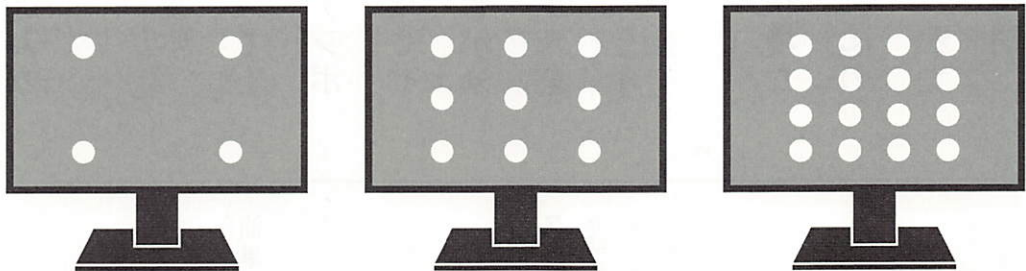
身の回りの環境かんによっても、「心の時間」の進み方は変わ
ります。これは、身の回りから受ける刺激しの多さと関係があ
ります。実験②は、円で表した刺激の数と時間の感じ方との
関わりを調べたものです。複数の参加者に、さまざまな数の
円を、同じ時間、映した画面を見てもらいます。そして、円
の増減によって、円が表示されていた時間をどのくらいに感
じたかを調べました。すると、表示時間が同じでも、円の数
が増えるほど、長く映っていたように感じる傾向けいがあったの
です。このような結果から、例えば、物が少ない部屋よりも

10

5

実験② 刺激の増減による時間の感じ方の変化

灰色の画面に、刺激として白い円を表示する。円の数をさまざまに変えて、
円が表示された時間が、数によってどのくらいに感じたかを調べる。



短く感じる

表示時間は同じ

長く感じる

たくさんある部屋のほうが、身の回りから受ける刺激が多いので、時間の進み方がおそく感じるのではないかと考えられます。

さらに、「心の時間」には、人によって感覚が異なるという特性があります。

ここで、簡単な実験をしてみましょう。机を指でトントンと軽くたたいてみてください。しばらくの間、くり返したたくうちに、自分にとってここちよいテンポが分かってくるでしょう。このテンポは人によって異なるもので、歩く速さや会話での間の取り方といった、さまざまな活動のペースと関わりがあることが分かっています。そして、このペースと異なるペースで作業を行うと、ストレスを感じるといふ研究もあります。みんなと同じことをしていても、私たちは、それぞれにちがう感覚で時間と向き合っているのです。

ここまで見てきたように、「心の時間」は、心や体の状態、身の回りの環境などによって、進み方がちがってきます。また、私たちはそれぞれにちがう「心の時間」の感覚をもっています。そうした、「心の時間」のちがいをこえて、私たちが社会に関わることを可能にし、社会を成り立たせているのが「時計の時間」

10

5

○カシ
○机つくえ

ストレス

外部からの刺激に対して生じる、心や体の反応。

なのです。このことから、「時計の時間」が、私たちにとっていかに不可欠なものであるかが分かります。それと同時に、「時計の時間」と「心の時間」には、必ずずれが生まれることにも気づくでしょう。「心の時間」の感覚のちがいもあわせて考えれば、いつも正確に「時計の時間」どおりに作業し続けたり、複数の人が長い時間、同じペースで作業を進めたりすることは、とても難しいことだと分かります。

このように考えると、生活の中で「心の時間」にも目を向けることの大切さが見えてくるのではないでしょうか。さまざまな事からのえいきょうで、「心の時間」の進み方が変わると知っていれば、それを考えに入れて計画を立てられるでしょう。また、人それぞれに「心の時間」の感覚がちがうことを知っていれば、他の人といっしょに作業するときも、たがいを気づかないながら進められるかもしれません。私たちは、二つの時間と共に生活しています。そんな私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合うちえなのです。

10

5

むずか
。難しい

一川 誠

一九六五年、宮崎

県生まれ。心理学者。

人間がどのように物

事をとらえているか

について、実験を通

して研究している。



見通しをもとう

筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう

- 筆者の主張を伝えるために、どのような言葉が使われているかを確認しよう。
- 筆者の主張と、それを支える事例の関係をとらえ、自分の考えをまとめよう。

とらえよう

- 筆者は、どんな「時間」を、「時計の時間」「心の時間」とよんでいるだろうか。
- 文章全体の構成について確かめよう。
- 筆者は、「心の時間」の特性について、いくつの事例を挙げて説明しているだろうか。
- 筆者の主張は、どの段落で述べられているだろうか。

1

ふかめよう

- 「心の時間」の特性に関するそれぞれの事例について、自分の経験をふり返ったり、実験の結果を確かめたりしながらくわしく読もう。
- 筆者は、なぜ複数の事例を挙げながら、「心の時間」の特性について説明したのだろうか。筆者の主張との

10

5

1 言葉に着目する

筆者は、文章の中で使う、特別な意味をもつ言葉を、最初に明確にすることで、読み手に理解してもらいやすくしている。

- 私はこれを、——とよんでいます。
- ——とは、——のことです。

2 話し合いの例

筆者は、「時計の時間」ではなく、「心の時間」についてだけ事例を挙げているね。これは、きっと——。

筆者は、——ということを読み手に伝えたいのだから、——。



5



ふりがえろう

- 知る 筆者の主張をとらえるために、どのような言葉に着目しましたか。
- 読む 筆者の主張に対して、あなたや友達はどのような考えをもちましたか。
- つなぐ 事例を挙げて説明することには、どんなよさがあると思いましたか。

○疑問

ひろげよう

●「時計の時間と心の時間」に対する、自分の考えを
発表しよう。友達の発表を聞いて、感じたことを伝え
合おう。

3

10

まとめよう

- 筆者の主張に対して、あなたはどのように考えただ
ろうか。自分の考えをまとめよう。
- 筆者の主張のどの部分に、共感・納得^{なっ}したり、疑問
に思ったりしたか。
- それは、自分のどのような経験がもとになってい
るか。

5

関係に着目して、その意図について話し合おう。

2

3 発表の例

私は、「時計の時間と心の時間」を
読んで、人それぞれに「心の時間」の
感覚がちがうことを意識することが大
切だという筆者の主張に、特に共感し
ました。

それは、私にも、友達との「心の時
間」のちがいを感じた経験があるから
です。友達といっしょに給食の準備を
しているとき、――。

この文章を読んで、「心の時間」と
いう考え方ができてよかつ
たと思いました。これからは、――。

自分の
考え

理由や
具体例

まとめ



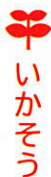
たいせつ

筆者の主張と、それを支える事例をとらえる

● 文章全体の構成を確かめ、主張と事例が、それぞれの部分に書かれているかをとらえる。

● 筆者の主張や挙げられた事例について、自分の経験や知識と関係づけながら読む。

● 何のためにその事例が挙げられているのか、筆者の意図を考える。



いかそう

文章を読むときは、主張と事例がどのように結び付いているかを確かめると、内容を深く理解することができます。

10

5

この本、読もう

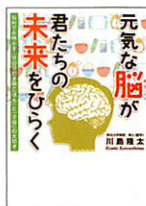
時間や、脳の働きの特性について、いろいろな事例を挙げて説明している本です。



時間の大研究

時間はいつから始まったのか。目には見えない時間の正体とは——。人体や自然界、宇宙に関わる時間についても考えてみよう。

5



元気の脳が君たちの未来をひらく。脳の働きを、研究の結果をもとに解説。朝食、すいみん、学習法など、脳を元気にする方法が分かる。

10



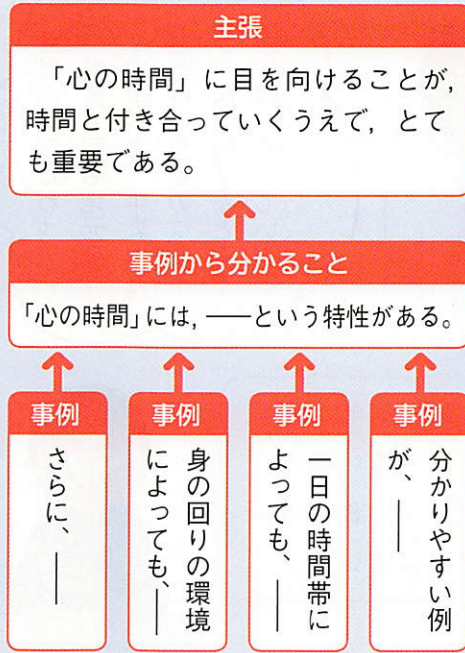
時間ってなに？ 流れるのは時？ それともわたしたち？

時計は同じ速さで進むが、人間が感じる時間の速さは気分によってちがう。「時間」について、考えてみよう。

15

主張と事例

関係をとらえよう



「時計の時間と心の時間」では、「主張」を支える「事例」を挙げて、読み手の理解を助け、主張に説得力をもたせていました。

事例には、実験や調査によって分かったことや、実際の経験や現状にもとづいたことなどがありません。話したり書いたりするときは、相手にとって分かりやすい事例を挙げましょう。また、「主張と事例」の関係をふまえて、話や文章を構成することも大切です。

▼次の話題について、「主張と事例」の関係を明らかにしてあなたの考えを話しましょう。
 ・昼休みは長いほうがいいか、短いほうがいいか。

私は、昼休みは短いほうがいいと思います。それは、昼休みが短い分、学校が早く終われば、家でいろいろなことができるからです。例えば、——。



難 ナン
 わたくし わたし
 私 わたし
 密 ミツ
 呼 ヨ
 吸 キウ
 存 ソン
 刻 コク
 激 ゲキ
 簡 カン
 机 ツクエ
 疑 ギ
 うたがう

言葉 話し言葉と書き言葉



食材にはこだわっていて、野菜も卵も地元産なんですよ。あ、牛乳もだ。これは、愛用のフライパン。店を始めたときから十年間、使っているよ。

食材は、野菜も卵も牛乳も地元産を使っている。
フライパンは、創業以来10年間、愛用している。



大村さんは、職場体験でシェフの山口さんから聞いたことを、文章にしました。二つには、どのようなちがいがありますか。

話し言葉

音声で表す言葉を、話し言葉といいます。話し言葉では、声の大きさや上げ下げ、間の取り方などで、自分の気持ちを表すことができます。また、その場に相手がいることが多いので、言いまちがいをすぐに直せし、実物を示しながらこそあど言葉で表すこともできます。相手に応じて、敬語を使うかどうか、方言と共通語のどちらにするかなど、言葉づかいも選びます。内容を考えながら話すことが多いため、「ええと」のような言葉がはさまれたり、語順が整わなかったりするのも話し言葉の特徴です。

「敬語」
260ページ

10

5

- 敬語
- 創業
- 牛乳
- 卵

書き言葉

文字で表す言葉を、書き言葉といいます。すぐに消えてしまう音声とちがいで、文字は残ります。日記や手紙などを除くと、だれがいつ読むのかが分からない場合がよくあります。そのため、だれが読んでも分かるように、共通語で書き、語順や構成を整えることが大切です。手元をはなれてしまうと、たいていは書き直せないなので、誤解をあたえないよう、主語を明らかにしたり、誤字がないようにしたりするなどの注意が必要です。内容を整理して書き、見直しをしてから人に伝えるようにしましょう。

10

5

1 友達への手紙やメールなどでは、話し言葉

をそのまま文字にして伝えることがあります。話し言葉と書き言葉の特徴をふまえて、次のことを話し合いましょう。

- どんな特徴があるか。
- 気をつけることは何か。



いかそう

インタビューなどで聞いた内容を、文章にして伝えるときには、読む人が分かりやすいように言葉を整えましょう。

10

5

卵 たまご

乳 ニュウ
ちち

創 ソウ
つくる

敬 ケイ
うやまう

除 ジョ
のぞく

誤 ゴ
あやまる

○誤解
○除く

言葉を選んで、短歌を作ろう

たのしみは

江戸時代の歌人橘曙覧たちばなあけみは、日常の暮らしの中に楽しみや喜びを見いだして、「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ短歌にしました。ここでは、その形を借りて、あなたの「たのしみ」を短歌に表しましょう。



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 短歌にしたい場面を決める。

2 短歌を作る。

3 表現を工夫する。

4 短冊たんせきに書いて、読み合う。

つなげよう

書こう

組み立てよう

● ふりかえろう

1 短歌にしたい場面を決めよう。

橘曙覧は、次のような歌を作っています。

たのしみは妻子むつまじくうちつど(い)かしらび頭(い)かしらならべて物をく(い)ふ時

私が楽しみとするのは、妻や子どもたちと仲よく集まり、
並んでいっしょに何かを食べるときだ。

たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲(さ)ける見(み)る時

私が楽しみとするのは、朝起きて庭に目をやると、昨日ま
では咲いていなかった花が美しく咲いているのを見るときだ。

あなたにも、こんなふうには、なんだか楽しくなるときや、わくわ
くするときがありませんか。

生活の中のさまざまな場面から、あなたの「たのしみ」を探しま
しょう。そして、そのときの様子や気持ちを細かく思い出し、短歌
にしたい場面を決めましょう。

10

5

■題材の例

- 今朝、起きてからのこと
- この一週間のこと
- 家の人や友達のこと
- 季節のこと
- 衣食住のこと
- 趣味のこと

○探(さが)す

○暮(く)らし

5

弟とよく夜空を
見ていることを、
短歌にしようかな。



2 短歌を作ろう。

あなたの「たのしみ」を、五・七・五・七・七の三十一音で表しましょう。小さな「つ」や、のばす音、「ん」も、一音と数えます。

〈例〉しよっき(三音)

おとうさん(五音)

3 表現を工夫しよう。

2で作った短歌を見直ししましょう。使った言葉を別の言葉に言いかえたり、並べ方を変えたりして、自分の見つけた「たのしみ」が伝わるように、表現を工夫しましょう。

4 短冊に書いて、読み合おう。

作った短歌を短冊に書いて、グループで読み合いました。友達が感じている「たのしみ」は、伝わってききましたか。「すてきな」と思う表現はありましたか。選んだ題材や場面の切り取り方、言葉の使い方などで工夫しているところを見つけ、感想を伝えましょう。

10

5

たのしみは夜空の中に弟と知ってる星座探し出す時

たのしみは夜空を見上げ弟と知ってる星座見つけ合う時

弟と二人で星座を見つける楽しさが伝わるのは、二つ目のほうかな。

「見つけ合う」という言葉に、矢島さんと弟さんが二人で楽しんでいる様子が表れていると思いました。



暮くれる
くらす

探タン
さがす

座ザ



ふりかえろう

- 知る 言葉の使い方や気をつけたのは、どんなことですか。
- 書く 短歌を整えるときに、どんな工夫をしましたか。
- つなぐ 少ない文字数で伝えることには、どんなおもしろさがあると感じましたか。

星座ザ

クラス全員の短歌を持ち寄って、「いいな。」と思う短歌に投票を
したり、「たのしみは」を「よろこびは」「かなしみは」など別の言
葉に変えて、「時」で結ぶ短歌を作ったりしてもいいですね。



たいせつ

● 伝えたい思いや、そのときの様子を
思い出して、言葉を選んだり、並べ
方を変えたりするなど工夫する。

たのしみは

時

名前

文の組み立て

言葉の順序



右のカードを並べかえて、意味の通る文を作り、友達の作った文と見比べましょう。

木を 庭に ぼくは 昨日 は、人によって置く場所がちがったかもしれません。

いっぽう、植えた は、最後に置いた人が多いのではないでしょうか。「植えた」のよ
うな、文の述語に当たる言葉は、書き言葉ではふつう、文末に置きます。

5

このように、日本語の文には、自由に語順を決められるところと、ふつうは定まっているところがあります。

文の中の主語と述語の関係

一つの文の中に、主語と述語の関係が二つ以上出てくる場合もあります。

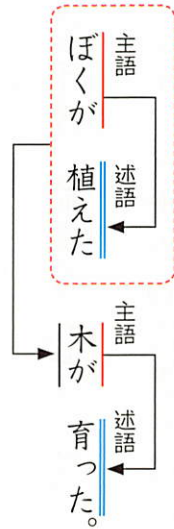
- ① 枝が のび、葉が しげる。
- ② ぼくが 植えた 木が 育った。

①の文には、「枝がーのび」と「葉がーしげる」の二つの主語と述語の関係があり、対等に並んでいます。②の文にも二組の主語と述語の関係がありますが、この文で中心とな

10

5

るのは、「木が育った」です。「ぼくが植えた」は、この文の中心の主語である「木が」を修飾する言葉です。



文の内容をとらえるときは、文の中の主語と述語の関係に着目しましょう。

また、②のような長い文は、短い文に分けて書き直すことで、分かりやすくなる場合があります。

- ぼくが木を植えた。
- その木が育った。

10

5

1 次の文の中の、主語と述語の関係を見つけてみましょう。

- 券売機が故障したうえに、電車がおくれた。
- 立派な警察署が完成し、住民は喜んだ。
- 祖父が通う銭湯が県庁の近くに移動した。

2 次の文を二つの文に分けて書き直し、同じ内容を表してみてください。

- 姉がくれたカップはともかわいい。
- 有名な作家が訳した外国の童話を読んだ山田さんが感想を述べる。



文を書くときは、語順や主語と述語の関係に気をつけて、分かりやすく組み立てましょう。

15

10

5

券売機
故障
立派
警察署
銭湯
県庁
訳す

券 ケン

障 ショウ

派 ハ

警 ケイ

署 ショ

銭 セン

庁 チョウ

訳 ヤク

声に出して楽しもう

天地の文

次の文章は、明治時代の初めに、思想家 福澤諭吉ふくざわゆきちが子ども用の習字手本として作ったものの一つです。当時日本に入ってきたばかりの、時間、週日など、人々の暮らしの基本となる決りめ事が、調子のよい言い回しの中で言いつくされています。

天地日月。東西南北。きたを背に南に向かひて右と左に指させば、

ひだりは東、みぎはにし。日輪、朝は東より次第しだいにのぼり、暮れは

またにしに没ぼつして、夜くらし。一昼一夜いちちゆういちや変わりなく、界さかいを分けし

午前午後、前後合わせて二十四時、時をあつめて日を計かぞへ、日数ひかず

つもりて三十の数に満つれば一か月、大と小とにかかはらず、

あらまし分けし四週日じゅうじつ、一週日いちしゅうじつの名目は日月火水木金土、一七日ひとなぬか

に一新し、一年五十二週日ごじゅうにしゅうじつ、第一月だいいつげつの一日は年たち回る時なれど、



天地日月

この世の中の時間の流れ。明治時代の初め、月の満ち欠けをもとにした旧暦れきから、西洋諸国と同様の太陽暦に切りかえられた。諭吉は、子どもにも分かりやすいよう、おおまかな数字を用いて説明している。

春の初めは尚遅く初めて来る第三月、春夏秋冬三月つつ合わせて

三百六十日、一年一年又一年、百年三万六千日、人生わづか五十年、

稚き時に怠たらば老いて悔ゆるも甲斐なかるべし。

天と地、そして太陽と月。東西南北。北を背にして南に向かって右と左を指さすと、左は東、右は西である。太陽は、朝は東からしだいにのぼり、暮れには西にしずんで、夜は暗くなる。一日は午前と午後に分かれ、合わせて二十四時間である。時間を積み重ねて日がたち、三十日になると一か月である。三十一日と三十日の月はあるが、一か月はだいたいい四週であり、一週は日月火水木金土で、七日ごとに週が新しくなって、一年は五十二週である。一月一日は新年で、こよみのうえでは春になるが、本当の春のおとずれは遅く、三月である。春夏秋冬三か月ずつを合わせると三百六十日になり、一年一年を積み重ねると、百年ではおよそ三万六千日となるが、人生はわずか五十年程度である。おさないときに努力を怠り、年を取ってから後悔してもしかたがない。(だから、後悔のないように、今、努力をおしまないようにするのがよい。)



情報と情報をつなげて伝えるとき

ブラジルと日本の農業について、たくさん調べたよ。全部書いて報告しよう。

たくさん書いてあるけれど、何が言いたいことなのか分かりにくいな。

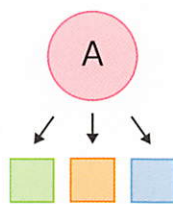


調べた情報をただ並べるだけでは、何を伝えたいのか、よく分からないことがあります。分かりやすく伝えるために、情報と情報を、次のような関係で整理しましょう。

・ Aとその具体例の関係

例えば――

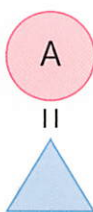
――には、――がある。



5

・ Aとその説明(定義)の関係

――とは、――のことだ。

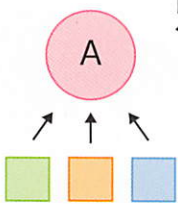


・ 複数のものと、その共通点(A)という関係

このように――

ここから考えられるのは、――

など



10

岩崎さんは、報告書を書き直すことにし、**1**の文章を書きました。

1 ブラジルは、農業がさかんな国で、アグロフォレストリーという農法が積極的に行われている。この農法では、いろいろな樹木や作物を育てている。

これに関連して、岩崎さんが集めた情報には、次の**①****②**があります。

① アグロフォレストリーとは

生育期間が異なる樹木や作物を、同じ土地で同時に育てる農法。多様な植物が共存することで、土地への負荷が低くなり、長期間利用できる。また、そこにすむ生物も多様になる。

② アグロフォレストリーで育てているもの

- こしやう（収穫まで数か月。数年間収穫できる。）
- 果物（収穫まで数年。その後長く収穫できる。）
- 樹木（十年以上育て、伐採して材木とする。）

15

10

5

▼**1**の文章に、**①****②**の情報を加え、文を書き足しましょう。情報と情報を、どんな言葉を使って、どのような分け方か考えましょう。

▼岩崎さんは、日本の農業について調べたことを**2**のようにまとめ、二段落目に書きました。**1**と**2**の段落の共通点を見つけ、まとめの段落を二文程度で書きましょう。

2 日本でも、環境を大切にしたり、里山での伝統的な農業が注目されている。植林や間伐などによって適切に手入れされた里山の周辺では、人間の作った田や畑と、多様な生き物が共生している。

10

5



文章を読むときは、使われている言葉に着目し、情報と情報の関係をとらえましょう。

具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう

私たちにできること

学校では、電気や水、食料などが、家庭よりもずっと多く使われています。資源や環境^{かん}を大切にするために、学校で、みなさんができることはありませんか。具体的に考えて、提案する文章を書きましょう。



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 身の回りにある問題について考える。

2 提案のための資料を集める。

組み立てよう

3 提案する文章の構成を考える。

書こう

4 提案する文章を書く。

つなげよう

5 読み合って、感想を伝える。

● ふりかえろう

1 身の回りにある問題について考えよう。

学校の様子を見たり、環境問題に関する本を読んだりして、自分たちが取り組めそうなテーマを探しましょう。

グループで話し合って、どんなテーマについて調べて、提案するかを決めましょう。

■ テーマの例

・エネルギー ・水 ・ごみ ・食料 など

2 提案のための資料を集めよう。

提案するテーマが決まったら、本やインターネットで調べたり、インタビューをしたりして、問題点を明らかにし、解決策を考えましょう。それぞれの考えをもち寄って、グループで次のことを話し合います。

- ・ 提案するテーマについての、現状と問題点
- ・ 提案の具体的な内容（解決方法、提案の効果など）

電気を消し忘れている教室を、ときどき見かけるよ。

この間、新聞で節電に関する記事を読んだよ。夏は、電力の使用が増えるみたい。

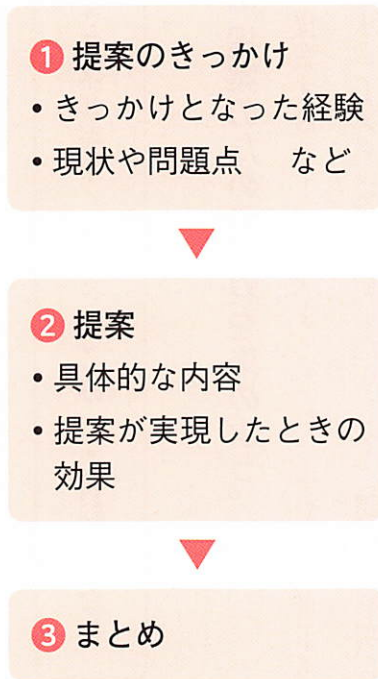
みんなが無理をしないで、長く取り組めることを提案したいな。

資源^{げん} 解決策^{さつ} 消し忘れる^{わす}



3 提案する文章の構成を考えよう。

何かを提案するときは、次のような組み立てて書く
と、提案の意図や内容が読み手に分かりやすく伝わり
ます。提案が複数ある場合は、提案ごとにまとまりを
分けましょう。



4 提案する文章を書こう。

次のようなことに気をつけて書きましょう。

- 提案の意図や内容、その効果が読み手に分かりやすいよう、具体的に書く。

5

■組み立てメモの例

題名

節電をして、
環境にやさしい学校へ

1. 提案のきっかけ
 - 新聞記事のこと
 - ひかり小学校の問題点

2. 提案

- (1) 節電情報コーナーの設置
 - けいじ物の内容
 - 実現したときの効果
- (2) 教室の電気のスイッチの近くに、ポスターをはる

検
討

■提案するときを使う言葉

🔍 きっかけを説明する

- きっかけは――
- 以上のことから――

🔍 具体的に説明する

- 例えば、――
- 具体的には、――
- ――というのは、――
- 実際には、――

5

・内容のまとまりごとに段落を分けたり見出しをつけたりする、簡条書きにするなど、読み手が提案の内容をとらえやすい示し方を考える。

下書きを書いたら、グループで話し合っ、内容や書き方を検討しましょう。

■下書きの例

2. 提案

(1) 節電情報コーナーの設置

1階の昇降口に、節電情報コーナーを設けて、節電に関する情報をけいじすることを提案する。「電気を消そう」と呼びかけるだけでは、なぜ節電しなければならないのかが、学校みんなに伝わらない。1年生から6年生までのみんなが、納得して節電に取り組めるよう、節電に関して調べたことをまとめて、けいじする場所を設けたい。節電情報コーナーの設置によって、みんなが日々節電を意識して過ごしてくれるようになると思う。

5
10
15

5



提案の内容と効果とで、段落を分けたほうが読みやすいね。

どんな内容をけいじするのか、もっと具体的に書いたほうが分かりやすいよ。

提案の内容は、問題点をふまえたものになっているかな。

特に伝えたいところは、簡条書きにして示そう。

(2) ポスターをはる

教室を移動するときに電気を消すようにすることをやっている

節電をして環境にやさしい学校へ

6年3組 岩崎, 岡田, 関口, 矢島

1. 提案のきっかけ

経験
きっかけとなった

節電に関する新聞記事で、夏には、電力の使用量が増加するということを知った。あまりにも使用量が増えすぎると、電気の供給が難しくなってしまうこともあるそうだ。また、発電には、さまざまな資源が使われていて、環境に大きなえいきょうをあたえているとも書いてあった。

現状や問題点

注意して見てみると、ひかり小学校では、教室を移動する際に、電気を消し忘れていたことがある。その原因の一つは、電気が限りあるエネルギーだということが、理解されていないためだと思われる。もう一つは、教室を移動するときに電気を消すようにする、というよびかけができていないことが考えられる。

以上のことから、私たちのグループでは、次の2点の提案をする。

提案すること

2. 提案

(1) 節電情報コーナーの設置

電気の大切さに対する理解を深めるために、1階の昇降口に節電情報コーナーを設けることを提案する。このコーナーでは、模造紙などに、節電に関する情報をまとめてけいじしたい。

提案理由

これは、1年生から6年生までのみんなが、納得して節電に取り組めるようにしたいという理由からだ。

内容
具体的な

- 具体的には、次のような内容をけいじすることを考えている。
- 電気の使用と、環境へのえいきょう
 - 学校の、月ごとの電力使用量 (グラフで示す)
 - 学校や家庭でできる節電の取り組み

提案が実現した
ときの効果

節電情報コーナーの設置によって、電気を使うことのえいきょうや、学校の現状、自分たちにできることなどを、学校のみんなに理解してもらうことができる。そうすることで、みんなが日々節電を意識して過ごしてくれるようになると思う。

5 読み合って、感想を伝えよう。

他のグループの提案書を読み合い、「分かりやすいな」「説得力があるな。」と思ったところを伝え合いました。

節電情報コーナーの内容が具体的に書いてあって、自分たちにもできそうだと思います。



節電を呼びかけるだけではなく、どうして節電するほうがいいのかを知らせているところが、効果的だと思います。



ふりかえろう

- 知る どのような言葉を使って、提案を分かりやすく示しましたか。
- 書く 提案が具体的に伝わるように、何をどのように書きましたか。
- つなぐ 友達の書いた提案書を読んで、どんなところをまねてみたいと思いましたか。



提案する文章を書く

- 次のことに気をつけて、提案する文章を構成する。
- 現状や問題点を整理し、提案の理由を明確にする。
- 提案の内容を、具体的に示す。
- 提案が実現したときの効果を示す。



委員会活動やクラブ活動などで、何かを提案するときには、その理由をはっきりとさせ、提案の内容をできるだけ具体的に知らせましょう。

源 ゲン
みなもと

策 サク

忘 わすれる

討 トウ

供 キョウ
そなえる

模 モ

キョウ
モ 供給
模造紙

夏のさかり

立春 りっしゅん

雨水 うすい

啓蟄 けいちつ

春分 しゅんぶん

清明 せいめい

穀雨 こくう

立夏

小満

芒種

夏至

小暑

〔りっか〕

立夏

五月六日ごろ



こよみのうえで、夏が始まる日。新緑や若葉わかに、夏の気配が感じられるようになる。

〔しょうまん〕

小満

五月二十一日ごろ



立夏から十五日目に当たる。陽気がさかんとなり、草木が成長して満ちてくるといふ意味。

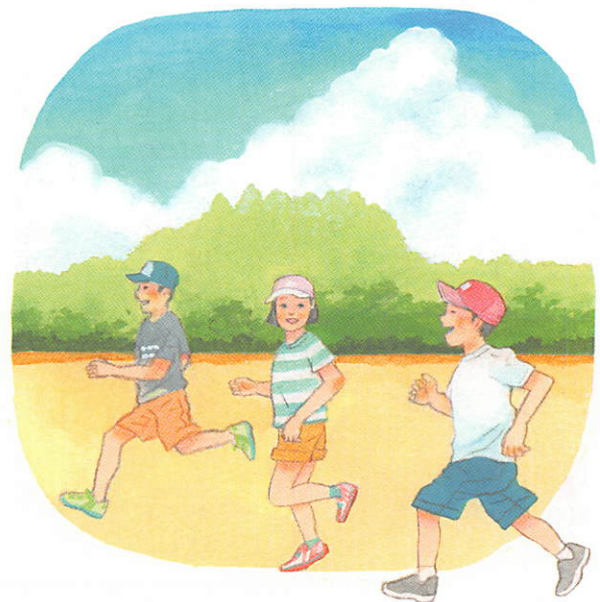
〔ぼうしゅ〕

芒種

六月六日ごろ



「芒のぎ」とは、いねや麦などの実のからにある、はりの形をした毛のこと。芒のある穀物の種をまく時期である。



めざましき若葉の色の日のいろの
揺れを静かにたのしみにけり

しまき 島木
あかひこ 赤彦

大暑

立秋 りっしゅう

処暑 しよしよ

白露 はくろ

秋分 しゅうぶん

寒露 かんろ

霜降 そうこう

立冬 りっとう

小雪 しょうせつ

大雪 たいせつ

冬至 とうじ

小寒 しょうかん

大寒 だいかん

〔げし〕

夏至

六月二十一日ごろ



一年の中で、昼が最も長く、夜が最も短い日。昔のこよみでは、夏の真ん中とされた。

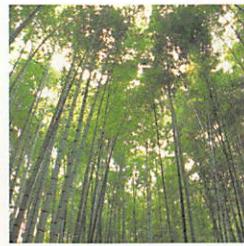
短夜みじかよやあすの教科書揃そろへ寝ねる

日野草城ひのそうじょう

〔しょうしよ〕

小暑

七月七日ごろ



つゆが終わりに近づく。この日から「暑中（夏の暑さがさかんな時期）」に入り、暑さが増してくる。

くず餅もちのきな粉しめりし大暑かな

鈴木真砂女すずきまさじよ

〔たいしよ〕

大暑

七月二十三日ごろ



晴れた日が続き、一年のうちで暑さが最もきびしいころ。

「夏」といっても、時期によって、見られる風景はさまざまです。あなたの地域の今

の「夏」を手紙に書いて、友達やお世話になった人に、夏の便りを送りましょう。

私と本

六年間で、どんな本に出会ってきましたか。ここでは、テーマに着目して、本が、自分にとってどのような存在かを考えてみましょう。そして、自分と本との関わりをふまえて、友達と本をしようかいし合いましょう。

■ 読書記録を読み返す



■ 学習活動をふり返る




■ 図書館や書店で
出会った本を思い出す



● 学習の進め方

1 自分と本との関わりを考える。
2 印象深い本について、友達と話す。

3 本のテーマに着目して、読み広げる。
「森へ」
 83ページ

4 テーマを決めて、ブックトークをする。



1 自分と本との関わりを考えよう。

どんな本を読んできたか、どのくらい本を読んでいるかなどをふり返り、自分が本とどのように関わっているかを考えましょう。

どんなとき、本を読み
たくなるか。

- ・ 知りたいことがあったとき
- ・ 楽しみたいとき
- ・ ひまなとき
- ・ さびしいとき

読むと、自分にどんな
変化が起きるか。

- ・ 新しい知識を得られる
- ・ 楽しい気持ちになる
- ・ 特に変わらない

どのくらい本を
読んでいるか。

- ・ 月に一冊ぐらい
- ・ 週に一冊ぐらい

どんな本が好きか。

- ・ 写真や絵がきれいな本
- ・ 文字だけの本
- ・ 物語
- ・ 科学読み物
- ・ 伝記
- ・ 辞典
- ・ ファンタジー
- ・ まんが
- ・ SF エッセイ
- ・ 詩集
- ・ 歴史物
- ・ 動物記
- ・ 推理小説
- ・ 事実にもとづいて書かれた話
(ノンフィクション)

どんな読み方を
しているか。

- ・ じっくりと
- ・ ぱらぱらと
- ・ くり返して
- ・ 必要なところだけ

どこで読むか。

- ・ 学校で
- ・ 自宅で
- ・ バスや電車の中で
- ・ 公園で
- ・ 図書館で

これから読みたい
のは、どんな本か。

- ・ 宇宙開発のことが分かる本
- ・ 職人のドキュメンタリー
- ・ 海外のファンタジー

一冊 イチサン
自宅 イチタク
推理 ツイ
宇宙 ウチユウ

2 印象深い本について、友達と話そう。

自分と本との関わりをふり返る中で、特に心に残っていた本は何でしたか。その本がもつテーマについて、友達と話しましょう。

「バッテリー」

ぼくは、あさのあつこさんの「バッテリー」かな。野球に打ちこむ主人公たちの「友情」をテーマにしているよ。読むと、温かくて前向きな気持ちになれるんだ。



「風をつかまえたウィリアム」

私は、「風をつかまえたウィリアム」だな。独学で風力発電の装置を作った、アフリカの少年の実話をもとにした話なんだ。「国際理解」がテーマになっていると思った。



「あきらめないこと、それが冒険だ」

ぼくは、「あきらめないこと、それが冒険だ」が心に残っている。エベレストで清掃活動をしている、登山家の野口健さんが書いた本だよ。「自然を守ること」が、テーマの一つになっている。



。装置

3 本のテーマに着目して、読み広げよう。

これから読んでみたいテーマを決めて、本を探して読みましょう。

テーマと本の例

福祉・共生社会

五感の力でバリアをこえる



義足でかがやく



見えなくてもだいじょうぶ?



平和

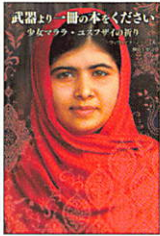
アハメドくんのいのちのリレー



ヒロシマ 8月6日、少年の見た空



武器より一冊の本をください



自然・生命

森へ



①自然に学ぶくらし ①自然の生き物から学ぶ



ここで土になる



はくりよくのある自然の写真がたくさんついている、「森へ」を読んでみよう。

この作品は、83ページから読むことができます。

他にも、「友達、人間関係」「仕事、職業」など、さまざまなテーマがあります。

「本の世界を広げよう」

265ページ

4 テーマを決めて、ブックトークをしよう。

自分で考えたテーマに沿って、友達に本をしようかいします。それぞれの本のみりよくを分かりやすく伝えましょう。

■ブックトークの例

初め
テーマを示す

ぼくは、「自然の力強さ」というテーマで、三冊の本をしようかいします。どの本も、ぼくがこれまで出会ったことのない視点で自然の様子がえがかれていて、心を動かされたものです。

中
本のみりよくを伝える

一冊目は、「森へ」です。この本のみりよくは、なんととっても、森や生き物の生命力を写し取った写真の力強さです。また、言葉にもみりよくがあります。特に心に残ったのは、――

終わり
まとめる

これらのような、新たな視点をあたえてくれる本は、ぼくにとって、とても大切なものです。気になる本があったら、ぜひ、手にとって開いてみてください。

←本との関わりについて述べた部分



たいせつ

自分と本との関わりについて考える

本との関わりについて考えることで、読書生活を豊かにすることができる。

- 本のテーマに着目すると、本が、自分にとってどんな存在かや、自分の考えをどう広げてきたかに気づくことができる。
- 本との関わり方を交流することで、多様な見方や考え方にふれることができる。



ブックトーク
一つのテーマに沿って、何冊かの本をしようかいする活動。

読んでみよう



森へ

星野道夫 文・写真
ほしの みちお

81ページで取り上げた本です。自然の営みについて、どんなことを感じるでしょうか。

朝の海は、深いきりに包まれ、静まりか

えっていました。聞こえるのは、カヤックのオールが水を切る音だけです。少し、風が出てきました。白い太陽が、ぼうっと現れては、消えてゆきます。ゆっくりと、きりが動いているのです。オールを止めると、カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取りまく山や森が、ぼんやり見えています。たくさん島の島々の間を通り、いつのまにか深い入り江えのおくまで来ていたのです。ここは、南アラスカからカナダにかけて広がる、原生林の世界です。

10

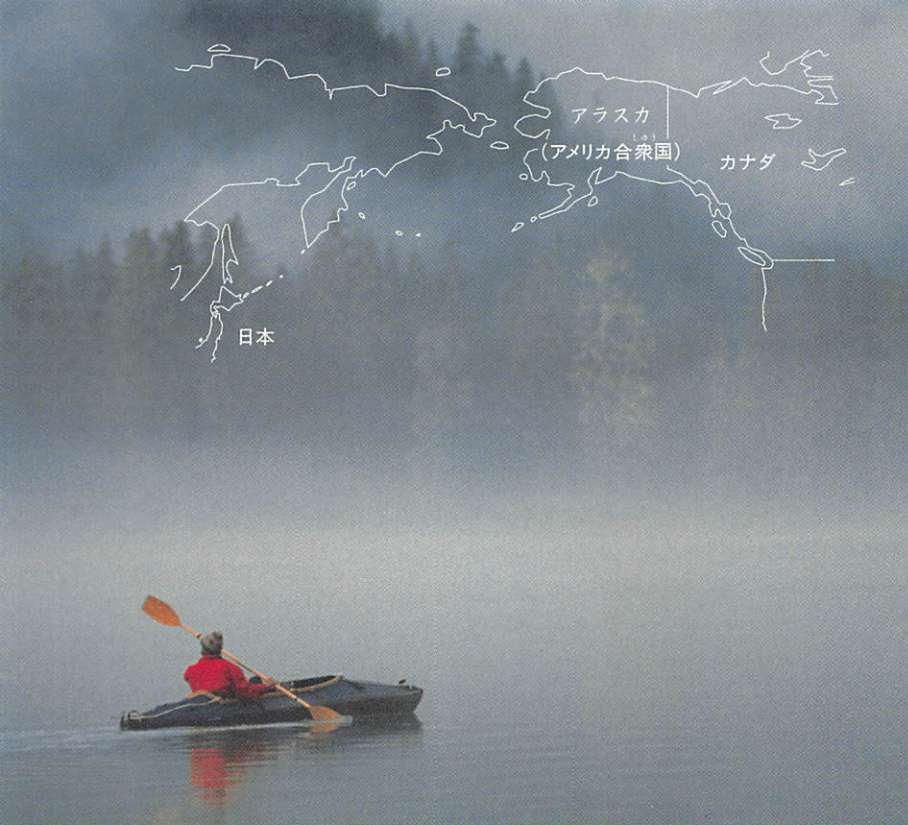
5

カヤック

五、六メートルの小舟。元は、木や動物の骨ほねで組み立て、アラシアラシの皮をぬい付けたものであったが、今は化学素材で作られる。

原生林

人が手を加えていない、自然のままの林。





じっとしていると、カヤックをこいでいるとき気づかなかった音が、少しずつ聞こえてきました。ピロロロロ……。ハクトウワシの、小鳥のようなさえずりです。が、辺りの森を見わたしても、姿が見えません。ポチャン——と、一ぴきのサケが、海面から三十七センチほど飛び上がりました。谷間から、川のかたきの音か、かすかな水の音がわたってきます。きりは、絶えず形を変えながら、森の木々の間を、生き物のように伝っています。水面を流れるきりは、ぼくの顔や体を、しっかりとぬらしました。そのときです、不思議な声がかきりの中から聞こえてきたのは。シューツ、シューツ、シューツ……。ぼくは体をかたくして、だんだん近づいてくるその音を待ちました。突然、きりの中からすうつと巨大な黒いかけが現れ、目の前を潮をふき

15

10

5

ハクトウワシ

頭と尾が白い、大形のワシ。全長九十センチメートル、体重六キログラムほど。北アメリカの水辺にすみ、サケなどの大きな魚をつかまえて食べる。

潮しほ。姿すがた





ながら通り過ぎていったのです。ザトウクジ
ラ——。広い海原うなばらにいるはずのクジラが、ど
うしてこんな所ところにいるのだろう。やがて、ク
ジラは尾おびれを高く上げ、ゆっくりときりの
中に消えてゆきました。

再びカヤックをこぎ始めました。深い森の
木々がおし寄せるはまべが、しだいに近づい
てきました。

バサツ、バサツ——。不意に、ハクトウワ
シが森の中からまい上がり、頭上を飛び去っ
てゆきました。ぼくがこの森に近づいてくる
のを、ハクトウワシはじっと見ていたのです。
やがて、カヤックが砂はまに乗り上げると、
森は、おおいかぶさるようにせまっていまし
た。見上げるような巨木や、その間にびっし
りとおいしげる樹林が、ぼくがこの森に入る
ことをこぼんでいるようでした。

ザトウクジラ

全長十五メートルほ
ど。背中が黒く、腹
が白い。

樹林ジュ



はまべに沿ってしばらく歩くと、だれかが通ったように草のしげみが割れ、そのまま森の中へ続いているのに気がつきました。いったいだれが来たのだろう。ここは、人の住む場所とは遠くはなれた世界です。

5

巨木の間をぬけ、森に足をふみ入れると、辺りは、夕暮れのように暗くなりました。目が慣れてくると、森の姿が見え始めました。見わたすかぎりの木々が、いや、地面も岩も倒木も、びっしりと緑のコケにおおわれているのです。さまざまな地衣類が、枝から着物ののように垂れ下がった木々は、そのまま歩きだしそうな気配でした。

10

ぼくが立っている地面は、かすかな道になり、森のおくへと続いています。土の上に残された大きな足あとを見たとき、急に胸がどきどきしてきました。そう、クマの道だっ

15

たのです。森の中から、今にもクマがやって来そうな気がしました。

周りを見回しながら、しばらく考えました。気持ちが悪く落ちて、少し勇気が出てきました。ぼくはクマの道をたどり、森に入ってゆくことに決めました。

5

この森は、はるかな北に広がる氷河まで続いています。ずっと昔、ここは、厚い氷におおわれていました。最後の氷河期が終わり、地表が現れ、気の遠くなるような時間をかけて、森ができあがったのです。木々やコケ、そして岩や倒木までが、たがいにからみながら助け合い、森全体が、一つの生き物のように呼吸しているようでした。

10

森の木々が、じっとぼくを見つめているような気がしました。ときどき、気味の悪い大木を見かけました。まるで、足で立っている

15

○割れる

地衣類

木の幹や岩の表面にうすく広がって増える、植物のように見えるもの。

○垂れ下がる

○胸



ように根が生え、その間に大きな穴が空いているのです。あれは、いったいなんなのだろう。

辺りをゆっくりと見わたし、小さな音にも耳をそばだてて歩いてみると、だんだん不思議な気持ちになってきました。いつのまにか、まるで、自分がクマの目になって、この森をながめているみたいなのです。心が静まるにつれ、森は、少しずつぼくにやさしくなっ

5

くるようでした。

「もしクマが反対からやって来たら、そつと道をゆずってやればいいのだ。そんなことも考え始めていました。

ふと気がつくと、道の真ん中に、大きな黒いかたまりが落ちていました。なんだろうと思つて近づくと、それは、クマの古いふんでした。

おどろいたことに、そのふんの中から、白いキノコがたくさんのびています。あんまりきれいなので、ぼくは地面に体をふせ、クマ



10

5

のふんにぐっと顔を近づけてみました。いつか北極圏けんのツンドラで見た、古い動物の骨の周りにさく花々を思い出しました。厳しい自然では、わずかな栄養分もむだにはならないのです。

クマの道は、しだいに分かれ道が多くなり、いつのまにか、森の中に消えてゆくようになっていた。ときどきは、高いやぶをかき分けて進まなくてはなりません。そんなとき、倒木は、森にかかる橋のように歩きやすい道となりました。倒木の道には、ところどころに、アカリスがトウヒの実を食べたからが積まれています。動物たちも、この自然の道を利用しているのです。今度は、森のリスになったような気分で、倒木の上を歩きました。

水の音が聞こえてきました。しばらくすると、視界が開け、森の中を流れる川に出まし

た。岸に立つと、水の流れは、川底の岩の色なのか、黒くしずんで見えました。

水を飲もうと水面に顔を近づけ、びっくりしてしまいました。川底の色だと思ったのは、産卵らんらんのために川を上るサケの大群だったので。ぼくは、はだしになって川に入りました。静かに手を水の中に入れ、やっと一ぴきのサケをつかむと、ああ、なんと強い力をもってあるのでしよう。ばねのように身を大きく曲げながら、はじけるように、ぼくの手から飛びぬけてゆくのです。もうおもしろくてたまりません。ぼくは、ずぶぬれになりながら、何度も同じことをくり返しました。

ふっと前を見ると、対岸の岩の上から、クマの親子が、じっとぼくを見ているではないですか。ぼくは、あわてて岸を駆け上がりました。すると、なんてことでしょう。川

ツンドラ

北極海沿岸に広がる荒原。寒さのために、樹木が生育しない。

骨ほね

。厳しい

アカリス

カナダやアメリカの林にすむ。キチキチと鳴き、木の実やキノコを好む。

トウヒ

山に生える松の一種。幹は赤褐色で、ひび割れている。

クマ

ここでは、アメリカグマのこと。かたまたまの高さ一メートル、体重百三十キログラムほど。







の上流にも下流にも、

いつのまにか、クマが

あちこちにいるのです。

今、この森の川は、サ

ケを食べに来るクマの

世界でした。見上げれ

ば、子グマが木の上で

ねています。どうして今まで気がつかなかつたのだろう。

すでに一生を終えたサケが、たくさん流れできています。

「サケが森を作る。」

アラスカの森に生きる人たちの古いことわざです。産卵を終えて死んだ無数のサケが、上流から下流へと流されながら、森の自然に栄養をあたえてゆくからなのです。

ぼくは、川をそつとはなれ、再び森の中に

15

10

5

入ってゆきました。

不思議な光景に出会いました。地面に横たわる古い倒木の上から、巨木が一列に並んでのびているのです。それは、きっとこんな物語があつたのでしよう。

昔、一本のトウヒの木が年老いてたおれました。その木は死んでしまいましたが、また、たくさんのおんぎつねをもっていました。長い年月の間に、その幹の上に落ちた幸運なトウヒの種子たちがいました。そこに根を下ろした種子たちは、倒木の栄養をもらいながら、さらに気の遠くなるような時間の中で、ゆっくりと大木に成長していったのです。つまり、年老いて死んでしまった倒木が、新しい木々を育てたのです。

それでやっと分かりました。森の中でときどき見かけた、根が足のように生えた不思議

15

10

5

な姿の木のことで。その根の間に空いていた穴、それは、栄養をあたえつくして消えた倒木のあとだったので。

目の前の倒木は、たくさんの大木の根にからまれ、今なお栄養をあたえ続けているようです。が、いつかはすっかり消えてゆくのです。ぼくはこけむした倒木にすわり、そっと幹をなでてみました。

森のこわさは、すっかり消えていました。じっと見つめ、耳をすませば、森はさまざまなお話を聞かせてくれるようでした。ぼくの目には見えないけれど、森はゆっくりと動いているのでした。

10

5



星野 道夫

一九五二〜九六年。
千葉県生まれ。写真家。「グリズリー」「アラスカたんけん記」などの作品がある。

冊 サツ

宅 タク

推 スイ

宇 ウ

宙 チユウ

装 ソウ

姿 シ
すがた

潮 チヨウ
しお

樹 ジュ

割 わり
われる

垂 スイ
たれる
たなず

胸 キョウ
むね

骨 コツ
ほね

巖 ケン
きびしい



詩を味わおう

せんねん まんねん

まど・みちお

いつかのつぼのヤシの木になるために

そのヤシのみが地べたに落ちる

その地ひびきでミミズがとびだす

そのミミズをへビがのむ

そのへビをワニがのむ

そのワニを川がのむ

その川の岸ののっぼのヤシの木の中を

昇^{のぼ}っていくのは

今まで土の中でうたっていた清水^{しみず}

その清水は昇って昇って昇りつめて

ヤシのみの中で眠る^{ねむ}

その眠りが夢でいっぱいになると

いつかのつぼのヤシの木になるために

そのヤシのみが地べたに落ちる

その地ひびきでミミズがとびだす

そのミミズをへびがのむ

そのへびをワニがのむ

そのワニを川がのむ

その川の岸に

まだ人がやって来なかったころの

はるなつあきふゆ はるなつあきふゆの

ながいみじかい せんねんまんねん

10

5

学習

●表現の工夫とその効果について、話し合いました。

この本、読もう
まど・みちお





いちばん大事なものは



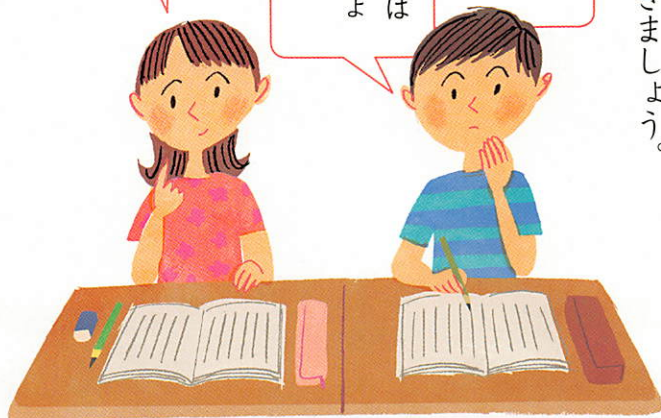
これからの生活で、みなさんは、どんなものや考え方を大切にしていきたいと考えているでしょうか。友達と伝え合い、考えを広げていきましょう。

1 自分の考えを、ノートに書きましょう。

やっぱり、好きなサッカーをすることかな。でも、サッカーをするには、――。

そう考えると、いちばん大事なものは、いっしょに遊べる友達だな。

私にとっては、笑うことだと思います。毎日を笑って過ごすことができたなら――。



2 次のような進め方で、友達と考えを交流します。
たがいの考えがよく分かるように、理由や、これまで
の経験などをたずね合いましょう。

① 三人一組のグループを作り、考えを聞き合う。

② メンバーを入れかえて、別のグループを作り、①
と同様に考えを聞き合う。その際、前のグループ
でどんな話が出てきたかを伝え、共有する。

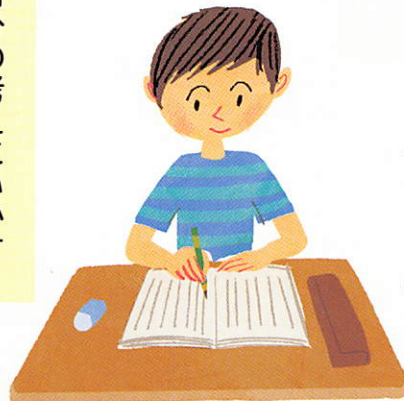
②を二回くり返す。

③ 最後に、初めのグループにもどって、ふり返る。

5

3 他の人と交流して、変わったり深まったりしたあな
たの考えを、ノートにまとめましょう。書いたもの
を見せ合ってもいいですね。

確かに、友達が大事といっ
ても、ただいっしょに遊ぶだ
けではなくて――。



いろいろな考え方を聞いて、自分の考えにいかす
人によって考え方はちがう。その人がなぜそのよう
に考えるのか、理由や背景を理解する。
・他の人と思いや考えを交流することで、自分の考え
を広げたり、深めたり、新しい視点を見つかったり
する。

5

難しい話題でも、立場のちがう多くの人の意見を聞
くことで、自分なりに納得なっできる考えが見つかること
があります。

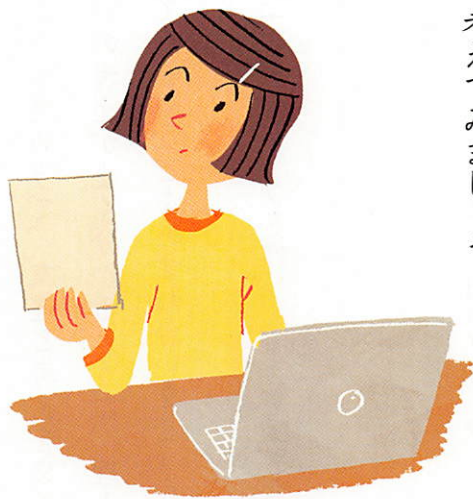
10



生活の中で読もう

利用案内を読もう

私たちは、生活の中で、施設などの利用案内や説明書、広告など、さまざまなものから情報を手に入れていきます。知りたいことがあるとき、それらをどのように読んだらよいのでしょうか。ここでは、図書館の利用案内を読んで、考えてみましょう。



5

見出しがあるから、全部を読まなくてもよさそう。



わかば市に住んでいる、小学六年生の石井さんは、市の図書館で本を借りたいと思い、98ページにあるわかば市立図書館の利用案内を読みました。

1 石井さんが利用カードを作るためには、利用案内のどこを読むとよいでしょうか。利用カードを作る場所や、そのために必要なものは何かを読み取りましょう。

5

2 石井さんが本を借りるためには、利用案内のどこを読むとよいでしょうか。利用案内から次の情報を見つけてみましょう。

• 借りられる資料の数と期間

• 借りたい本が見当たらない場合にする
こと

3 わかば市には三つの図書館があります。

次のような人にとって、利用しやすい図書館はどこでしょうか。友達と話しましょう。

- 西わかば駅のそばに住んでいる人。
- おそい時間まで仕事をしている人。
- 車で図書館に行きたい人。

10

5

石井さんは、小学二年生の妹と、図書館で行われるイベントに行きたいと考えています。そこで、99ページにあるわかば市立図書館のウェブサイトをみました。

4 みなさんが石井さんだったら、ウェブサイトを見て、どのイベントに参加したいと思いますか。理由とともに話しましょう。

▼パンフレットとウェブサイトとのちがいを考え、どんなときにウェブサイトを使うとよいかを話し合ってみましょう。

- 全てを読むのではなく、見出しをもとに、知りたいことが書いてあるところを選んで読む。
- 知りたいことによっては、複数の情報を組み合わせて考える。

15

10

5

■ 利用カードを作る

- 資料の貸出や予約には、利用カードが必要です。利用申込書^{もうしこみ}に記入し、住所と氏名が確認^{にん}できる証明書（健康保険証、学生証など）といっしょに、カウンターにお持ちください。わかば市内の全ての図書館で作ることができます。
- 利用カードを作れるのは、わかば市在住・在勤・在学の方のみです。

■ 本を借りる

- 本や雑誌は、全ての図書館で合計20冊まで借りられます。
- CDやDVDは、図書館によって借りられる数が異なります。
 - 中央図書館、東図書館・・・4点まで
 - 西図書館・・・2点まで
- 利用カードは、わかば市の全ての図書館で使えます。
- 貸出期間は、2週間です。（1冊あたり1回に限り、7日間の期間延長ができます。）
- 利用したい資料があるかどうかは、ウェブサイトで確認できます。

■ 本を返す

■ 予約・リクエストする

- 利用したい資料が見つからないときや、貸出中の場合は、「予約・リクエスト申込用紙」に記入して、カウンターへお申し込み^こください。電話やウェブサイトでも申し込むこともできます。
- CDは、市内にある資料の予約のみとなります。リクエストはできません。
- DVDは、予約もリクエストもできません。

● 中央図書館



わかば市北〇—〇—〇
TEL 1234-〇〇〇〇

開館

- 月～金
午前9時～午後9時
- 土、日、祝日
午前9時～午後7時

休館日

第一月曜日

● 東図書館



わかば市東〇—〇—〇
TEL 1234-〇〇〇〇

開館

- 月～金
午前9時～午後6時
- 土、日、祝日
午前9時～午後5時

休館日

第一月曜日、第三木曜日

● 西図書館



わかば市西〇—〇—〇
TEL 1234-〇〇〇〇

開館

- 火～土
午前9時～午後6時
- 日、祝日
午前9時～午後5時

休館日

毎週月曜日

熟語の成り立ち

漢字二字の熟語

二字の漢字からできている熟語の成り立ちには、次のようなものがあります。

- ① 似た意味の漢字の組み合わせ〈収納〉
- ② 意味が対になる漢字の組み合わせ〈縦横〉
- ③ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ〈山頂〉
- ④ 「――を」「――に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ〈洗顔〉

① 次の熟語は、①から④のどの組み合わせでしよう。漢字の意味を調べ、考えましよう。

- ・忠誠
- ・強敵
- ・養蚕
- ・玉石
- ・帰国
- ・苦楽
- ・仁愛
- ・温泉

10

5

三字以上の漢字から成る熟語もあります。組み合わせには、どんなものがあるでしよう。

漢字三字の熟語

三字の漢字で成り立つ熟語の多くは、一字の語と二字の語とでできています。

- ① 二字の語の頭に一字を加えた熟語
- ・上の語が下の語の性質・状態などを限定するもの。

〈高性能〉 〈低学年〉 〈新記録〉

・「不」「未」「無」「非」などの上の語が、下の語を打ち消すもの。

〈不安定〉 〈未解決〉 〈無意識〉
〈非常識〉

10

5

熟語 ○ 収納 ○ 縦横 ○ 山頂 ○ 洗顔 ○ 忠誠 ○ 強敵 ○ 養蚕 ○ 玉石 ○ 苦楽 ○ 仁愛 ○ 温泉

② 二字の語の後ろに一字を加えた熟語

- ・上の語が下の語を修飾して、物事の名前になるもの。

〔銀河系〕 〔加盟国〕 〔運動場〕

- ・上の語に下の語が意味をそえて、様子や状態を表すもの。

的：「――のような」「――のような性質をもつ」という意味をそえる。

〔積極的〕 〔典型的〕 〔画一的〕

化：「――のようになる」という意味をそえる。

〔合理化〕 〔近代化〕 〔自動化〕

10

③ 一字の語の集まりから成る熟語

〔市町村〕 〔松竹梅〕 〔衣食住〕

漢字四字以上の熟語

四字以上の熟語も、ふつうはいくつかの語から成り立っています。

① 一字の語の集まりから成る熟語

〔春夏秋冬〕 〔都道府県〕 〔東西南北〕

② いくつかの語の集まりから成る熟語

〔臨時列車〕……臨時―列車

〔海水浴客〕……海水浴―客

〔宇宙飛行士〕……宇宙―飛行―士

10

5

- 臨時
- 銀河系
- 画一的
- 加盟国



熟 シユク

収 シユウ
おぎめる
おさまる

納 ノウ
おさまる
おさまる

縦 ジュウ
たて

頂 チョウ
いたたく
いたたく

忠 チュウ

誠 セイ

敵 テキ

蚕 サン
かいこ

仁 ジン

泉 セン
いずみ

系 ケイ

盟 メイ

臨 リン

301 ページ



漢字の広場

5年生で
習った漢字

2

〔例〕遊園地での人々の行動を、文章に書きましよう。
銅像の前で、記念写真をとっています。





読む

作品の世界をとらえ、
自分の考えを書こう

これまでの学習



五年生の学びを確かめよう

(物語・詩)

9ページ

やまなし

【資料】イーハトーヴの夢

3

この物語を読みながら、あなたはどのような
情景を思いうかべるでしょうか。
みやざわけんじ宮沢賢治がえ
がく物語の世界を味わいましょう。



やまなし

みやざわ けんじ
宮沢賢治 作

かすや まさひろ
かすや昌宏 絵

小さな谷川の底を写した、二枚の青い幻灯げんです。

一 五月

ニひきのかにの子どもらが、青白い水の底で話していません。
した。

「クラムボンは笑ったよ。」

「クラムボンはかぶかぶ笑ったよ。」

二枚アイ

クラムボン

作者が作った言葉。
意味はよく分からない。

「クラムボンははねて笑ったよ。」

「クラムボンはかぶかぶ笑ったよ。」

上の方や横の方は、青く暗く鋼はがねのように見えます。そのなめらかな天井じょうを、つぶつぶ暗いあわが流れていきます。

「クラムボンは笑っていたよ。」

「クラムボンはかぶかぶ笑ったよ。」

「それなら、なぜクラムボンは笑ったの。」

「知らない。」

つぶつぶあわが流れていきます。かにの子どもらも、ぼつぼつぼつと、続けて五、六つぶあわをはきました。それは、ゆれながら水銀のように光って、ななめに上の方へ上っていきました。

つうと銀の色の腹をひるがえして、一ぴきの魚が頭の上を過ぎていきました。



「グラムボンは死んだよ。」

「グラムボンは殺されたよ。」

「グラムボンは死んでしまったよ……。」

「殺されたよ。」

「それなら、なぜ殺された。」

兄さんのかには、その右側の四本の足の中の二本を、弟の平べったい頭にのせながら言いました。

「分からない。」

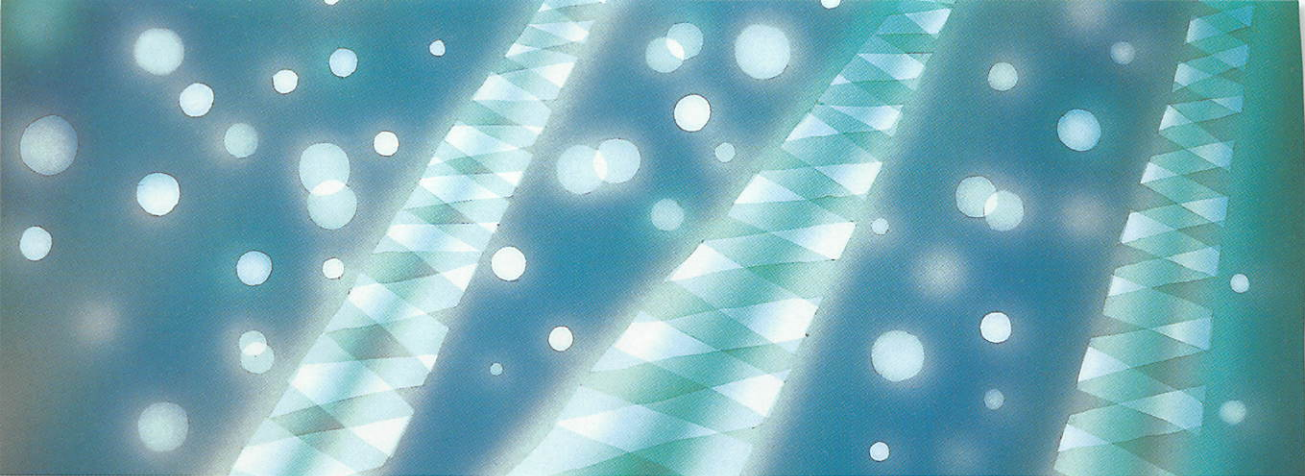
魚がまたつうともどって、下しもの方へ行きました。

「グラムボンは笑ったよ。」

「笑った。」

にわかにはっと明るくなり、日光の黄金きんは、夢のように水の中に降ってきました。

波から来る光のあみが、底の白い岩の上で、美しくゆら



ゆらのびたり縮んだりしました。あわや小さなごみからは、まっすぐなかげの棒が、ななめに水の中に並んで立ちました。

魚が、今度はそこら中の黄金の光をまるつきりくちやくちやにして、おまけに自分は鉄色に変に底光りして、また上かみの方へ上りました。

「お魚は、なぜああ行ったり来たりするの。」

弟のかにが、まぶしそうに目を動かしながらたずねました。

「何か悪いことをしてるんだよ。取ってるんだよ。」

「取ってるの。」

「うん。」

そのお魚が、また上かみからもどってきた。今度はゆっくり落ち着いて、ひれも尾おも動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を輪のように円くしてやって来ました。

○棒ぼう ○縮むちぢむ



そのかげは、黒く静かに底の光のあみの上をすべりました。

「お魚は……。」

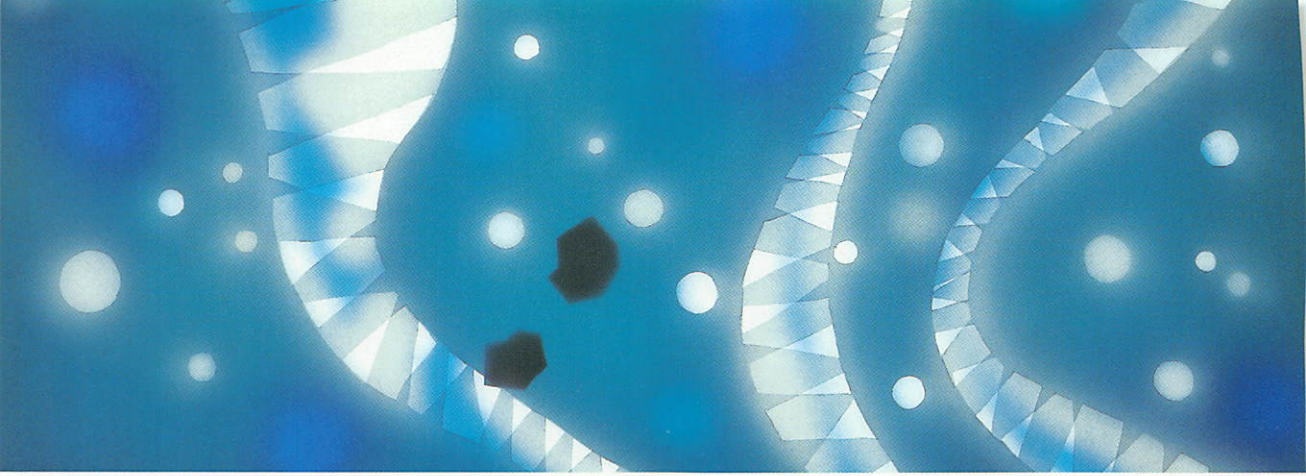
そのときです。にわか天井に白いあわが立って、青光のまるできらきらする鉄砲ぼうだまのようなものが、いきなり飛びこんできました。

兄さんのかには、はっきりとその青いものの先が、コンパスのように黒くどがっているも見ました。と思ううちに、魚の白い腹がぎらりと光って一ぺんひるがえり、上方へ上ったようでしたが、それっきりもう青いものも魚の形も見えず、光の黄金のあみはゆらゆらゆれ、あわはつぶつぶ流れました。

二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。

お父さんのかにが出てきました。

「どうしたい。ぶるぶるふるえているじゃないか。」



「お父さん、今、おかしなものが来たよ。」

「どんなもんだ。」

「青くてね、光るんだよ。はじが、こんなに黒くどがって
るの。それが来たら、お魚が上へ上っていったよ。」

「そいつの目が赤かったかい。」

「分からない。」

「ふうん。しかし、そいつは鳥だよ。かわせみというんだ。
だいじょうぶだ、安心しろ。おれたちは構わないんだ
から。」

「お父さん、お魚はどこへ行ったの。」

「魚かい。魚はこわい所へ行った。」

「こわいよ、お父さん。」

「いい、いい、だいじょうぶだ。心配するな。そら、かばの
花が流れてきた。ごらん、きれいだろう。」

はじ
はし。物のふち、へ
りのこと。

かば
山桜の一種。



あわといっしょに、白いかばの花びらが、天井をたくさんすべってきました。

「こわいよ、お父さん。」

弟のかにも言いました。

光のあみはゆらゆら、のびたり縮んだり、花びらのおかげは静かに砂をすべりました。

二十二月

かにの子どもらはもうよほど大きくなり、底の景色も夏から秋の間にすっかり変わりました。

白いやわらかな丸石も転がってき、小さなきりの形の水晶しゅうのつぶや金雲母ものかけらも、流れてきて止まりました。その冷たい水の底まで、ラムネのびんの月光がいっぱい

金雲母

黄色みをふくんだ、褐色かの雲母。



にすき通り、天井では、波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう。辺りはしんとして、ただ、いかにも遠くからというように、その波の音がひびいてくるだけです。

かにの子どもらは、あんまり月が明るく水がきれいなので、ねむらないで外に出て、しばらくだまってあわをはいて天井の方を見ていました。

「やっぱり、ぼくのあわは大きいね。」

「兄さん、わざと大きくはいてるんだい。ぼくだって、わざとならもっと大きくはけるよ。」

「はいてごらん。おや、たったそれきりだろう。いいかい、兄さんがはくから見ておいで。そら、ね、大きいだろう。」

「大きかないや、おんなじだい。」

「近くだから、自分のが大きく見えるんだよ。そんならいっしょにはいてみよう。いいかい、そら。」

「やっぱりぼくのほう、大きいよ。」

「本当かい。じゃ、も一つはくよ。」

「だめだい、そんなにのび上がっては。」

また、お父さんのかに出てきました。

「もうねろねろ。おそいぞ。あしたイサドへ連れていかんぞ。」

「お父さん、ぼくたちのあわ、どっち大きいの。」

「それは兄さんのほうだろう。」

「そうじゃないよ。ぼくのほう、大きいんだよ。」

弟のかには泣きそうになりました。

そのとき、トブン。

黒い丸い大きなものが、天井から落ちてずうっとしずんで、また上へ上っていききました。きらきらと黄金のぶちが光りました。

「かわせみだ。」

子どもらのかには、首をすくめて言いました。

お父さんのかには、遠眼鏡とめがねのような両方の目をあらんかぎりのばして、よくよく見てから言いました。

「そうじゃない。あれはやまなしだ。流れていくぞ。ついていってみよう。ああ、いいにおいだな。」

なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

三びきは、ぼかぼか流れていくやまなしの後を追いました。

その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つ、おどるようにして、やまなしの円いかげを追いました。

まもなく、水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかっ

て止まり、その上には、月光のにじがもかもか集まりました。

「どうだ、やっぱりやまなしだよ。よく熟している。いいにおいだろう。」

「おいしそうだね、お父さん。」

「待て待て。もう二日ばかり待つとね、こいつは下へしずんでくる。それから、ひとりでおいしいお酒ができるから。さあ、もう帰ってねよう。おいで。」

親子のかには三びき、自分らの穴に帰っていきます。

波は、いよいよ青白いほのおをゆらゆらと上げました。

それはまた、金剛石の粉をはいているようでした。

私の幻灯は、これでおしまいであります。

10

5

金剛石

ダイヤモンドのこと。

宮沢 賢治

一八九六〜一九三

三年。岩手県生まれ。

童話作家・詩人。

イーハトーヴの夢

畑山博はたやま ひろし

宮沢賢治は、一八九六年（明治二十九年）

八月二十七日、岩手県の花巻はなまきに生まれた。津波つなみや洪水こうすい、地震しんと、次々に災害にみまわれた年だった。六月、三陸大津波さんりく。七月、大雨による洪水。八月、陸羽大地震りくう。そして九月には、またまた大雨、洪水。それによる伝染病せんの流行。次々におそった災害のために、岩手県内だけでも五万人以上がなくなるといふ大変な年だった。

家の職業は質店しち。裕福な暮らしだった。賢治はその長男。後に四人の兄弟が生まれる。

10

5



農民シャツ姿の賢治（1924年）

小学校六年生のころの賢治は、身長が百三十三・九センチメートル。体重二十九キログラム。丸顔で色白。性格はおとなしく、一人遊びが好きだった。その一人遊びは、石集め。石を観察することが大好きで、よく近くの野山に出かけては集めてきた。そのため、みんなが「石こ賢さん」とよんだ。

賢治が中学に入学した年も、自然災害のために農作物がとれず、農民たちは大変な苦し

5

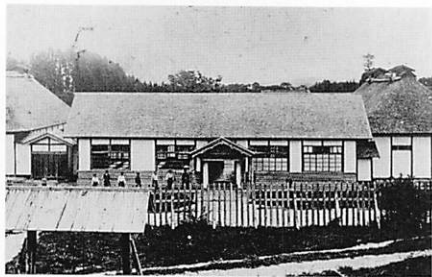
長男



中学に入学した当時の賢治



賢治が農業技術を学んだ盛岡高等農林学校の本館。現在は、岩手大学農学部付属の農業教育資料館になっている。



賢治が先生になった郡立稗貫農学校。後に県立花巻農学校となる。賢治は、農業だけでなく、英語や数学も教えた。

みを味わった。その次の年も、また洪水。
 「なんとかして農作物の被害を少なくし、
 人々が安心して田畑を耕せるようにできない
 ものか。」
 賢治は必死で考えた。
 「そのために一生をささげたい。それには
 まず、最新の農業技術を学ぶことだ。」
 そう思った賢治は、盛岡高等農林学校に
 入学する。成績は優秀。卒業のときに、教

5

授から、研究室に残って学者の道に進まない
 かとさそわれる。でも賢治は、それを断る。そ
 して、ちようと花巻にできたばかりの農学校
 の先生になる。二十五さいの冬だった。
 「いねの心が分かる人間になれ。」
 それが生徒たちへの口ぐせだった。
 また、こんな言葉を覚えていた教え子も
 いる。
 「農学校の『農』という字を、じっと見つめ

5



黒板の前に立つ賢治

てみてください。『農』の字の上半分の『曲』は、大工さんの使う曲尺かねじゃくのことです。そして下の『辰』しんは、時という意味です。年とか季節という意味もあります。曲尺というのは、直角に曲がったものさしのことだ。それを使うと、一度に二つの方向の寸法が測れる。だから賢治の言葉は、「その年の気候の特徴を、いろんな角度から見て、しっかりとつかむことが大切です。」という意味

になる。

また賢治は、春、生徒たちと田植えをしたとき、田んぼの真ん中に、ひまわりの種を一つづ植えたこともあった。すると、真夏、辺り一面ただ平凡ほんな緑の中に、それが見事に花を開く。

「田んぼが、詩に書かれた田んぼのように、かがやいて見えましたよ。」

と、昔の教え子たちが言う。

苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。

工夫することに、喜びを見つける。そうして、未来に希望をもつ。それが、先生としての賢治の理想だった。

暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならぬ。力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていないならぬ。そのやさしさを人々に育ててもら

。寸法すんぽう

うために、賢治は、たくさんの詩や童話を書

いた。「風の又三郎」^{またさんろう}「グスコープドリの伝記」

「セロ弾きのゴーシュ」、そして「やまなし」。

賢治の書いた物語の舞台は、イーハトーヴ

という一つの同じ場所であることが多い。

イーハトーヴというのは想像で作った地名だ

けれど、「イーワテ」というのとよく似ている。

「この岩手県が、いつか、こんな夢のよう

なすてきな所になったらいいな。」

きつとそう思って、賢治はそんな名前をつけ

たのだろう。だから、イーハトーヴは、実際

の岩手県と同じ大きさをしている。そうして

そこで、大昔から今までの、さまざま出来

事が起こるのだ。

「風の又三郎」は、山の小さな分校に、ある

日、突然、一人の転入生がやって来る話。その

少年、又三郎は、どうやら風や雨を自分の力

で動かすことができるらしい。

「グスコープドリの伝記」は、冷夏で農作

物がとれなくなつたため、人工的に火山を爆

発させて暖かくしようとする人々の話。でも、

島の火山を爆発させに行く者は、生きて帰つ

てはこれられない。それを、主人公のグスコ

ープドリが、自ら進んでやる。

「セロ弾きのゴーシュ」は、

小さな町の小さなオーケス

トラのセロ弾きの物語。

ゴーシュは、弾き方が下手

で、いつも指揮者にしから

れていた。もうやめようか

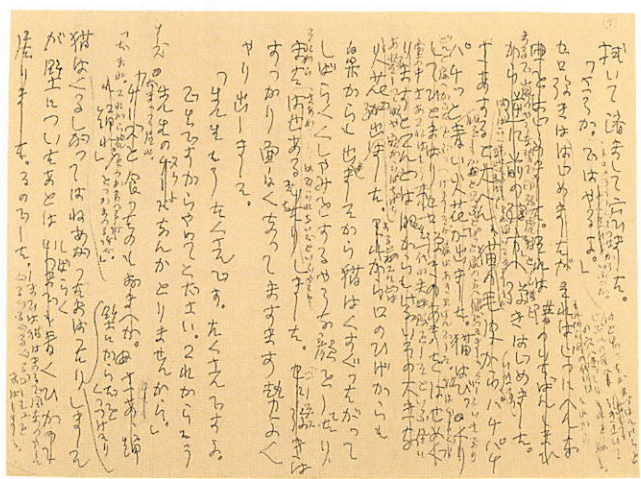
とくさっていた。でもそん

なとき、ふとしたことから、

自分の音楽で、野ねずみや

うさぎ、たぬきなどの病氣

暖かい
指揮者



「セロ弾きのゴーシュ」の原稿

を治すことができるのを知る。

「北守将軍と三人兄弟の医者」という物語もある。

おかの上に仲よく並んで、三つの病院が建っている。

人間の病気を治す病院。

動物の病気を治す病院。

植物の病気を治す病院。

三つの病院は、同じ大きさを、どれも同じように大切だということが書かれている。

そんな数々の物語の舞台を地図上にまとめてみると、楽しいイーハトーヴのパノラマ地図ができあがる。

豊かに農作物を実らせる川沿いの平野。

月の光を集めて作るカステラの製造工場。

青空を作る山。

鬼語で放送をする放送局。

15

10

5

銀河のエネルギーを集めて発電する発電所。

グスコブドリが爆発させた火山。

「やまなし」のかにたちがすんでいた、

イサドの町近くの小さな川。

そして、賢治の作品で忘れてはならない

5



筆者が作ったイーハトーヴの地図

「銀河鉄道の夜」がある。

ある晩、事故でなくなった親友を送って、天上の国まで旅してしまう少年の物語。目をみはるほど美しい天上の風景が出てくる。これは、大切な妹トシをなくした賢治が、悲しみのどん底で書いた作品だ。物語の主人公、ジヨバンニが住んでいた町は、イーハトーヴのパノラマ地図の中の種山たねやま付近と考えられる。

賢治がイーハトーヴの物語を通して追いつめた理想。それは、人間がみんな人間らしい生き方ができる社会だ。それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界が、賢治の夢だった。一本の木にも、身を切られるときの痛みとか、日なたぼっこのここちよさとか、いかりとか、思い出とか、そういうものがきつとあるにちがいない。賢治は、その木の心を自分のことのように思っ

て、物語を書いた。

けれども、時代は、賢治の理想とはちがう方向に進んでいた。さまざまな機械の自動化が始まり、鉄道や通信が発達した。なんでも早く、合理的にできることがよいと思われるような世の中になった。そんな世の中に、賢治の理想は受け入れられなかった。

初めのころ、賢治は、自分が書いた童話や詩の原稿こうをいくつかの出版社に持ちこんだ。でも、どの出版社でも断られた。しかたなく、賢治は、自分で二冊の本を出す。童話集「注文の多い料理店」、詩集「春と修羅しゅら」。でも、これもほとんど売れなかった。それどころか、ひどい批評の言葉が返ってくる。自分の作品が理解されないことに、賢治は傷ついた。次に出すつもりで準備を整えていた詩集も、出すのをやめた。

○晩ばん　○痛いたみ
○批評　○傷きずつく



童話集「注文の多い料理店」



詩集「春と修羅」

農業に対する考え方にも、変化が起こって
いた。

「一度に大勢の生徒を相手に理想を語って
もだめた。理想と現実の農業はちがう。実際
に自分も農民になって、自分で耕しながら人
と話さなければ。」そう思った賢治は、三十さ
いするとき農学校をやめ、「羅須地人協会」と
いう協会を作る。農家の若者たちを集め、自
分も耕しながら勉強する。それが賢治の目的
だった。

10

5



1926年ごろ、農学校の近くに立つ
賢治。このころ、学校をやめること
を考えていた。

協会に集まった農村の青年は三十人ほど。
そこで賢治は、農業技術を教え、土とあせの
中から新しい芸術を生み出さなければならな
いことを語った。農民の劇団を作ったり、み
んなで歌やおどりを楽しんだりした。
毎日、北上川^{きたがみかわ}沿いのあれ地を耕し、真っ黒
に日焼けし、土のおいをぶんぶんさせる賢
治。でもそれは、長くは続かなかった。病氣
のために、ねこんでしまったのだ。

羅須地人協会は、二年ほどで閉じなければ

10

5

○若^{わか}者
○劇^{ゲキ}団
○閉^とじる

ならなくなった。でも次の年、病気が少しよくなる、起き出して村々を歩き回った。「あなたのこの田んぼは、こういう特徴があるから、今年は、こういう肥料をこのくらいやりなさい。」と、一人一人に教えてあげるボランティアだ。同時に、賢治は、石灰肥料会社の共同経営者になって、セールスに歩き回る。石灰肥料は土地改良に役立つものだったので、それを広めることが農民のためになると考えたのだ。岩手県内だけでなく、東北一帯を、毎日毎日飛び回った。

10

そのために、またまた体をこわしてしまふ。三十五さい。ついに旅先で発熱。起き上がることができなくなった。もうだめかもしれないと思って、遺書を書くほどの衰弱ぶりだった。どうにかやっと自分をはげまして、花巻に帰ったけれど、それっきりとこをはなれる

15

ことができなくなった。

そのまま二年間、賢治は病気とたたかうが、体はますます弱っていった。そして、一九三三年（昭和八年）九月二十一日が来る。前の晩、急性肺炎を起こした賢治は、呼吸ができなほど苦しんでいた。なのに、夜七時ごろ、来客があった。見知らぬ人だったけれど、「肥料のことで教えてもらいたいことがある。」と言う。すると

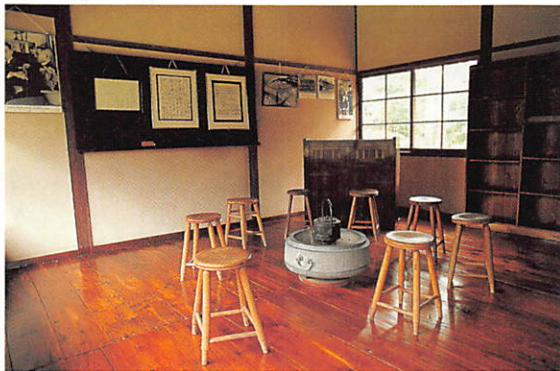
5

賢治は、着物を着がえて出ていき、一時間以上も、ていねいに教えてあげた。

10

それで、最後の力を出し切ってしまったのかも。翌日の朝、賢治は、はげしく血をはいてしまふ。心配した家族は、全員が家の二階の病室に集まった。それで安心したの

15



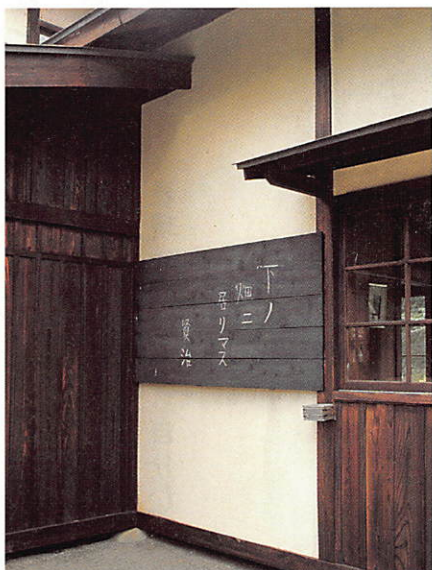
○遺書

○翌日

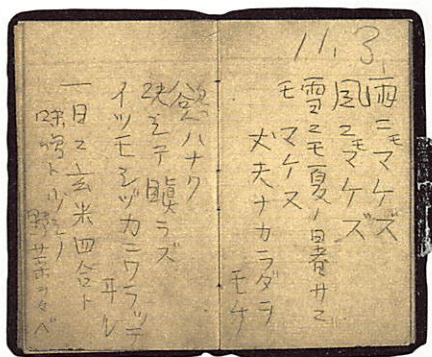
羅須地人協会の教室。
ここで賢治は、農民のために芸術の話などをした。



県立花巻農業学校に移され、復元された羅須地人協会の建物。



羅須地人協会の伝言板。今も、賢治が近くの畑にいるようだ。



詩「雨ニモマケズ」を書いた手帳。
賢治の死後、発見された。

か、賢治は少し落ち着いた。みんなはまた階下にもどっていった。母親のイチだけが残った。その母に、賢治は、

「お母さん、すまないけど、水を一ぱいください。」

と言った。そして、母が差し出した水を、おいしそうに飲んだ。

それから、オキシドールを消毒綿に付けて、

5

手をふき、首をふき、体全体をきれいにふいた。「ああ、いい気持ちだ。ああ、いい気持ちだ。」それが最後の言葉だった。

午後一時三十分。死のことになった部屋のかたすみには、生きているうちには、ついに本になることのなかった名作の数々、その原稿がうずたかく積まれ、静かに、秋の日ざしの中で、光っていた。

5

畑山博

一九三五〜二〇〇

一年。東京都生まれ。

小説家。「教師 宮

沢賢治のしごと」

「ひらけごま」など

の作品がある。





見通しをもとう

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

- 作者の独特な表現を味わおう。
- 作品にえがかれた世界を、表現や構成から自分なりにとらえよう。

とらえよう

- 最初に、「小さな谷川の底を写した、二枚の青い幻灯です。」とある。どこから見た、どのような風景がえがかれているだろう。本文から谷川の様子が分かるところを見つけ、簡単な絵や図に表そう。
- 資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者である宮沢賢治の生き方や考え方を知ろう。

5

ふかめよう

- 「やまなし」には、作者の独特な表現が多く用いられている。心を引かれる表現に線を引き、情景を想像しよう。
- 「やまなし」は、「五月」と「十二月」の二つの場面で構成されている。次の点を、使われている言葉に着目して対比し、感じたことや考えたことをまとめよう。

10

1 作者の独特な表現

〈言葉のひびきで様子を表す表現の例〉

- クラムボン は かぶかぶ笑ったよ。

(104 ページ 6 行目)

- つぶつぶ暗いあわが流れていきます。

(105 ページ 4 行目)

〈たとえの表現の例〉

- 日光の黄金は、夢のように水の中に降ってきました。

(106 ページ 12 行目)

2 色を表す言葉

どちらの場面にも、色を表す言葉が多く使われている。場面を比べるときに着目してみよう。

- 何度も使われている色
- それぞれの色があたえる印象

10

5



ふりかえろう

- 知る 「やまなし」の中で、どのような言葉や表現に心を引かれましたか。
- 読む どのような点に着目して、作品にえがかれた世界をとらえましたか。
- つなぐ 作品の世界をより深く味わうために、どんな読み方をしていきたいですか。

ひろげよう

- 友達の書いた文章を読み、感想を伝えよう。
- 自分の考えと似ているところ
- ちがうけれども納得したところ など

10

まとめよう

- 作者がこの作品にこめた思いについて考え、どのような点からそう考えたのかを明らかにして文章にまとめよう。

3

- かにの会話や様子
- 水や光の様子
- 上から来たもの
- なぜ、作者は、「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのだろう。理由を考えてみよう。

5

3 考えをまとめるとき

くわしく読んだことをもとに、次のようなことから考えをまとめよう。

- 独特な表現から受ける印象
- 「五月」と「十二月」を比べて
- 題名から想像されること
- 宮沢賢治の生き方や考え方をふまえて など

〈書きだしの例〉

- 作者は、読者に——を伝えたかったのだと思う。
- 作者は、この作品で、——を表現したかったのではないかと考える。
- 私は、——の部分に、作者の思いが最も表れていると思う。それは、——ということだ。

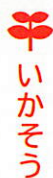
10

5



作品の世界をとらえる

- 内容とともに、次のような点からも、作者が作品にこめた思いを考える。
- 題名の付け方
- 構成
- 表現のしかたや言葉の使い方
- 作者の表現によって、どのような作品世界が生まれているかを考える。
- 作者の生き方や、他の作品の書かれ方と関連させて、考えを深める。



物語を読むときには、構成や表現のしかた、使われている言葉などに着目し、作品の世界を想像して読み深めましょう。

10

5

この本、読もう

宮沢賢治と同じ時代に生まれた作家の作品の中には、今も読みつがれているものが少なくありません。

構成や表現、その時代を感じる言葉などに着目して、作品の世界を味わってみましょう。



おがわ みめい
小川 未明



一八八二〜一九六一年。新潟県生まれ。小説を書きつつ、多くの童話を発表した。「野ばら」「青いランプ」などの作品がある。



赤い蠟燭と人魚

「どうして遠くに売ってしまったの」。暗い波間から、人魚たちの悲しいさけび声が聞こえてくる。

10

5

つばた じょうじ
坪田 譲治



一八九〇〜一九八二年。岡山県生まれ。童話作家の育成にも熱心に取り組んだ。「風の中の子供」「子供の四季」などの作品がある。



ビブの実

きんじゆう
金十は、道ばたの草の中で、金色の実を見つける。美しくて、よいにおいがする実を大切に家に持ち帰ると――。

10

5

はまだ ひろすけ
浜田 広介



一八九三〜一九七三年。山形県生まれ。約千編の童話を書いた。「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」などの作品がある。



ひとつのねがい

街外れに立っていた一本の街灯は、長い間、ひとつの願いをもち続けていた。その願いはかなうだろうか。

10

5

つばい さかえ
壺井 栄



一八九九〜一九六七年。香川県生まれ。小説や児童文学、随筆などをはばなく書いた。「二十四の瞳」「石白の歌」などの作品がある。



二十四の瞳

分教場の一年生は十二人。新しい担任の先生は、洋服を着て自転車に乗ってやって来た。子どもたちと先生の、深いぎずなの物語。

10

5

枚
マイ

縮
シユク
ちぢむ
ちぢまる
ちぢめる
ちぢられる
ちぢらす

棒
ボウ

寸
スン

暖
ダン
あたたか
あたたかい
あたたまる
あたためる

揮
キ

晩
バン

痛
ツウ
いたむ
いたむ
いためる

批
ヒ

 301ページ

傷
シヨウ
きず

若
ワカイ

劇
ゲキ

閉
ヘイ
とじる
しめる
しまる

遺
イ

翌
ヨク

言葉の変化

時代による言葉のちがひ



今から千年ほど前には、「すばらしい」のように何かをほめたくなる気持ちを、「めでたし」という言葉で表していました。この「めでたし」は、しだいに喜ばしい思いを表す意味が強くなりました。今でも「めでたし」という言葉として使われています。

5

他にも、昔と今とで使い方にちがひが見られる言葉は、たくさんあります。

〈例〉

(昔)すさまじ ↓ 不調和でおもしろくない。

(今)すさまじい ↓ 程度や勢いがひどく激しい。

(昔)あはれなり ↓ 喜び、楽しみ、悲しみなどを
感じ、しみじみと感動する。

(今)あわれだ ↓ かわいそうである。

今、私たちが使っている言葉は、昔の言葉をもとにしながらも、時代の流れの中で、人々の生活や考え方など、さまざまなきょうを受けて変わってきたものなのです。

10

5

世代による言葉のちがい

同じ時代であっても、世代によって異なる言葉を使う場合があります。

同じものを指すときに、みなさんと、みなさんのひいおじいさんや、ひいおばあさんくらゐの世代の人たちでは、使う言葉にちがいがあることはありませんか。「ノート」と「帳面」や、「マフラー」と「えりまき」など、下の世代では、外来語でよぶことが多くあります。

また、世代に特有の言葉や言葉づかいもあります。これらには、その世代の人たちの親近感やつながりを強めるという面があります。その反面、世代のちがう人には通じなかつたり、誤解を生んでしまつたりすることもあります。

15

10

5

1 次のものは、世代によってちがう言葉で

表されることがあります。家の人にきいたり、本で調べたりして、ちがう言い方を探してみましよう。

- スプーン
- キッチン
- シーツ
- スーツ
- コート

いかそう

世代のちがう人と話すときや、大勢の人の前で話すときなどは、だれにでも分かりやすい言葉を使うようにしましょう。

10

5

秋深し

立春 りっしゅん

雨水 うすい

啓蟄 けいちつ

春分 しゅんぶん

清明 せいめい

穀雨 こくう

立夏 りっか

小満 しょうまん

芒種 ぼうしゅ

夏至 げし

小暑 しょうしょ

〔りっしゅん〕

立秋

八月八日ごろ

〔ししよ〕

処暑

八月二十三日ごろ

〔はくろ〕

白露

九月八日ごろ



こよみのうえで、秋が始まる日。まだ残暑は厳しいが、ふく風に、秋が近いことが感じられるようになる。

暑さがやむという意味。立秋から十五日目に当たる。このころから少しずつ涼しくなり始める。

草木の葉につゆが結ぶころ。このころから、だんだん秋らしい感じが増してくる。



とことは(む)に吹く夕暮ぐれの風なれど

秋立つ日こそ涼すずしかりけれ

ふじわらのきんざね
藤原 公実

大暑 たいしよ

立秋 りつとう

処暑 しよしよ

白露 はくろ

秋分 あきぶん

寒露 かんろ

霜降 そうこう

立冬 りつとう

小雪 しょうせつ

大雪 たいせつ

冬至 とうじ

小寒 しょうかん

大寒 だいかん

【しゅうぶん】

秋分

九月二十三日ごろ



昼と夜の長さがほぼ等しくなる。これより後は、夜の時間が長くなっていく。秋のひがんの中日である。

白露や茨の刺に一つつつ

与謝蕪村

【かんろ】

寒露

十月八日ごろ



冷気に当たって、つゆもこおりそうになるころ。木々の葉も、紅葉したり、落葉したりするようになる。

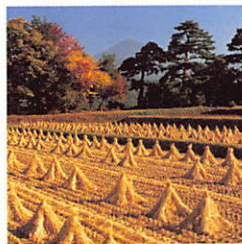
鶏頭に霜見る秋の名残かな

正岡子規

【そうこう】

霜降

十月二十三日ごろ



しもが降りるころ。虫の音が減り、寒さが増して、冬の到来が近づいてきたことを感じられるようになる。

「秋」といつても、時期によって、見られる風景はさまざまです。あなたの地域の今の

「秋」を、俳句や短歌に表しましょう。



話す・聞く

目的や条件に応じて、計画的に話し合おう

みんなが楽しく過ごすために

六年生は、学校や地域の行事などで、中心になって活動を行うことがありますね。ここでは、一年生との交流で、どんな遊びをするかということ为例に、話し合いのしかたを学んでいきましょう。そして、みなさんも、クラスで議題を決めて、グループごとに話し合いきましょう。



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

「いちばん大事なものは」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 議題を確かめ、目的や条件をはっきりさせる。

準備しよう

2 進行計画を立てる。
3 自分の考えを明確にする。

話そう
聞こう

4 進行計画に沿って、グループで話し合う。

つなげよう

5 話し合ったことをクラスで共有し、感想を伝え合う。

● ふりかえろう

7ページ
94ページ

1 議題を確かめ、目的や条件をはっきりさせよう。

自分たちが中心となって行う活動について、何を決める必要があるのか、議題を確かめましょう。活動に参加するみんなが満足できるように、活動の目的や条件を考え、話し合いの見通しをもちましよう。

2 進行計画を立てよう。

グループの中で、司会や記録係などの役割を決めて話し合います。次の例を参考に、時間配分を決めて、進行計画を立てましよう。

■進め方の例

- ① 一人ずつ意見を出し合う。
- ② たがいに質問し合い、疑問などを明らかにする。
- ③ 目的や条件に照らして話し合い、仮の結論を決める。
- ④ 実際に遊びをためして、問題点がないかを確かめる。
- ⑤ 必要に応じてさらに話し合い、最終決定する。

15

考えをまとめる
話し合い

考えを広げる
話し合い

10

5

議題

交流週間に、一年生とどんな遊びをしたらよいかを班ごとに考える

目的

楽しく遊んで仲よくなる

条件

- 遊ぶ時間は、水曜日の五時間目
- 一年生にも難しくない遊び
- 一年生も六年生も楽しめる遊び
- 危険のない遊び



結論
○班
○キ
○危険

3 自分の考えを明確にしよう。

1で考えた目的や条件に合わせて、自分の考えを整理しましょう。
主張や理由、根拠をはっきりさせましょう。

主張

- 目的と条件に合う意見や、議題に対する自分の立場
- 「——がよいと思う。」「——に賛成（反対）だ。」

5

理由

- なぜその主張がよいと考えるか
- 「——だから」「——と考えられるため」

根拠

- 主張を支える事実や体験などの、具体的な事例
- 「——は——である。」「——に——と書かれている。」「——といわれている。」「——ということがあった。」

10

4 進行計画に沿って、グループで話し合おう。



話し合うことの優先順位や、一つの話し合いにかける時間を意識しながら、話し合ひましょう。次の点が明確になるように、グループの考えを広げたりまとめたりします。話し合いの過程をみんなでき共有できるように、記録を取りながら進めましょう。

15

■考えをノートに書き出した例

根拠	理由	主張
自分がようち園のときに、小学生と いっしょにやって楽しめた。	<ul style="list-style-type: none"> おにごっこは、一年生にとってもルールが分かりやすいから。 じゃんけんをすることで、足の速さに関係なく、みんなが楽しめるところから。 	さわられても、じゃんけんて勝てばお にならないう「じゃんけんおにごっこ」 がよいと思う。

10

5

みんなで楽しめそうな
遊びが他にないか、調べ
てみようかな。



。優先

●話し合いの目的

話し合いを通して何を決めようとするのか。

●それぞれの考えの共通点や、異なる点

たがいに歩み寄れる点はどこか。

●それぞれの考えの利点や問題点

話し合いで解決すべき点は何か。

●考えを広げる話し合い

●発言するときは、結論や主張を先に言う。

ぼくは、「じゃんけんおにごっこ」がよい
と考えます。そのいちばんの理由は――。

●主張の意図や、理由・根拠をたずねる。

じゃんけんをするというルールで、足の速
さは本当に関係なくなるのでしょうか。



「言葉の宝箱」
たから

307ページ

10

5

■記録用紙の例

	主張	理由	根拠
関口	じゃんけんおにごっこ	<ul style="list-style-type: none"> • 一年生でも簡単。 • じゃんけんをするので、学年や足の速さに関係なく楽しめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ようち園のときにしたことがある。 • ようち園の子でもできる。 • みんなが楽しめた。
岡田			

5

「考えを図で表そう」

254ページ

● 考えをまとめる話し合い

・ 共通点や異なる点を明確にする。

・ 問題点と改善点を明確にする。

「伝えにくいことを伝える」

どの意見も、一年生でもできそうな遊びが中心になっています。異なっているのは、――。



じゃんけんを入れても、一年生がおにの場合、六年生には追いつくのは難しいから、――。



・ 改善点をふまえ、目的と条件に照らして、仮の結論を決める。
では、一年生も六年生も楽しめるように、「六年生は走らない」というルールを加えて、「じゃんけんおにごっこ」に決定します。



■ 記録用紙の例

- 岩崎さんたちは、決まった遊びを実際のためにためしてみました。うまくいきませんでした。そこで、次のことについて、話し合いを続けました。
- ・ うまくいかなかった原因は何か。
 - ・ 元のルールをどう改善すればいいか。
 - ・ みなさんも、必要に応じてさらに話し合いましょう。

5

原因	改善できること
ルールが全員で共有できていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールを簡条書きにして、整理する。 ・ 1年生に分かりやすいように、説明するときに実際にやってみせる。

5 話し合ったことをクラスで共有し、感想を伝え合おう。

グループでの話し合いの結果と感想を報告し合いましょう。



青木さんが別の遊びを例に改善案を出してくれたので――。



みんなの主張がばらばらだったので、初めは共通点を見つけてのりに苦労しましたが、――。



ふりかえろう

- 知る 考えを明確に示すために、どんな言葉を使うとよいと思いましたか。
- 話す・聞く 考えを広げたりまとめたりするときに、いちばん大事だと思うのはどんなことですか。
- つなぐ 話し合いがうまくいかないときは、どうすればよいと思いますか。

改善点



たいせつ

目的や条件にに応じて、
計画的に話し合う

- 目的や条件を確かめる。
- 自分の主張や理由、根拠を明らかにして話し合いにのぞむ。
- たいがいの考えをよく聞き、問題点を見つける。
- 考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いをくり返して、結論に向かう。



いかそう

自分たちが中心になって活動を進めるときには、目的や条件をはっきりさせて話し合いましょう。

伝えにくいことを伝える

私たちの日常生活では、話し合いで、相手の考えに対して否定的な意見を言うときなど、少し伝えにくいことを伝えなければならないときがあります。

ここでは、ボールの使い方に関する場面を例に、考えてみましょう。

ボールはクラスに一つしかないのに、いつも使う人が決まっている。みんな使ったほうがいいと思うんだけど、どう言ったらいいだろう。



5

1 どのような言えば、自分の伝えたいことが相手に正しく伝わるでしょうか。次のように言うと、相手はどう感じるでしょうか。

いつも自分たちだけがボールを持っていくのはずるい。自分勝手だよ。



いいなあ。ぼくもボールで遊びたいなあ。



他にもボールを使いたい人があるんじゃないかな。使い方のルールを決めようよ。



否定的

伝えるにくいことを伝えるときには、相手に正確に伝わり、また、冷静に受け止めてもらえるように、言葉や表現を選ぶ必要があります。伝えるときの表情や口調なども考えましょう。また、自分の伝えたいことを伝えるだけではなく、相手の主張を聞き、話し合うことも大切です。



2 どのような表情や口調で言えば、伝えたいことが相手に受け止めてもらえると思いますか。

10

5

3 次のような場面で、あなただったらどのような自分の考えや事情を伝えますか。となりの人と二人一組になって、一つ選び、やり取りをしてみましょう。

- 燃えるごみ専用のごみ箱に、びんを捨てているところを見かけた。
- 友達が、暑いからと、教室の窓を開けたが、自分は寒いと感じている。
- 至急、委員会に出席するように言われたが、習い事の時間に重なって行けない。
- 友達の家で、砂糖がたっぷり入った紅茶を出してくれたが、あまいものは苦手だ。

10

5

• ロク調

◦ 専用

◦ 捨てる

◦ 窓

◦ 至急

◦ 砂糖

◦ 紅茶

論
ロン

班
ハン

危
あぶない

優
ユウ

善
よ

否
ヒ

専
セン

捨
すてる

窓
まど

至
いたる

糖
トウ

紅
ベニ



漢字の広場

5年生で
習った漢字

3

絵の中のまほう使いは、どんなぼうけんをするのでしょうか。
作家になったつもりで、物語を書きましよう。

〈例〉 ある日、まほう使いのもとに、友達から招待状が
とどきました。



4

筆者は、『鳥獣戯画』を、どのように読んで
いるでしょうか。『鳥獣戯画』を読む」の表現
の工夫をいかして、あなたも日本の文化につい
て説明しましょう。

『鳥獣戯画』を読む

情報 調べた情報の使い方

日本文化を発信しよう



読む 書く

表現の工夫をとらえて読み、
それをいかして書く

これまでの学習

筆者の主張と、それを支える事例をとらえる
(笑うから楽しい・時計の時間と心の時間) …… 56 ページ



『鳥獸戯画』を読む

高畑 勲
たかはた いさお

はっけよい、のこった。秋草の咲き乱れる野で、蛙と兎が相撲をとっている。

蛙が外掛け、すかさず兎は足をからめて返し技。その名はなんと、かわず掛け。

おっと、蛙が兎の耳をがぶりとかんだ。この反則技に、たまらず兎は顔をそむけ、ひるんだところを蛙が――。

墨一色、抑揚のある線と濃淡だけ、のびのびと見事な筆運び、その気品。みんな生き生きと躍動していて、まるで人間みたいに遊んでいる。けれども、こんな人間くさいのに、何から何まで本物の生き物のまま。耳の先だけがぼちんと黒いのは、白い冬毛の北国の野ウサギ。蛙はトノサマガエル。まだら模様があつて、

5

外掛け

かわず掛け

どちらも、相撲の足技の一つ。

返し技

相手の技を外すと同時に切り返して掛ける技。



いく筋か背中が盛り上がっている。ただの空想ではなく、ちゃんと動物を観察したうえで、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描^{えが}いている。だから、この絵を見ると、さっきまで四本足で駆^かけたり跳^とびはねたりしていた本当の兎や蛙たちが、今ひよいと立って遊び始めたのだとしか思えない。

この絵は、『鳥獣人物戯画』甲^{こう}巻、通称『鳥獣戯画』の一場面。『鳥獣戯画』は、「漫画^{まんが}の祖」とも言われる国宝の絵巻物だ。なぜ漫画の祖とよばれているのか、この一場面を見ただけでもわかる。線のみで描かれ、大きさがちがうはずの兎と蛙が相撲をとっている。どこか、おかしくて、おもしろい。すごく上手だけれど、たしかに漫画みたいだ。でも、それだけではない。たぬしに、ぱっとページをめくってごらん。

10

5

○いく筋^{むす}

○盛り上^もがる

○甲^{カク}巻

『鳥獣人物戯画』

甲^{カク}巻

『鳥獣人物戯画』は全四巻から成る。甲

巻はその第一巻。

この文章では、筆者

は『鳥獣（人物 戯

画』のみ二重かぎ

（『』を用い、他

のかぎ（『』と区

別している。

○国^{コク}宝

○絵^エ巻^{マキ}物

どうだい。蛙が兎を投げ飛ばしたように動いて見えただろう。アニメの原理と同じだね。『鳥獣戯画』は、漫画だけでなく、アニメの祖でもあるのだ。漫画ならコマ割りをすればいいし、紙芝居でも、こんなふう^{しばい}に絵をさっと引きぬけば、同じことができる。それぞれ手法はちがうけれど、どれも、動きを生み出したり、場面をうまく転換^{かん}したりして、時間を前へと進めながら、お話を語っていく。それを、『鳥獣戯画』などの絵巻物では、長い紙に絵を連続して描くことでやった。この二枚の絵も、本当はつながっているのを、わかりやすいように、わざと切りはなして見てもらったのだ。実際に絵巻物を手にして、右から左へと巻きながら見ていけば、取っ組み合っていた蛙が兎を投げ飛ばしたように感じられる。

もう少しくわしく絵を見てみよう。まず、兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ているのに気がついたかな。いったいこれはなんだろう。けむりかな、それとも息かな。ポーズだけでなく、目と口の描き方で、蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合いがこもっていることがわかるね。そう、きつとこれは、「ええい！」とか、「ゲロロツ」とか、気合いの声なのではないか。まるで漫画のふき

10

5

アニメ

アニメーションの略。複数の絵などをさつえいし、映写して動くように見せる技術。また、その技術を使った映画やテレビ番組。

コマ割り

漫画の一つ一つの場面の絵をコマといい、コマをどのような大きさと、どのように配置するかをコマ割りという。



出しと同じようなことを、こんな昔からやっているのだ。

もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線。勢いがあって、絵が止まっていない。動きがある。しかも、投げられたのに目も口も笑っている。それがはつきりとわかる。そういえば、前の絵の、応援えんしていた兎たちも笑っていた。ほんのちよつとした筆さばきだけで、見事にそれを表現している。たいしたものだ。では、なぜ、兎たちは笑っていたのだろうか。蛙と兎は仲良しで、この相撲も、対立や真剣勝負けんを描いているのではなく、蛙のずるをふくめ、あくまでも和気あいあいとした遊びだからにちがいない。

絵巻の絵は、くり広げるにつれて、右から左へと時間が流れていく。ではもう一度、この場面の全体を見



てみよう。まず、「おいおい、それはないよ」と、笑いながら抗議する応援の兎が出てきて、その先を見ると、相撲の蛙が兎の耳をかんでいる。そして、その蛙が激しい気合いとともに兎を投げ飛ばすと、兎は応援蛙たちの足元に転がって、三匹の蛙はそれに反応する。一枚の絵だからといって、ある一瞬をとらえているのではなく、次々と時間が流れていることがわかるだろう。この三匹の応援蛙のポーズと表情もまた、実にすばらしい。それぞれが、どういう気分を表現しているのか、今度は君たちが考える番だ。

この絵巻がつくられたのは、今から八百五十年ほど前、平安時代の終わり、平家が天下



を取ろうとしていたころだ。『鳥獣戯画』だけでは
ない。この時代には、ほかにもとびきり
すぐれた絵巻がいくつも制作され、上手な
絵と言葉で、長い物語を実に生き生きと語っ
ている。そして、これら絵巻物に始まり、江戸^{えど}
時代には、絵本（絵入り読み物）や写し絵
（^{げん}幻灯芝居）、昭和時代には、紙芝居、漫画や
アニメーションが登場し、子どもだけでなく、
大人もおおいに楽しませてきた。十二世紀か
ら今日まで、言葉だけでなく絵の力を使って
物語を語るものが、とぎれることなく続いて
いるのは、日本文化の大きな特色なのだ。

十二世紀という大昔に、まるで漫画やアニメ
のような、こんなに楽しく、とびきりモダ

んな絵巻物が生み出されたとは、なんとすてきでおどろくべきことだろう。しかも、筆で描かれたひとつひとつの絵が、実に自然でのびのびしている。描いた人はきつと、何物にもとらわれない、自由な心をもっていたにちがいない。世界を見渡^{わた}しても、そのころの絵で、これほど自由闊達^{かっ}なものはどこにも見つからない。描かれてから八百五十年、祖先たちは、幾多^{いく}の変転や火災のたびに救い出し、そのせいで一部が失われたり破れたりしたにせよ、この絵巻物を大切に保存し、私^{わたくし}たちに伝えてくれた。『鳥獣戯画』は、だから、国宝^{たから}であるだけでなく、人類の宝^{たから}なのだ。



5

自由闊達

物事にこだわらず、自分の思うままに行動するさま。

●宝^{たから}

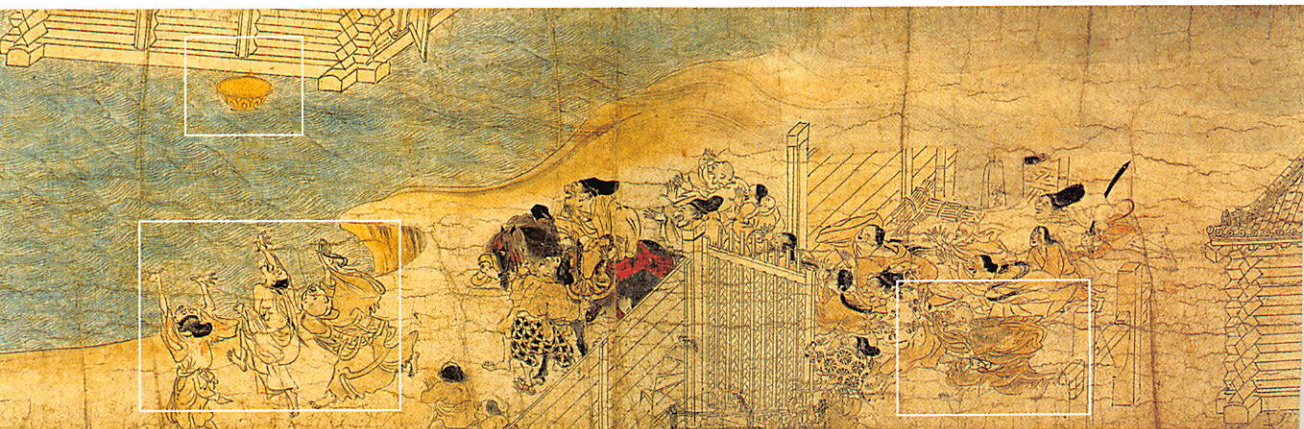
高畑 勲

一九三五〜二〇一八年。アニメーション映画監督。

この文章は、二〇〇八年に書かれ、二〇一二年に改稿^{こうこう}された。

『鳥獸戯画』と同じ時代に 生まれた絵巻物

「信貴山縁起絵巻」^{しぎさんえんぎ} 飛倉^{とびくら}の巻より
倉が動き、鉢^{はち}が転がり出る。それにおど
ろいた人々が上を見上げながら裏戸を走
り出てくる。その行く手に、鉢に乗って
倉が空を飛んでいく。人々はこの不思議
な出来事を追いかけているのである。



「伴大納言絵巻」^{ばんだいなごん} 上巻より
人々が大きな門に駆けこんでいく。門
の屋根に飛び火が見える。それに気づ
いた男が指をさしている。門の中は左
上の方を見上げるやじ馬でいっぱい。
走っていく人やもどってくる人。何事
だろう。絵の左上に黒いけむりが。実は、
さらにこの絵の続きに、燃えさかる大
火事が描かれているのである。





見通しをもとう

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書く

貴重

- ・ 論の展開や表現の工夫、絵の示し方に気をつけて読もう。
- ・ 日本文化について調べ、よさが伝わるように、表現を工夫して書く。

とらえよう

- 絵と文章を照らし合わせながら、次のことを読み取ろう。
- ・ 筆者は、絵全体の中で、どの部分を取り上げているか。
——どの兎か、兎のどこかなど
- ・ 取り上げた対象の、何に着目しているか。
——形、大きさ、色、格好など

5

ふかめよう

- 筆者は、「絵」と「絵巻物」の二つの事がらについて、自分の評価を述べている。
- ・ 「絵」のどこが、どのようによいと考えているのか。筆者の評価が書かれている表現を見つけよう。
- ・ 「絵巻物」について、筆者はどのようなものだと説明し、どう評価しているだろうか。

10

1 筆者の工夫について考えるために

〈論の展開について〉

- ・ 絵巻物の説明をするときに、漫画やアニメのことを出した理由。

〈表現の工夫について〉

- ・ 文末を「——だ。」などとせず、「返し技」「かわず掛け」とすることで生まれる効果。

〈絵の示し方について〉

- ・ つながっている絵を、143ページと145ページとに分けて示した効果。また、146・147ページで、再度示した理由。

5

「世界を見渡しても、——
見つかっていない。」と書いて
あると、貴重さがよく伝わっ
てくるな。



10

ひろげよう

● まとめたことについて、グループで報告し合おう。友達が
見つけた表現の工夫などで、自分も使ってみたいものは
あるだろうか。

まとめよう

- 学校図書館などを利用し、日本文化について書かれた本
を読もう。「『鳥獣戯画』を読む」で学んだことをもとに、
次の点についてまとめよう。
- よさを説明したり、評価を述べたりしているところで、
まねしたいところ。
- 写真や絵の使い方、説明のしかたで効果的だと思った点。

2

10

- 筆者は、自分の見方を読者に伝えるために、どのような
工夫をしているだろう。気づいたことを書き出そう。
- 論の展開について
- 表現の工夫について
- 絵の示し方について

1

5



たいせつ
筆者の考えと表現の工夫を
とらえる

- 筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い
方との関わりを考えて読む。
- 取り上げたものに対して、何に着目し、どの
ような言葉で説明や評価をしているかをとら
える。

5



花火の大図鑑^{かん}



ニッポン紹介^{しょうかい}

2 日本文化について書かれた本



和楽器



世界遺産になった食文化



調べるときに使おう

調べた情報の使い方

調べた情報を適切に用いよう

説明したり、考えを述べたりするとき、調べた情報を用いると、正確さや説得力を高めることができます。これまでに学んできた情報の用い方をふり返りましょう。

和食の特徴は、季節感を大切にすることだ。「和食のひみつ事典」では、「季節の食材を使うことを重視する」とされている。

〈参考〉

木村良子「和食のひみつ事典」
二〇二〇年、ひかり図書

● 引用する

- ① かぎを付けたたり、本文よりも少し下げたりして、引用部分
が他と区別できるようにする。
- ② 元の文章を、そのままぬき出す。
- ③ 何から引用したのか、出典を示す。

● 出典を示す

調べるときに使った本などを書く。本は、「筆者」「書名」「発行年」「出版社」を示す。

だれかが一生けんめい
考えて作った作品だから、
ルールを守って、使うこ
とが大事だね。

著作権を尊重しよう

人のまねではなく、自分で工夫して考えや思
いを表現した文章や音楽、絵などを、著作物と
いいます。あなたの作品も、著作物です。

著作物を作った人には、著作権という権利が
あります。適切に引用し、出典を示す場合を除
いて、著作物を使うときには、
作った人の許可が必要です。

許可なしに無断で使用したり、
変えたりしてはいけません。

調べた情報を自分の表現に用
いるときには、気をつけま
しょう。



著作権

309 ページ

日本文化を発信しよう

「『鳥獣戯画』を読む」では、筆者は、絵と文章を組み合わせたり、効果的な表現を用いたりして、私たちに『鳥獣戯画』のみりよくを伝えていました。ここでは、日本文化について調べ、そのよさが読み手に伝わるように構成や絵、写真の見せ方を工夫して、パンフレットにまとめましょう。



1 題材を決めて、構想を練ろう。

文章の読み手を確かめて、グループでどのような日本文化を取り上げるかを決めましょう。取り上げるものが決まったら、どんなパンフレットを作るか、おおまかな内容を考えましょう。

5

●学習の進め方

1 題材を決めて、構想を練る。
くわしく調べる。

3 パンフレットの構成を決める。
4 割り付けを決め、下書きを書く。

5 パンフレットを完成させる。

6 感想を伝え合う。

2 くわしく調べよう。

本や新聞、インターネットなどを活用して、情報を集めましょう。実際に見学に行ったり、インタビューをしたりしてもいいですね。

3 パンフレットの構成を決めよう。

集めた情報を整理して、パンフレットの構成を決め、だれがどのページを書くか分担しましょう。

4 割り付けを決め、下書きを書こう。

絵や写真の使い方を考えて、ページの割り付けを決めましょう。最も伝えたいことを明確にして、それにふさわしい割り付けを考えます。割り付けが決まったら、どのように文章を構成するかを考えて、下書きをします。書いたものはグループで読み合い、記事の内容や表現を検討しましょう。

10

5

■パンフレットの構成の例

●素材をいかした食文化 和食のみりよく	[表紙・目次]
●新鮮な食材の持ち味をいかす	[2]
●栄養バランスのよさ	[3]
●季節と自然の美しさ	[4]
●和食と行事	[5]
●日本各地の伝統食	[6・7]
●私たちの地域の伝統食／参考	[裏表紙]

■文章構成の例

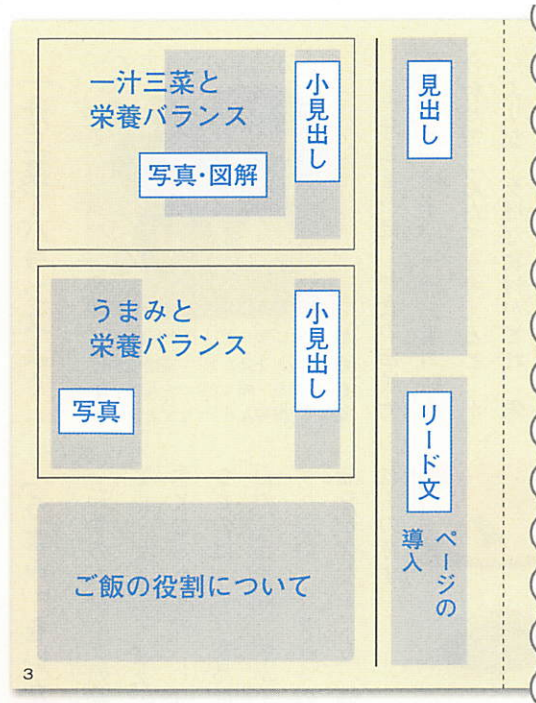
- みりよく伝えたい。
↓理由や事例を挙げて説明する。
- 歴史をしようかしたい。
↓出来事を時代順に述べたり、出来事が起きた原因と結果の関係で整理したりして示す。
- 読み手が疑問に思いそうなことを説明したい。
↓「初め」に「問い」を書き、それに答えながら説明する。

15

10

5

■ページの割り付けの例

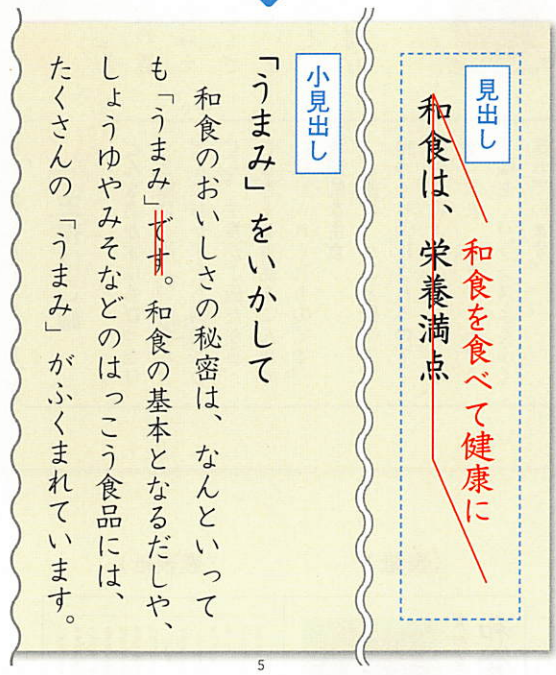


いくつか事例を挙げて、和食の栄養バランスのよさを伝えようと思うんだ。

「一汁三菜」のところは、写真を使って説明したらどうかな。



■下書きの例



単に「栄養満点」というより、「健康」という言葉を使ったほうが、和食のよさが伝わるな。

『うまみ』。と言い切った形にすると、強調できる。



○秘
密

○分
担

5 パンフレットを完成させよう。

下書きに従って記事を清書し、紙面を完成させましょう。
 全員の方が完成したら、一冊にまとめましょう。

紙面の例

和食を食べて健康に

伝統的な和食は、栄養バランスのよさが特長です。健康的な食生活のために、和食を取り入れてみてはどうですか。

一汁三菜でバランスよく

一汁三菜のこんだて



- ① 主食(ご飯など): 炭水化物
- ② 汁物(みそ汁など): 適度な水分
- ③ 主菜(魚・肉など): たんぱく質
- ④ 副菜(野菜など): ビタミンなど

「一汁三菜」は、和食の伝統的なこんだてです。一汁三菜の組み合わせでこんだてを考えると、かたよりなく多様な食材がとれ、栄養バランスがよくなります。

「うまみ」をいかして

和食のおいしさの秘密は、なんといっても「うまみ」。和食の基本となるだしや、しょうゆやみそなどはつこう食品には、たくさん「うまみ」がふくまれています。この「うまみ」のおかげで、油分が少なくても、満足感が得られるのです。



主役はご飯

どんなおかずにもぴったり
 ご飯は、魚、肉、野菜など、どんなおかずとも相性ばつぐん。主食がご飯だから、さまざまな食品をこんだてに取り入れられるのです。
 理想的な主食
 ご飯は、パンと比べて、ゆっくり消化されるので、腹もちのよい主食といえます。また、体をつくるアミノ酸も、バランスよくふくまれています。

3

〈表紙〉

〈裏表紙〉



題名

目次

参考にした資料

〈参考〉

- 中川高史「日本の食文化」ひかり社、2017年
- 細川かおり「みんなが知らない和食のひみつ」山村図書、2020年

6 感想を伝え合おう。

友達が作ったページや、他のグループのパンフレットを読んで、工夫されていると感じたことを伝え合いましょう。

写真を使って図解されているから、「一汁三菜」がどんなものかよく分かった。



ふりかえろう

- 知る どのような表現の工夫を見つけ、パンフレット作りにかきましたか。
- 読む 絵と文章を照らし合わせながら読んだとき、どのようなことに気づきましたか。
- 書く 友達のパンフレットの構成や表現で、工夫されていると思ったところはどこですか。
- つなぐ 絵や写真などを用いた文章を読んだり書いたりするときにかきたいのは、何ですか。

○ 従したがう



たいせつ 伝えたいことに合わせた
構成を考える

- 伝えたいことを明確にし、それが効果的に伝わる文章構成を考える。
- 絵や写真などと文章との組み合わせを工夫して、読み手を引きつける。

★ いかそう

パンフレットなどを作るときには、構成や絵、写真などの使い方を考えましょう。

筋 キン
すじ

盛 モル

巻 カン
まく

宝 ホウ
たから

貴 キ

著 チョ

権 ケン

尊 ソン
たつと
い

担 タン

303 ページ

秘 ヒ

従 ジユウ
したがう
したがえる

伝えられてきた文化

古典芸能の世界

演じて伝える

昔の人が楽しんだ演劇には、今も続いているものがあります。それぞれの特色を見てみましょう。

狂言

狂言は、室町時代に行われるようになった演劇で、その内容は観客を笑わせる喜劇です。多くの作品が、二、三人の登場人物で上演され、せりふやしぐさを中心としたものになっています。

また、狂言は、何もない舞台の上で演じられます。そのため、役者自身が、動物の鳴き声や鐘の音などを声に出して表現します。観客は、そこから様子を想像して楽しむのです。

能

能も、狂言と同じく、室町時代に行われるようになった演劇ですが、その内容は悲劇です。登場人物の他に、歌や楽器の担当など、十数人が登場します。

さらに、主人公の多くは、能面を用います。顔の向きを変えることで表情を変化させることができ、観客は、そこから登場人物の気持ち想像して、楽しめます。

能と狂言は、同じ舞台で演じられ、能の間に狂言が演じられることが多くあります。



能「羽衣」で使われている能面
演者は、顔の向きによって、表情のちがいを見せる。

「狂言 柿山伏」
163 ページ

歌舞伎

歌舞伎は、江戸時代

に誕生した、音楽やお

どり、登場人物のせり

ふやしぐさといった要

素を合わせた演劇です。

歌舞伎には、独特な演

出や演技があります。

隈取……筋肉などを強調した表現で、表情や

役がらを印象づける化粧のしかた。

見得を切る……見せ場で体の動きを止めて、目を大

きく開いてにらむ動き。



隈取



見得を切る



人形浄瑠璃(文楽)

人形浄瑠璃は、江戸時代に生まれました。

せりふや場面の様子などを語る「太夫」、

伴奏の「三味線」、人形をあやつる「人形

づかい」によって演じられます。一つの人

形を、顔と右手を動かす「主づかい」、左

手を動かす「左づかい」、両足を動かす「足

づかい」の三人で動かします。

この本、読もう

道成寺



かたつむり



▼知りたくなったことや、見てみたいと思ったものについて、友達と話したり調べたりしましょう。





カンジー博士の

漢字学習の秘伝

カンジー博士は、弟子^{でし}たちに漢字を学習する秘伝をさずけようとしています。
あなたも、弟子たちといっしょに、漢字博士を目ざしましょう。

演奏がじょうたつする。



「たつ」という漢字の、横の線は何本かな。



秘伝その一

複雑な形や、見慣れない形の漢字は、次の

ような点に注意すること。

- 線の数
- 点があるかないか
- つき出すかつき出さないか など

5

郵便局が遠くて便りを出すのが不便だ。

——線は、全てちがう読み方じゃ分かるかな。



複数の音訓をもつ漢字は、読み方ごとに熟

語や例文を作ると、身につきやすい。

秘伝その二

5

○^カ拡大

○^{ユウ}郵便局
○^{ソウ}演奏

生産の拡大をこころみる。



秘伝その三

漢字を学習するときには、送り仮名もいっしよに書くなど、工夫すること。

究極の秘伝

自分が苦手とする漢字を知り、学習にいかすこと。



1

線の言葉を、漢字で書きましょう。

(1) 体操のこうしゅうに参加する。

(2) はくぶつ館で、絹の歴史を学ぶ。

(3) 米俵を荷台につむ。

(4) はつ日の出を拝む。

2

線は、それぞれ何と読むでしょう。

(1) 火花・聖火 (2) 家路・作家・家賃

(3) 行列・孝行 (4) 金具・預金・黄金

3

送り仮名に気をつけて、線の言葉を、漢字で書きましょう。

(1) 持ち物を一覧表にしたしかめる。

(2) 鉄鋼の輸出量がふえる。

(3) 死亡事故の原因をあきらかにする。

奏 ソウ
孝 コウ

郵 ユウ
預 ヨ

あずける
あずかる

拡 カク
覧 ラン

操 ソウ
鋼 コウ

絹 キヌ
亡 ボウ

俵 ヒヨウ
たわら

拝 オガム
おがむ

聖 セイ
せい

賃 チン
ちん

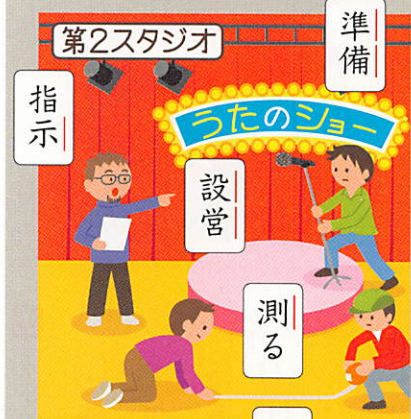
死 ○亡 ○鉄 ○鋼 ○一 ○覧 ○表 ○黄 ○金 ○預 ○金 ○孝 ○行 ○家 ○賃 ○聖 ○火 ○拝 ○む ○米 ○俵 ○絹 ○綿 ○体 ○操



漢字の広場

5年生で
習った漢字

4



テレビ局で見学したことについて、家の人に分かりやすく伝える文章を書きましょう。
〈例〉 第一スタジオでは、国際情勢をテーマにした番組のさつえいをしていました。



読む

伝統文化を楽しもう

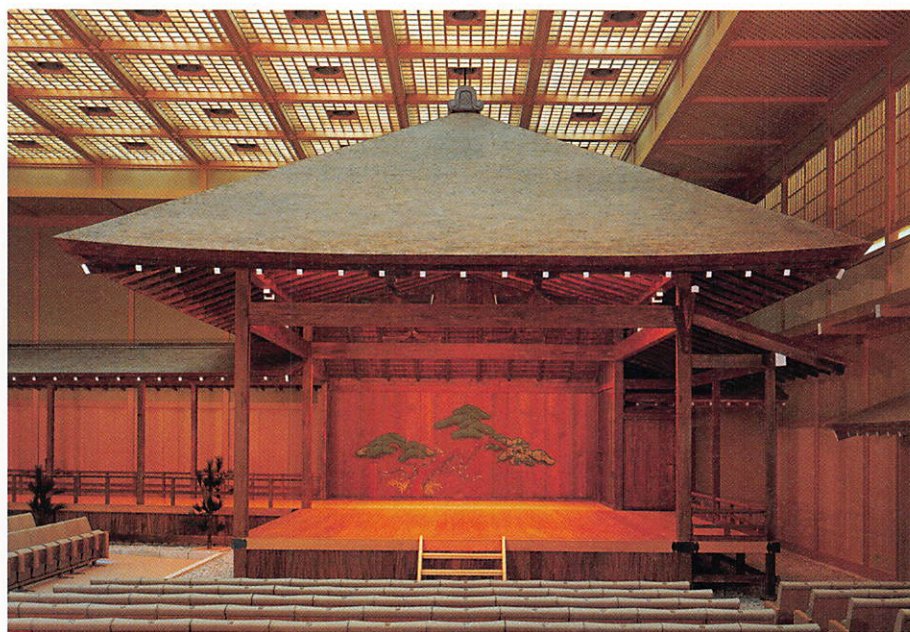
狂言^{きょうごん}
柿山伏^{かきやまぶし}
「柿山伏」について

5

狂言は、室町時代^{むろまち}に行われるようになった、演者のかけ合いによる劇です。現代でも楽しまれている伝統文化にふれるとともに、昔の人のものの方・感じ方について知りましょう。



狂言 柿山伏



狂言は、せりふやしぐさを主とした劇で、能舞台の上で演じられます。主役を「シテ」、その相手役を「アド」といいます。せりふは昔の言葉のまま、独特の調子があります。観客に自己しゅうかいをしたり、物音を言葉で表したりするといふような工夫もされています。

狂言には、大名、大名に仕える家臣、山伏、農民、神、かみなり、おになどさまざまな人物が登場し、それぞれが引き起こす失敗やまちがいが楽しく愉快に演じられます。

みなさんも、登場人物のせりふややり取りから、狂言のおもしろさを味わってみましょう。

▼役割を決め、音読をしましょう。せりふに合ったふりを付けたら、演じたりしてもいいでしょう。

10

5

山伏

こんごうづえやほら貝などを持って、山中で修行する者。

自己コ

貝をも持たぬ：

うそをふく

ほら貝を持っていないので、口笛をふくうと言っている。

出羽の羽黒山

今の山形県にあり、

登場人物

シテ 山伏
アド 柿主



山伏 目をも持たぬ山伏が、目をも持たぬ山

伏が、道々うそをふこうよ。(と歌う。)こ

れは出羽てわの羽黒山はぐろさんよりいでたる、かけ出の

山伏です。このたび大峯おおみね・葛城かつらぎをしまい、

ただいま本国(帰る。)へまかり下る。まず急いで参

ろう。

(歩きだして) いやまことに、行は万行ぎようまん

ありとは申せども、とりわけ(とりわけ)山伏の行は、

5

野に伏し山に伏し、岩木をまくらとし、難
行苦行をいたす。その奇特きどくには、空飛ぶ鳥
をも目の前まへのり落とすが、山伏の行力ぎようりき
です。

これはいかなこと。(どうしたとか。)今朝、宿を早々立つ

たれば、ことの外(腹が減った。)ものほしゅうなった。辺

りに人家はないか知らぬ。いや、あれに見

事な柿がなっている。さらばこの刀で、

かち落(打ち落として)として食たびよう。(食べよう。)えいえい、やっとな、えいえい、やっとな。なかなか届くこ

とではない。何なにといたそう。いや今度は

つぶてを打とう。これに、幸い手ごろな石

がある。さらば(それならば)、これを打とう。えいえい、

やっとな。なかなかそばへも行かぬ。また、

これによい石がある。さらば、これを打と

と

15

10

5

昔から山伏の修行場として有名。「出羽」は、現在の秋田県・山形県を合わせた地域。

大峯・葛城をしまい

大峯(奈良県)、葛城(和歌山県と大阪府、奈良県と大阪府の境付近)で修行を終えて。

行は万行あり

修行の道は数多くある。

奇特

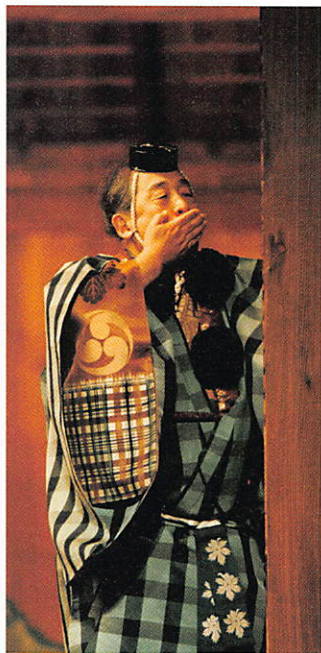
不思議な効き目。

行力

修行を積んで得た力。

ことの外ほか

届くとどく



う。えいえい、やっとな。なかなか当たる
 ことではない。何といたそう。いや、これ
 へ上って食べと言わんばかりの上々の上り
 所がある。さらばこれへ上って食べよう。
 えいえい、やっとな。(かずらおけ 葛桶の上にかかる。)
 さてもさても、下で見たとはちごうて、格
 別見事な柿じゃ。これはどれにいたそうぞ。
 いや、これにいたそう。やっとな。(取る
 しぐさをする。)さらば食べよう。(食べるし
 ぐさをする。)

10

5

さてもさてもうまい柿じゃ。いま一つ
 食べよう。やっとな。(食べるしぐさをする。)
 食ぶれば食ぶるほど、うまい柿じゃ。いま
 一つ食べよう。やっとな。(取って)やあ、
 これはちと青いが、しぶうなければよい。
 まず食うてみよう。(みよう。)(口から種をはき出すよ
 うにして)ああ、しぶや、しぶや、うまい
(うまいもの
 を食べた口が、きんざんなことになった。)
 口をきんざんにいたいた。腹も立つ、口直
 しにいま一つ食べよう。

柿主 (山伏が柿を食べ始めるところに登場して、

名のる。)これはこの辺りに住まいいたす者
 でござる。(私)それがし樹木をあまた持った(たくさん)ご
 ざるが、当年は、とりわき柿が大なりいた
 いてござるによって、毎日見まうこと(見回る)でござ
 る。また今日(こんにち)も見まおうと存(ぞん)ずる。まず、

10

5

葛桶

狂言で小道具として
 使われる、黒いうる
 し塗りの容器。

そろりそろりと参ろう。(歩きだし) いやま

ことに、総じて柿の色づく時は、(とかく)えて、

とび・からすの付きたがるものでござるに

よって、少しも油断のならぬこととござる。

(山伏の落とした柿の種が頭に当たって) はて、

合点のいかぬ。がてん空から柿の種が落つるが、

何としたことじゃ(分らない)知らぬ。(山伏のいる方を

見て)これはいかなこと。(いかめしい)いかめな山伏が、

上って柿を食ろう。さてさてにくいやつで

ござる。

柿主 やい、やい、やい、やい。

山伏 そりや、見つけられたそうな。かくれ

ずはなるまい。(と、顔をかくす)

柿主 さればこそ、顔を(かくした)かくいた。あの柿の

木のかげへかくれたを、(よくよく)ようよう見れば、

15

10

5



人ではないと見えた。

山伏 (安心した。) まず落ち着いた。人ではないと申す。

柿主 あれはからすじゃ。

山伏 やあ、からすじゃと申す。

柿主 からすならば鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか。

山伏 これは鳴かずはなるまい。

柿主 おのれ、鳴かずは人であろう。その弓

(よこせ)
矢をおこせ、ひとや一矢に射殺いてやろう。



5

山伏 こかあ、こかあ、こかあ、こかあ。

柿主 (笑って) さればこそ、鳴いたり鳴いたり。また、あれをようよう見れば、からすではのうてさるじゃ。

山伏 やあ、今度はさるじゃと申す。

柿主 さるならば、(毛づくろい)身せせりをして鳴くものじゃが、おのれは鳴かぬか。

山伏 身せせりをして、鳴かずはなるまい。

柿主 おのれ、鳴かずは人であろう。その



5

やりを持ってこい、つき殺いてやろう。

山伏 (手でこしをかくようにしながら) きゃあ、

きゃあ、きゃあ、きゃあ。

柿主 (笑って) 鳴いたり鳴いたり。さてさて

(あいつ) きやつは、物まねの上手なやつじゃ。何ぞ、

困ることはないか知らぬ。おおそれそれ、

また、あれをようよう見れば、からずでも

さるでものうて、とびじゃ。

山伏 やあ、今度はとびじゃと申す。

柿主 とびならば、羽(のばして)をして鳴くものじゃ

が、おのれは鳴かぬか。

山伏 羽をのして、鳴かずはなるまい。

柿主 おのれ、鳴かずは人であろう。その鉄

砲(ぼう)をおこせ、一撃(うち)にしてやろう。

山伏 (おうぎを開いて、両方のそでではばたく

15

10

5

ようにしながら) ひいよろよろ、ひいよろ、
ひいよろ、ひいよろ。

柿主 (笑って) 鳴いたり鳴いたり。さて、最

前からよほど間(ま)もござるによって、もはや

飛びそうなものじゃが、飛ばぬか知らぬ。

山伏 これはいかなこと。この高い所から飛

べと申す。

柿主 ちとう(うかれさせて)かいてやろう。(おうぎで左手を

打ち、ひょうしを取りながら) はあ、飛ばう

ぞよ。

山伏 ひい。

柿主 (だんだん速く) 飛びそうな。

山伏 ひい。

柿主 飛ばうぞよ。

山伏 ひい。

15

10

5

○困(こま)る



柿主 飛びそうな。

山伏 ひい、ひい、ひい、ひい、ひい、ひい。

よろ、よろ、よろ。(足を縮めて飛び下りて、

転ぶ。)あ痛、あ痛、あ痛。

柿主 (よい格好だな) よいなるの、よいなるの。急いでもど

ろう。(と、行きかける。)

山伏 やいやい、やいそこなやつ。(そこにいる)

柿主 (ふり返って) やあ。

山伏 やあとは、おのれ、にくいやつ。最

前から、この尊い山伏を、鳥類畜類にたと

えるのみならず、あまっさえとびじやと言

う。総じて山伏の果ては、とびにもなると

いうによって、それがしも、はやとびに

なったかと思つて、あれ、あの高い所から

飛うだれば、まだうぶ毛も生えぬ山伏を飛

山伏の果ては、
とびにもなると
いう

てんぐが空を飛ぶと
きにとびに化けると
いう言い伝えから、
山伏も行力を得ると
びになれるだろうと
思つた。

ないことがあるう。
なかるべき。(数珠をすりながら)ぼろんぼろ、

ぼろんぼろ、ぼろんぼろ。橋の下のしょう

ぶは、^(だれが)たが植えたしょうぶぞ、折れども折

られず、刈れども刈られず。ぼろんぼろ、

ぼろんぼろ。

柿主 このような所に^(長くはないほうがよい。)長居は無用。急いで

もどろう。^(歩きですが)や、これはいかなこ

と。いのりもどさるるそうな。(と、いのりが

効いたふりをして、後ろ向きに山伏のところ

もどる。)

柿主 やいやい、^(しかたがない。)ぜひにおよばぬ。宿へ連れ

ていて看病しようほどに、これへ負われい。

(山伏の前に背を向け、ひざをつく。)

山伏 心得た。

柿主 ^(しっかりと、つかまっていなさい。)きつと、とらえていよ。

15

10

5



山伏 心得た。(背負われる。)

柿主 えいえい、やっとな。(立ち上がる。)

やい聞かか。

山伏 何事じゃ。

柿主 うちへ連れていて、看病するはやすけ

れど、おのれがように柿をぬすんで食ろう

山伏は、まっ(全くこのように)こうしておいたがよい。(山

5

伏をふり落として退場。)

山伏 あ痛、あ痛、あ痛。(起きて) やいやい

やいやいやい、この尊い山伏をこのように

打ちたおいて、生来しょうらいがようあるまい。あ

の横着者(けしからんやつ)、とらえてくれい。(にがさないぞ) やるまいぞ、

やるまいぞ。やるまいぞ、やるまいぞ。(柿

主を追って退場。)

5

生来

性格・性質。

退場ダイ

己コ

届とどける

困コン

看カン

尺シヤク

染そめる

退タイ

「柿山伏」について

やまもと
山本 東次郎

次の文章を読んで、昔の人のものの見方や感じ方を
知り、狂言の楽しみ方を広げましょう。

狂言は日本の古典芸能です。古典とは、人々の大切な心の財産として、長い間受けつがれてきたものです。そして、それは私たちに、人間とは何かを教え、生き方について考えるヒントをあたえてくれるお手本のようなものです。

狂言の「柿山伏」は、空腹のあまり、他人の柿の木に登って、勝手に柿を食べてしまった山伏が、その持ち主にこらしめられるお話です。山伏は厳しい修行を積みましたが、生きていく以上、やはりおなかもすきます。多くの力や術を身につけたといばっていますが、手品のように食べ物を出すことはできません。山伏もふつうの人間と変わりないのです。狂言は、特別な人の身の上に起こった特殊しじな事件ではなく、だれの身にも起こり、だれもが経験しそうな出来事をえがいています。見る人々がそれぞれ、自分のこととして考えるとよいのです。

柿の持ち主にかからわれた山伏は、木の上で、言われるままに、必死になってか

らす・さる・とびのまねをします。それは、だれもが、そうした立場になれば自分の罪をおおいかくそうとする姿を、こんな形で表しているのです。この山伏のこっけいな姿から、自分がやった悪いことを認めたり反省したりせずに、あくまでも知らないと言ひ張ってごまかそうとする人たちを思いうかべる人もいるでしょう。

しかし、狂言は、そのおろかさを責めたり、追いつめたりするようなことはしません。人間はかしこさもおろかさも、みな同じようにもっているのです。それを理解していれば、だれもみな、ゆったりと広い心をもって、いたわり合いながら、仲よく楽しく生きていけると、狂言はいつているのです。

また、柿くらい食べさせてやってもいいではないかと思う人もいるでしょう。今の日本には食べ物があふれるようにありますが、狂言の生まれた時代は、そうではなかったのです。柿の実は大切な食料で、柿の持ち主はそれをとても大事にして、毎日見回りに行っていたくらいなのです。それを、断りもなく勝手に食べられてはたまりません。柿の持ち主は、決して心がせまいのではないのです。狂言は、いつの時代にも変わらない人間の姿をえがきますが、そのお話が生まれたころは、現代と少し事情のちがうこともあるのだということも、頭に入れておいていただきたいと思います。

15

10

5

山本 東次郎

一九三七年、東京

都生まれ。狂言師。

人間国宝。



書く

書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう

大切にしたい言葉

みなさんは、この六年間で、どんな言葉に出会いましたか。その言葉に出会って、ものの見方はどのように変わりましたか。あなたが大切にしたい言葉について、経験と結び付けて書きましょう。



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

 8ページ

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 座右の銘めいにしたい言葉を決める。

2 構成を考える。

組み立てよう

3 下書きをし、読み合って推敲こうする。

4 書き表し方を工夫して書く。

書こう

つなげよう

5 読み合って、感想を伝える。

● ふりかえろう

1 座右の銘にしたい言葉を決めよう。

座右の銘とは、いつも身近において、自分をはげましたり、自分の目標としたりする言葉のことです。だれかに言ってもらったり、新聞や本を読むなどして見つけたりした言葉の中から、自分の座右の銘にしたい言葉の一つ選びましょう。選んだ言葉と、それに結び付く経験について思い出し、友達に話しましょう。

2 構成を考えよう。

どのくらいの字数で書くかを決めましょう。その字数の中で、伝えたいことが伝わるように、簡単な構成を考えましょう。

みんなの文章を、卒業文集にのせたい。一人八百字ぐらいで書くと、全員のせられそう。



10

5

体操の大会で優勝した川野歩実選手の言葉かな。新聞記事を読んで、とても心に残ったんだ。

私は、ヘレン・ケラーの伝記にあった言葉を、座右の銘にしたい。児童会に立候補することを迷った経験と結び付くんだ。

■組み立てメモの例

八百字程度（原稿用紙二枚程度）

初め

- 選んだ座右の銘。

中

- 座右の銘についての説明。
- 座右の銘に結び付く経験。

終わり

- 今後、座右の銘を大切にしながら、どのように生活していくか。

5



3 下書きをし、読み合って推敲しよう。

下書きをしたら友達と読み合い、次のことを話し合いましょう。書き直したほうがいいと思うところを、赤字で書きこみましょう。

- 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。

• 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

「言葉の宝箱」

307ページ

私が座右の銘にしたい言葉は、「日々の積み重ねが自信をつくる」だ。これは、二〇二〇年十月二十四日のひかり新聞でのインタビュー記事の中で私が読んだ、体操選手の川野歩実さんの言葉だ。

くわしく書く。言葉を選ぶ。
本番が終わってから残念に思った。うまくいかなかったのは、自分に自信がなかったからだ。同じ場面の登場人物を演じた花村さんは、大きな声で、いきいきと演じていた。

15

10

5

「これは、二〇二〇年—」の文は、長いね。二文に分けたら、読みやすくなると思う。

「残念に思った」は、どう残念だったのかをくわしく書いたらどう。

「残念」よりもふさわしい言葉があるかもしれないね。



推敲

一度書いた文章をよりよくするために、修正などを行うこと。

307ページ

4 書き表し方を工夫して書こう。

話し合ったことをもとに書き方を考え、清書しましょう。

私が座右の銘にしたい言葉は、

「日々の積み重ねが自信をつくる」
だ。これは、体操選手の川野歩実さんの言葉である。二〇二〇年十月二十四日のひかり新聞でのインタビュー記事の中にあつた。

私が、この言葉を選んだのは、自分の自信のなさをどうにかしたいからだ。秋の発表会で劇をすることになったとき、初めてせりふの多い役を担当した。家で何度も練習をしたつもりだったが、うまく演じる自信がなかったため、リハーサルでも本番でも、小さい声で、覚えたせりふを言うだけになってしまった。本番が終わってから、「どうして堂々と演じられないんだらう。」と、悲しい気持ち

で家に帰った。同じ場面の登場人物を演じた花村さんは、大きな声で、いきいきと演じていた。私も花村さんのように演じられたらよかったのにと、うらやましかつた。

その後、川野歩実さんの「日々の積み重ねが自信をつくる」という言葉に出会った。大きな大会でなかなか結果が出せなかった川野さんは、これ以上ないほどの練習をしているぞんだ大会で、優勝した。そのときに、「日々の積み重ねが自信をつくる」ことを実感した。インタビューで語っていた。私が自分に自信がなかったのは、自信がもてるまで練習を積み重ねていなかったからだ。私には、どこか「このくらいでいいかな」と満足

してしまうところがある。思い出してみると、劇の練習も、せりふを覚えたところで満足して、練習をやめていた。花村さんは、休み時間や放課後に、覚えたせりふを何度も声に出して練習していた。

花村さんが本番で力を出せたのは、練習の積み重ねが自信につながっていたからだろう。練習もせずに、花村さんをうらやましく思った自分が、はずかしくなった。

私も、川野さんや花村さんのように、練習を積み重ねて本番にどめる人になりたいと思う。中学校に行っても、日々の積み重ねを大切にしたい。「日々の積み重ねが自信をつくる」。これを、これからの座右の銘にしたい。

5 読み合って、感想を伝えよう。

できあがったら、みんなで読み合いましょよう。心を動かされた内容や表現について伝え合いましょよう。



ふりかえろう

- 知る 考えたことや感じたことを表すのに、どのような言葉を使いましたか。
- 書く 自分の伝えたいことが伝わるように、どんな部分をくわしく書きましたか。
- つなぐ 友達の書いた文章を読んで、どんな表現をまねしてみたいと思いましたか。



考えたことや感じたことを伝える

- 自分の経験と、そのときの自分の気持ちが伝わるように、くわしく書くところはどこか考える。
- 自分が考えたことや、感じたことにふさわしい言葉を選んで書く。



経験をもとに何かを伝えるときには、経験と伝えたいことの結び付きを考えて、言葉を選びましょう。



漢字の広場

5年生で習った漢字

5

商店街の通りやお店の中の様子を、文章に書きましよう。
会話も、想像して入れましよう。

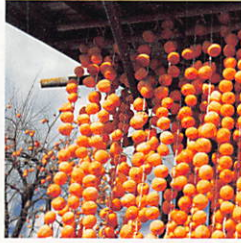
〈例〉 弁当屋では、半額セールが始まりました。
さっそく、「二つください。」と注文が入りました。



冬のおとずれ

立春 りっしゅん 雨水 うすい 啓蟄 けいちつ 春分 しゅんぶん 清明 せいめい 穀雨 こくう 立夏 りっか 小満 しょうまん 芒種 ぼうしゅ 夏至 げし 小暑 しょうしょ

〔りっとう〕
立冬
十一月七日ごろ



こよみのうえで、冬が始まる日。まだ秋の気配は残っているが、しだいに冬に近づいていく。

〔しょうせつ〕
小雪
十一月二十二日ごろ



寒さはまだ深まっておらず、雪もそれほど多くはないころ。冬の気配は進んでくる。

〔たいせつ〕
大雪
十二月七日ごろ



かんき 寒気が増し、雪も激しくなってくるころ。この日を過ぎると、いっそう冬らしくなる。

あたらしく冬きたりけり鞭のごと
幹ひびき合ひ竹群(じ)たかむらはあり

みやしゅうじ
宮終二



大暑 たいしょ

立秋 りっしゅう

処暑 しよしょ

白露 はくろ

秋分 しゅうぶん

寒露 かんろ

霜降 そうこう

立冬

小雪

大雪

冬至

小寒

大寒

〔とうじ〕

冬至

十二月二十二日ごろ

〔しゅうかん〕

小寒

一月五日ごろ

〔だいかん〕

大寒

一月二十日ごろ



一年の中で、昼の時間が最も短く、夜が最も長い日。かぼちゃなど、特定の物を食べる習わしがある。

グラタンの熱しと食^たぶる冬至かな

阿波野青畝 あわのせいほ



この日から立春になるまでの期間を「寒^{かん}」といい、小寒は「寒の入り」ともいわれる。

寒に入る夜や星空きらびやか

長谷川素逝 はせがわそせい



一年の中で最も寒い時期。「寒」が明けて立春になると、春が近づいてくる。

「冬」といっても、時期によって、見られる風景はさまざまです。あなたの地域の今の「冬」を手紙に書いて、友達やお世話になった人に、冬の便りを送りましょう。



詩の楽しみ方を見つけよう

詩を朗読してしようかいしよう

〈ぼくぼく〉

やぎじゅうきち
八木重吉

動物たちの恐ろしい夢のなかに

かわさきひろし
川崎洋

ぼくぼく

ぼくぼく

まりを ついでいると

にがい にがい いままでのが

ぼくぼく

ぼくぼく

むすびめが ほぐされて

花がさいたようにみえてくる

5

犬も

馬も

夢をみるらしい

動物たちの

恐ろしい夢のなかに

人間がいませんように

5

朗読

うぐいす

武鹿悦子
ぶしかえつこ

うぐいすの こえ

すきとおる

はるのつめたさ

におわせて

うぐいすの こえ

すきとおる

うちゅうが 一しゅん

しん、とする

5

▼詩を読んで感じたことを、友達に伝えましょう。

- ① これまでに読んだことのある詩や、詩集などから、お気に入りの詩を選びましょう。
- ② 詩にえがかれたことと、自分の気持ちとで、重なるところはあるでしょうか。読んで、考えましょう。
- ③ お気に入りの詩を朗読して、友達にしようかいしましょう。あなたが感じたことや考えたことも、合わせて伝えましょう。

この本、読もう

元気がでる詩6年生 子どもへの詩の花束



10

5

仮名の由来

みなさんは、次のような文字が使われているのを見たことはありませんか。



(右) 「うなぎ」と書かれた看板

(左) 「おそば」と書かれた看板

日本には、もともと文字がありませんでした。そこで、私たちの祖先は、やまと言葉（和語）を書き表すために、中国から伝わった漢字を利用する方法を考え出しました。

漢字は、一字一字が形・音・意味をもっています。

布	波	形
フ	ハ	音
ぬの	なみ	意味

「波」の「ハ」、「布」の「フ」という音は、

中国での発音に由来する音です。仮名がない時代には、日本語の発音を表すために、意味

とは関係なく、漢字の音を借りて表すなどの工夫がなされました。

はる(春) — 波留ハル なつ(夏) — 奈都ナツ

あき(秋) — 安吉アキ ふゆ(冬) — 布由フユ

このような使い方の漢字を、「万葉仮名まんようがな」

といいます。

平安時代へいあんになると、漢字を元にして平仮

名・片仮名が作られました。

平仮名は、万葉仮名をくずして書くところ

から生まれました。

安 — 「あ」 — あ 以 — 「い」 — い

奈 — 「な」 — な 保 — 「ほ」 — ほ

いっぽう、片仮名の多くは、万葉仮名の形の一部を取って書くところから生まれました。

阿 — 「ア」 — ア 伊 — 「イ」 — イ

奈 — 「ナ」 — ナ 保 — 「ホ」 — ホ

15

10

5

平仮名も片仮名も、初めは一つの発音を表すのにいくつかの書き方がありましたが、現在では一通りの書き方に統一されました。しかし今でも、生活の中で、ふだん私たちが書くものとは異なる仮名を見ることがあります。

5

🌸 いかそう

仮名の由来を知ると、字の形を整える手がかりになります。



。片仮名かたがな

无 えん	和 わ	良 ら	也 や	末 ま	波 は	奈 な	太 た	左 さ	加 か	安 あ	平仮名の起り
	為 ゐ	利 り		美 み	比 ひ	仁 に	知 ち	之 し	幾 き	以 い	
	る	り		武 む	不 ふ	奴 ぬ	川 かわ	寸 す	久 く	宇 う	
		留 る	由 ゆ	武 む	不 ふ	奴 ぬ	川 かわ	寸 す	久 く	宇 う	
	恵 ゑ	礼 れ		女 め	部 へ	祢 ね	天 て	世 せ	計 け	衣 え	
	遠 ゑん	呂 ろ	与 よ	毛 も	保 ほ	乃 の	止 と	曾 そ	己 こ	於 お	
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お	

10

5

(尔) ン ン	和 わ	良 ら	也 や	万 ま	八 は	奈 な	多 た	散 さん	加 か	阿 あ	片仮名の起り
	井 い	利 り		三 さん	比 ひ	二 に	千 せん	之 し	幾 き	伊 い	
	井 い	り		ミ ミ	ヒ ヒ	ニ ニ	千 せん	シ シ	キ キ	イ イ	
		流 りゅう	由 ゆ	牟 む	不 ふ	奴 ぬ	川 かわ	須 す	久 く	宇 う	
		ル る	ユ ゆ	ム む	フ ふ	ヌ ぬ	ツ つ	ス す	ク く	ウ う	
	恵 ゑ	礼 れ		女 め	部 へ	祢 ね	天 て	世 せ	介 け	江 え	
	エ え	レ れ		メ め	ヘ へ	ネ ね	テ て	セ せ	ケ け	エ え	
	乎 こ	呂 ろ	与 よ	毛 も	保 ほ	乃 の	止 と	曾 そ	己 こ	於 お	
	シ し	ロ ろ	ヨ よ	モ も	ホ ほ	ノ の	ト と	ソ そ	コ こ	オ お	

10

5

()の付いているものは、元の字がはつきりしていないもの。

ゐ・ゑ／井・エ

古代には、ア行の「い・え」と、ワ行の「ゐ・ゑ」の発音が区別されていたため、それに対応する仮名があった。



読む

筆者の考えを読み取り、

社会と生き方について話し合おう

メディアと人間社会

大切な人と

深くつながるために

〔資料〕プログラミングで未来を創る

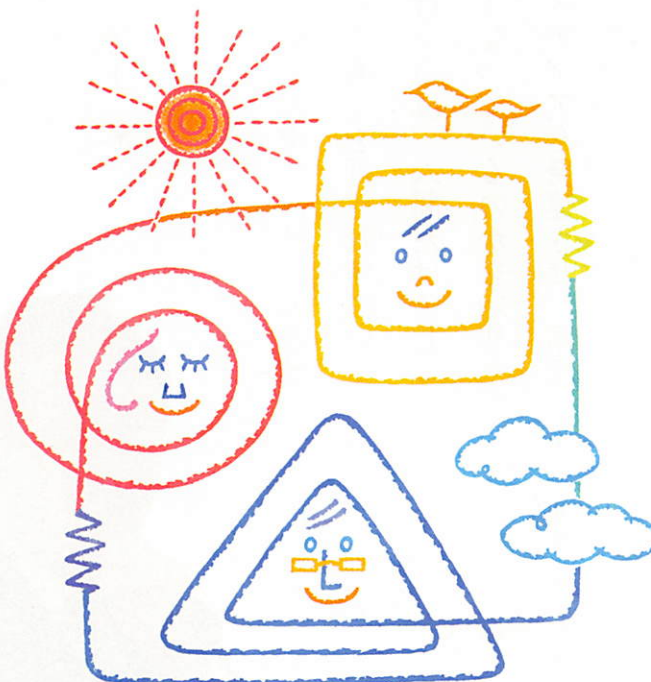
6

二つの文章と資料には、それぞれの筆者が、
これからの社会を生きていくうえで大切だと考
えていることが述べられています。あなたは、
どう考えるでしょうか。

これまでの学習

筆者の主張と、それを支える事例をとらえる
(笑うから楽しい・時計の時間と心の時間) …… 56 ページ

筆者の考えと表現の工夫をとらえる
(『鳥獣戯画』を読む) …… 151 ページ



メディアと人間社会

池上 彰
いけがみ あきら

私たち人間は、一人では生きられません。だれもが、社会の中で、他の人と情報をやり取りしながら生きています。たがいに情報のやり取りを行う動物はいまですが、さまざまなメディアを使って高度な情報伝達を行うのは、人間だけでしょう。人間は、「思いや考えを伝え合いたい」「社会がどうなっているのかを知りたい」という欲求をもっています。そのような欲求が、メディアを発達させ、高度な情報化社会を作ってきたのです。

情報を伝えるための手段として、古くから用いられてきたのは、文字です。文字のない時代には、遠くの相手と思いや考えを伝え合いたいと思っても、難しいものでした。文字の誕生によって、時間や空間をこえて情報を伝えることができるようになったのです。伝えたい内容を文字にして相手に届けられれば、手紙となります。おもしろい物語や話を文章にして残せば、本となります。社会の出来事を書いて知らせれば、新聞になります。しかし、文字を使った情報伝達は、書いた

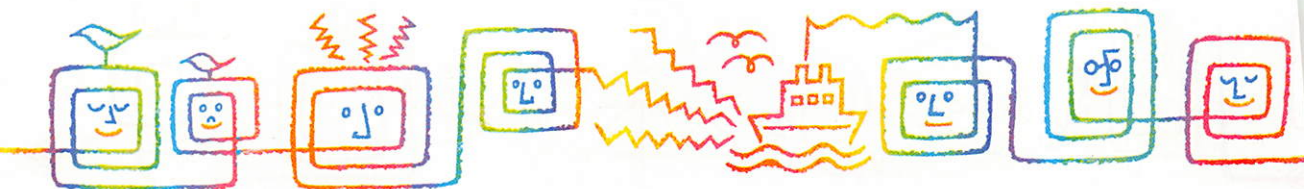
誕生
タマシ

欲求
ヨツ

10

5





ものを人が持って移動する必要があるため、伝えるのに時間がかかります。

電波を使った通信の発明は、情報を早く伝えたいという思いに込めるものでした。初めは、遠くの海を航海する船で重宝されましたが、やがてラジオ放送が始まると、多くの人々に広く同時に情報を伝えるメディアとして、大きな力をもつようになりました。ラジオでは、効果音なども工夫されるようになり、聞き手に豊かに想像させるドラマなども多数生み出されました。一九三八年には、アメリカでドラマ「宇宙戦争」を聞いた人々が、本当に火星人がやって来たとかんちがいし、パニックになるという出来事がありました。これは、メディアが、社会を混乱させてしまうほどにいきよう力をもったことを示す事例といえます。

やがて、電波を使って映像を送るテレビ放送が始まります。テレビは、ラジオとはちがい、いちいち言葉や効果音で説明しなくても、映された場所の様子、人物の服装や顔立ちなどが瞬時に理解されます。また、遠くはなれた世界の映像も同時に中継することができます。テレビは、情報をありありと伝えたい、理解したいという人々の思いに込めるものだったのです。人々は、テレビから伝えられる内容の豊富さに圧倒され、ラジオ以上に、放送されたものが動きようのない事実だと受け取られるようになりました。社会に対するいきよう力も、さらに大

「宇宙戦争」

イギリスの作家H. G. ウェルズの科学小説「宇宙戦争」を原作としたラジオドラマ。本物のニュース番組のように作られていたことが、社会の混乱を招いたとされる。



きなものになったのです。

そして、二十世紀の終わりが近づくと、インターネットが発明されます。かつては、情報を広く発信したいと思っても、それができるのは限られた人だけでした。インターネットの登場で、ごくふつうの人々が手軽に情報を発信できるようになり、これまで報じられなかったような、社会や個人に関わる情報が伝えられるようになったのです。しかし、手軽であるということは、誤った内容も簡単に広まるということでもあります。また、わざとそうした情報をまぎれこませることも容易になりました。現在では、こうした情報で社会が混乱することも起こっています。

メディアは、「思いや考えを伝え合いたい」「社会がどうなっているのかを知りたい」という人間の欲求と関わりながら進化してきました。その結果、今、私たちは、大量の情報に囲まれる社会に生きています。今後も新しいメディアが生まれ、社会に対していきよう力をもつでしょう。しかし、どんなメディアが登場しても重要なのは、私たち人間がどんな欲求をもっているか、そして、その結果メディアにどんなことを求めているのかを意識し、メディアと付き合っていくことなのではないでしょうか。

15

10

5

池上 彰

一九五〇年、長野
県生まれ。ジャーナ
リスト。





大切な人と

深くつながるために

こうかみ しょうじ
鴻上 尚史

あなたが友達と、いっしょに遊びに行く相談をします。本当の気持ちを言わないで周りに合わせているだけなら、あなたはだれとでも仲よくできます。でも、あなたが、本当に行きたい場所、したいことを言いだしたら、だれかとぶつかります。それは悪いことではありません。それは当たり前のことです、それもいいのです。そういうとき、人は、なんとかうまく自分の意見を言って、相手と話し合い、コミュニケーションしようとしています。

さて、あなたは、コミュニケーションが得意ですか。それとも苦手ですか。「コミュニケーションが得意」とは、だれとでも仲よくなれることだと、一般的には思われています。でも、「コミュニケーションが得意」とは、相手ともめてしまったとき、それでも、なんとかやっていける能力があるということです。

私たちは一人一人ちがうので、遊びの相談をしても、おたがいの希望がぶ

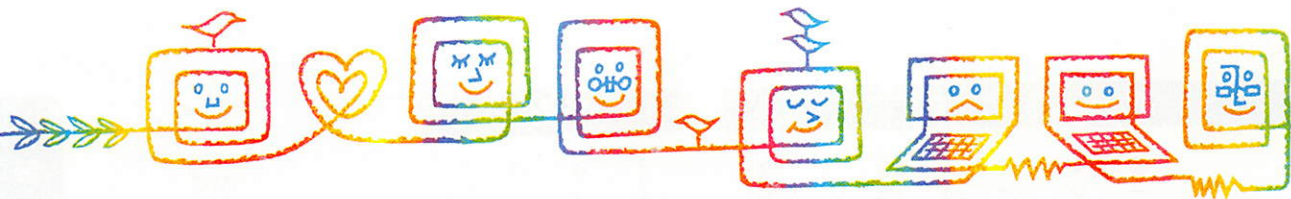




つかります。例えば、あなたが遊園地に遊びに行きたいと言い、友達はいり物に、別の友達に山か海に行きたいと言う。そういうとき、かっしたり、だまったり、無視したり、だれかががまんしたりするのではなく、おたがい少し不満だけど、とりあえずやっていける解決を見いだせるのが、「コミュニケーションが得意」ということなのです。

もちろん、それは簡単なことではないです。でも、あなたに大切な人がいたら、その人とはちゃんと理解し合いたいと思うでしょう。この人にだけは、分かってほしいと思うでしょう。コミュニケーションの技術が上達すればするほど、あなたは大切な人とつながることができるようになります。

では、コミュニケーションが得意になるためには、どうしたらいいのでしょうか。コミュニケーションは、おたがいうまく折り合いをつけるための技術です。スポーツの場合、テクニックをみがく方法を知っていますか。そう、何回も何回も練習しますね。コミュニケーションも同じです。相手とぶつかり、おっしたり、苦手だなあと思ったりしても、いろんな相手といろんな場所で何度もコミュニケーションしていくうちに、話し方や断り方、アドバイスのしかた、要求のしかたが得意になっていくのです。



昔は、話し相手や遊び相手は人間しかいませんでしたから、ぶつかり、きそい、交渉しやうする中で、コミュニケーションの技術はみがかれました。でも、最近はいんターネットが発達して、人は人と直接話さなくても、時間が過ごせるようになりました。大人たちは、メールやゲームをしたり、ウェブサイトを見たりする時間が増えて、どんどん人間との直接のコミュニケーションが苦手になっています。

あなたはどうですか。人と会話する時間は増えていきますか。減っていますか。本当に自分の言いたいことを言い、本当にしたいことをしようと思ったら、あなたは人とぶつかります。それが、あなたがあなたの人生を生きるということです。そういうときは、悲しむのではなく、「コミュニケーションの練習をしている」と思ってください。最初は苦しいですが、だいじょうぶ。スポーツと同じで、やればやるだけまちがいはなく上達します。そうして、あなたは大切な人と出会い、深くつながっていくのです。

10

5

ナツコ・ムーン 絵

鴻上 尚史

一九五八年、愛媛
県生まれ。作家・演
出家。





見通しをもとう

筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう

- 筆者の論の展開のしかたや、表現のしかたに着目しよう。
- 二つの文章をもとに、これからの社会でどう生きていくかについて話し合おう。

とらえよう

- それぞれの文章で、筆者が最も伝えたいことは何だろうか。それは、文章のどこに書かれているか。
- それぞれの文章を読んで、あなたが最初に感じたのは、どんなことか。

ふかめよう

- 筆者はどのようにして、読者に自分の考えを伝えようとしているだろうか。次の点から二つの文章を比べ、それぞれの特徴^{ちよう}について考えよう。
- 論の展開や構成で、工夫されているところはどこか。
- どのような事例を挙げているか。
- どんな表現の特徴があるか。
- 二人の考えには、どのような共通点があるだろう。

1

5

10

1

文章の特徴を考える

鴻上さんの文章を読むと、語りかけられているような感じがする。どんな書き方がされているからなんだろう。



2

考えをまとめるときの観点

- これからの社会を生きていくために、どのようなことが大切になると考えるか。
- これから自分ができること、すべきことは何か。

5



ふりかえろう

- 知る 論の展開や表現で、特徴的だと思ったのはどんなことですか。
- 読む 社会や生き方について、あなたの考えはどのように広がりませんか。
- つなぐ 複数の文章を読んだ感想や考えを伝え合うときには、どんなことに気をつけたいですか。

ひろげよう

●まとめた内容をもとに、グループで話し合おう。考えが広がったことについてクラスで共有し、感想を伝え合おう。

3

10

まとめよう

●「これからの社会でどう生きていくか」ということについて、筆者の考えを示しながら、自分の意見をまとめよう。資料「プログラミングで未来を創る」(199ページ)も参考にしよう。

2

- それぞれの文章から、次のようなことについて考え、ノートに書き出そう。
- 自分の知識や経験と比べて気づいたこと。
- 自分の考えとの共通点や異なる点。

3 話し合いの例

ぼくは、その問題の解決につながる視点が、鴻上さんの文章にあるのではないかと感じました。人と人との関係では、――。

池上さんが――と書いていたのを読んで、――が大事になると思いました。
技術の進化と社会の変化について、石戸さんも――。





たいせつ

複数の文章を読んで
考えたことを交流する

● それぞれの文章の論の展開や、表現の特徴に気をつけて、考えや述べ方の共通点や異なる点を見つける。

● 筆者の主張をとらえ、自分の経験や知識と重ね合わせながら自分の考えをもつ。

● さまざまな人や文章と対話し、その考えにふれると、自分の考えが深まる。



いかそう

同じテーマに関するさまざまな人の考えにふれ、物事を多面的にとらえるようにしましょう。

10

5

欲
ヨク
誕
タン

この本、読もう

本を読んで、未来の社会や生き方について考えましょう。



地球環境から学ぼう！ 私たちの未来
第3巻 日本の問題・世界の問題
紛争、格差社会、海洋汚染、無関心
。日本や世界の課題を考える。

5



瑠璃色の星
宇宙から伝える心のメッセージ
「瑠璃色の 地球も花も 宇宙の子」。
この俳句にこめられた、筆者の宇宙、命、生きることに對する思いを伝える。

10



ここまでできている！
iPS・遺伝子・脳研究
再生医療や脳科学など、日本の医療技術は世界のトップレベル。医学の進歩から未来を想像してみよう。

15



プログラミングで

未来を創る

いしど 奈々子
石戸 奈々子

みなさんが大人になるころには、今ある多くの職業はなくなっているかもしれません。コンピュータにとって代わられてしまう仕事があるからです。二〇四五年には、AI（人工知能）が人間の能力をこえるという説もあります。

機械の登場により、これまでに多くの仕事がなくなりまし。自動車の発明で馬車を引く仕事は失われました。自動改札ができ、

駅で切符を切る人は減りました。今後もその流れは変わらず、仕事によってはAIが担っていくかもしれません。

これからは、あらゆる場面でコンピュータが使われるようになります。電車や信号機など社会全体に関わるものだけでなく、台所やふろなど家の中のものも、コンピュータで動くようになるのです。時には、それらがインターネットでつながり、AIによって自ら学習し、判断していくようになるでしょう。そして、それらは全て、コンピュータを動かす命令である「プログラム」によって動いているのです。

そのような社会で豊かな人生を送るには、「コンピュータとはどのようなものか。」「どんなプログラムによって、コンピュータがどう動くのか。」といった知識が重要になります。

AI（人工知能）
コンピュータを使っ
て、人間の知的な機
能の働きを人工的に
実現したもの。

それは、決して一部の人がだけが知っていればよいものではありません。例えば、一見、コンピュータとは関係がうすそうな農業でも、ビニールハウスの温度や湿度を一定に保つプログラムを活用することで、より効率よく、安定した作物の生産が可能になりました。作曲をするときにも、スポーツの作戦を立てるときにも、その目的に合わせて、さまざまなプログラムが使われています。

しかし、プログラムもツールにすぎません。大事なことはそれを作る「プログラミング」によって何を表現し、何を創り出すかです。未来を創るのは自分自身なのです。

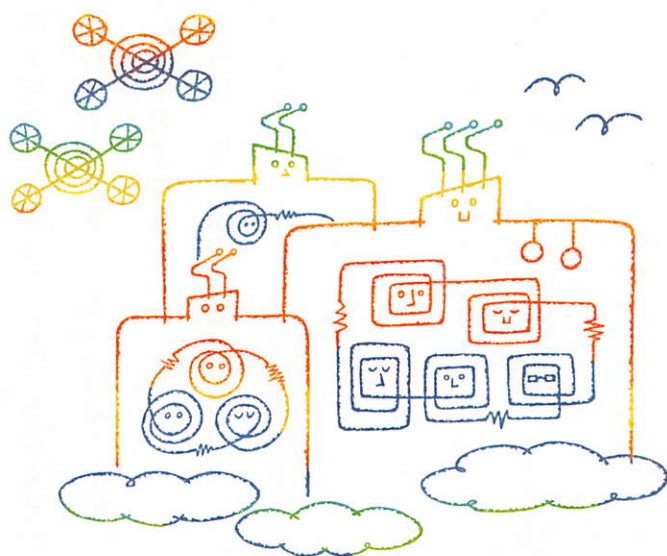
自動車は、タクシーやバスで人を運ぶ仕事を生みました。インターネットやスマートフォンは、人々が交流するためのSNSを作ったり、インターネットで買い物を楽しむ

15

10

5

るようにしたりしました。新しい技術の登場は、これまで存在しなかった仕事を生み続けています。AIやロボットを使う新しい職業も生まれていくでしょう。みなさんは、どんな未来や人生をえがきますか。自ら想像して、創造していきましょう。



5

ツール
道具のこと。

SNS

「ソーシャルネットワークワーキングサービス」の略語。インターネットを通じて、会員どうしで交流できる機能を提供するサービスのこと。

石戸 奈々子

一九七九年、東京都生まれ。NPO法人を設立し、子どもたちにプログラミングについて教えている。

漢字を正しく使えるように



どの漢字を使うか迷ったり、誤った漢字を使ってしまったりしやすいものに、「同じ読み方をする漢字」があります。

どの漢字を使うか迷ったときには、次のように考えてみましょう。

① 訓読みの場合

漢語で言い表してみる。

・穀物を収納庫にうつす。(移す・写す)

この「うつす」は「移動する」と言いかえられるな。だから、――。



別の訓読みで言い表してみる。

・部屋の窓をあける。(明ける・開ける)

「窓をあける」というのは、「窓をひらく」と言いかえることができる。ということは、――。



。穀物

その漢字を使った熟語を考えてみる。

・延長戦の末、やぶれる。(敗れる・破れる)

「敗退」「敗北」、「破損」
「連破」——。試合に負けるという意味を表す言葉に使われているのは——。



② 音読みの場合

その漢字の訓読みを考えてみる。

・シヨウ人数で学習をする。(小・少)

「小」の訓読みは「ちいさい」、
「少」の訓読みは「すくない」。
「シヨウ人数」は、「すくない人数」ということだから、——。



① ①と②のいずれかの方法を使い、——線

の言葉を正しい漢字で表しましょう。

・正月は、母の郷里にかえる。

(帰る・返る)

・株式会社にとめる。(勤める・努める・務める)

務める)

・温かいスープがさめる。(覚める・冷める)

・諸国を旅して、見ブンを広める。(聞・分)

・試合再カイのアナウンスに、観衆は喜んだ。(会・開)

んだ。(会・開)

② 次の——線は、読み方が同じであるために

に書きまちがえた漢字の例です。正しい漢字を使って書きましょう。

・すずしい小かげで休む。

・独り事をつぶやく。

・チーム一丸となって、成課を上げる。

・興味や感心は、十人十色だ。

・興味や感心は、十人十色だ。

漢字を正しく使うためには、自分が書くこ

として、言葉の意味と、使おうとする漢字

の意味を、いつも考えるようにしましょう。

○郷里 キョウリ

○株式会社 カブシキガイシャ

○諸国 シヨククニ

○観衆 カンシュウ

○一丸 イツガン

○十人十色 ジュウジンジュウシキ

覚えておきたい言葉

いろいろな教科や社会生活の中で使われる言葉です。意味をよく理解して使いましょ。

〈国語〉

段落

意図

要約

要旨^し

推敲^こ

構成

表現

討論

〈算数〉

平行

面積

体積

円柱

側面

比例

割合

約数

倍数

5

〈理科〉

呼吸

消化

導線

磁石

発芽

養分

蒸発

化石

〈社会〉

天皇

皇后

陛下

憲法

法律

選挙

政党

国会

内閣

裁判所

権利

義務

納税

教育

労働

貿易

国際

資源

輸出入

条約

改革

宗教



5

○^{シユウ}宗教 ○^{カク}改革 ○^{カク}内閣 ○^{トウ}政党 ○^{ケン}憲法 ○^{ヘイ}陛下 ○^{ゴウ}皇后 ○^{ノウ}天皇 ○^{ジシヤク}磁石

憲 ^{ケン}

党 ^{トウ}

閣 ^{カク}

革 ^{カク}

宗 ^{シユウ}

穀 ^{コク}

郷 ^{キョウ}

株 ^{カブ}

諸 ^{シヨ}

衆 ^{シユウ}

磁 ^ジ

皇 ^{コウ}
^{オウ}

后 ^{コウ}

陛 ^{ヘイ}

人を引きつける表現

書いてある内容は同じでも、どう表現するのかによって、味わいはちがってきます。いくつかの作品をもとに、表現の工夫について考えてみましょう。

つき
でたでた つきが
まるいまるい まんまるい
ぼんのような つきが

「つき」という歌の歌詞を見てみましょう。どのような表現の工夫があるでしょうか。

まず、言葉の順番が、ふつうとはちがっていることに気づきます。「でた」が先に、「つきが」が後になっています。先に言うことで、月が「でた」ことが強調されています。

5

歌詞



また、「でたでた」のようなくり返しも、大切な表現の工夫です。くり返すことで、そのことが強く印象づけられるとともに、調子のよいリズムも生まれます。

さらに、満月の「まるい」形が、「ぼんのような」とたとえられています。このように、似ているものにたとえる表現を、ゆ比喩とよびます。「まるいおぼん」が「まるい月」の比喩となっていて、身近な印象をあたえるとともに、「まんまるい」形をしていることがよく伝わってきます。「月が顔を出す」という表現を見かけることがありますが、「月」に対して「顔を出す」という言葉を使うのも、ゆ比喩的な発想の表現ですね。

みやざわけんじ
宮沢賢治の「やまなし」に、次のような表現があります。

まもなく、水はサラサラ鳴り、天井じょうの波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のにじがもかもか集まりました。

この部分では、やまなしの周りの水音が「サラサラ」とえがかれ、やまなしの周り

の水の流れに月の光が当たる様子が、「月光のじがもかもか集まる」とえがかれています。水が流れる音を「サラサラ」というのはめずらしくない表現ですが、光の様子を「もかもか」とするのは独特の表現といえます。

鯉こいのぼり

蕩いらかの波と 雲の波

重なる波の 中空なかぞらを

橘たちばなかおる 朝風に

高く泳ぐや 鯉こいのぼり

最後に、上の歌詞について考えてみましょう。どんな工夫があるでしょうか。

全体が、七音と五音の組み合わせになっていることに気づいたのではないのでしょうか。このように、音の数をそろえるとリズムができます。

「中空を」となっていることにも注目したいところです。実は、「道を歩く」「空を飛んでいく」のように、

「を」を使うと、通るところを表します。そのため、「中空を泳ぐ」という表現には、移動の感じがよく出ています。もし、「プールで泳ぐ」のように、「中空で泳ぐ」としたら、どのような感じがするでしょうか。ちょっとした言葉の選び方によっても、読み手にあたえる印象は変わってくるのです。

このように、表現の工夫を味わうことは楽しいものです。また、自ら表現を工夫して言葉を選び、作品を作ることにも楽しいものです。物語や詩はもちろん、商品の宣伝や本の題名など、身近なところにも、さまざまな工夫があるはずです。さまざまな作品から表現の工夫を見つけ、自分の表現にも取り入れてみましょう。



気に入った表現について説明しよう

- ① 教科書にある物語や詩、文章から、心が引かれる表現を見つけ、書き写す。
- ② 選んだ表現について、次のことを書く。
 - どのような表現の工夫があるのか。
 - どのような効果があり、自分はどう感じるのか。
- ③ 書いた文章を友達と読み合う。

10

5

。宣^{セン}伝



形式と表現を工夫して書こう

思い出を言葉に

入学してからこれまでの学習や行事、委員会活動など、学校生活の中で、いちばん印象に残っていることは何ですか。そのときの出来事や心情を、表現を工夫して書きましょう。そして、クラスで思い出を共有しましょう。



● 確かめよう

「たのしみは」

「人を引きつける表現」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

1 伝えたいことを明確にして、思い出す。

組み立てよう

2 形式を決める。

書こう

3 表現を工夫して書く。

つなげよう

4 思い出をえがいた作品を読み合う。

● ふりかえろう

204 ページ
60 ページ

1 伝えたいことを明確にして、思い出そう。

クラスやグループで、印象に残っていることを出し合ひましょう。

あなたは、何について書きたいですか。自分にとっての意味や価値、読む人に伝えたいことを考えながら決めましょう。

5

書きたいことについてくわしく思い出し、そのときの出来事や、自分や周りの人のしたことや言ったこと、自分の思いなどを書き出していきます。思い出したことのうち、何を中心に取り上げるのかも考えましょう。

10

2 形式を決めよう。

表現する形式を、俳句・短歌・詩などから選びましょう。

みんなの作品をどのような形でまとめるのかなど、全体像も確かめておきましょう。

15

伝えたいことを
ふまえて整理する。

くわしく
思い出す。

入学式で、一年生
と手をつないだとき、
六年生になったんだ
と思った。

六年生としての
自覚が生まれたと
きのことを伝えた
いから、――。

- ・ 日記や記録、写真などを見返す。
- ・ いっしょにいた人にきく。
- ・ その場所に行く。

など

俳句 価値

3 表現を工夫して書こう。

伝えたいことを意識しながら、**1**で書き出したことをもとに、内容を簡単に書き表しましょう。

効果的に伝わるよう、次のような工夫をして、選んだ形式に仕上げていきます。

- 様子や心情に、より適した言葉を選ぶ。
- 比喻ゆやくり返しなどを使う。
- 言葉や文の順序を変える。
- 言葉のリズムを整える。

「言葉の宝箱」
307ページ

書き終わったら、文字や言葉にまちがいが
ないか、見直しましょう。声に出して読
み、調子のよさも確かめましょう。

読みやすい字で、ていねいに清書しま
しょう。

■作品の例

〈入学式〉◎自覚

一年生が小さくておどろいた。
ぼくも、こんなに小さくて、手
をつないでもらっていたのかと
思った。手から、きんちようが
伝わってきた。六年生になった
のだから、一年生にやさしくし
ようと思った。



一年生の小さな手から
どきどきが伝わった
ぼくもこんなに
小さかったのかな
ぼくも六年生の手を
にぎりしめていたのかな
ぼくがやさしくしようと決めた
六年生になったばかりの入学式



一年生に対して感じ
たことを強調するため
に、同じ調子でくり返
してみようかな。



「思った」よりも
「決めた」のほうが、
自覚したことが伝わ
りそう。

4 思い出をえがいた作品を読み合おう。

友達の作品について、どの表現から、どんな思いが伝わってきたのかが分かるように、感想を伝えましょう。

「ぼくも——」「ぼくが——」とくり返す中で、六年生としての決心が芽生えた様子が伝わってきたよ。



 ふりかえろう

- 知る 効果的に伝えるために、どんな形式を選び、どのように表現を工夫しましたか。
- 書く 思い出したことの中から、どのような理由で書くことを選びましたか。
- つなぐ 友達の表現の工夫で、自分も使ってみたいものはどれですか。



伝えたい思いを明確にして書く

- 材料となることを集め、伝えたいことを意識しながら整理する。
- どのような形式や表現を使うと、思いがよく伝わるのかを考える。
- 読んだ人に、自分の思いが伝わっているかを確かめる。

 いかそう

キャッチコピーや見出しなど、伝えたいことを短い言葉で表すときには、表現を工夫しましょう。



資料を使って、効果的なスピーチをしよう

今、私は、ぼくは

小学校生活を終えようとする今、あなたは何を思いますか。
学んだこと、体験したこと、出会った人――。

これまでをふり返り、これからを思いえがいて、
あなたの今の思いをクラスみんなに伝える
スピーチをしましょう。⁵



● 確かめよう

「五年生の学びを確かめよう」

● 学習の進め方

決めよう
集めよう

- 1 スピーチの話題を決め、内容を整理する。

準備しよう

- 2 構成を考えて、スピーチメモを作る。
- 3 資料を準備する。
- 4 練習をする。

話そう
聞こう

- 5 スピーチをする。

つなげよう

- 6 感想を伝え合う。

● ふりかえろう

1 スピーチの話題を決め、内容を整理しよう。

将来、どんな自分でありたいか、今のあなたの考えをまとめましょう。また、その考えをもつようになったきっかけや、そのときに感じたことを整理しましょう。

① 考えていること

- ・ 将来の夢
- ・ 大切にしていきたいこと

② きっかけ

- ・ 実際の思い出や出来事
- ・ 見たことや聞いたこと

③ 感じたこと

- ・ ②のときに感じたこと
- ・ 今ふり返って思うこと

管理栄養士になる夢について話そう。きっかけは、管理栄養士を特集したテレビ番組だな。



2 構成を考えて、スピーチメモを作ろう。

思いを伝えるために必要な内容や、構成のしかたを考えて、スピーチメモを作りましょう。

■ 矢島さんのスピーチメモ

考えていること

将来の夢は管理栄養士

きっかけ

管理栄養士の小島さんを集めたテレビ番組

● 小島みのりさんのようかい 〈資料①〉

マラソン・高田選手の専属の管理栄養士

● 高田選手と小島さん 〈資料②〉

・ けがをきっかけに不調に。

・ 練習の見直しとともに、食事の改善。

↓ 小島さんに管理をいらい

・ 全てを調べて、こんだてを作る。

↓ 練習で成果が上がる ↓ 国際大会での結果

● 小島さんの言葉 〈資料③〉

「当たり前のことですが、体はみんな、食べた物からできています。」

感じたこと

小島さんの言葉が印象に残った。

管理栄養士は、カッコいい仕事だと思った。

伝えたい思い

楽しい食事でみんなの健康を支える、管理栄養士になりたい。

シヨウウ
将来

20

15

10

5

終わり

中

初め

3 資料を準備しよう。

考えた構成をもとに、次の点に気をつけて、効果的な資料を準備しましょう。

● 聞き手に合わせた内容にする

聞き手も持っている知識や興味・関心に合わせて資料を作る。

● 情報をしぼる

話の要点が伝わるように、必要な情報を選び、できるだけ簡潔に示す。

● 図表を使う

話や文字だけでは伝わりにくいときには、図や表、写真や絵などを用意する。

4 練習をしよう。

これまでに見たり、聞いたりしたスピーチのよかったところを考え、自分のスピーチにかきましょう。

15

10

5

■ 矢島さんの提示する資料（中の部分）

・ 話題を示した資料（資料①）

・ 要点をまとめた資料（資料②）

・ 特に伝えたいことを示す資料（資料③）

きっかけ

小島みのりさん

マラソン・高田選手
専属の管理栄養士

2017年7月	けがから不調に
2017年9月	食事の改善 →小島さんへ 小島さんが こんだてを作る
2018年1月	練習で成果
2019年4月	国際大会で かつやく

体はみんな、
食べた物から
できている。

■ 矢島さんのスピーチ（中の部分）

私が管理栄養士という仕事に興味をもったきっかけは、テレビ番組①で見せるで、小島みのりさんという管理栄養士の方を知ったことです。

みなさんは、昨年、マラソンの国際大会でかつやくした高田陽子選手を覚えていますか。小島さんは高田選手専属の管理栄養士で、高田選手を支えたチームの一員として、テレビ番組でしかいかされて

いました。けがで不調になった高田選手は、練習や生活を一から見直

します。そのとき、食事の専門家として声がかかったのが、小島さんでした。

10

5

5 スピーチをしよう。

場面や聞き手に合わせて、使う言葉や話し方、資料の見せ方を工夫しましょう。また、



聞き手の表情や様子などを確かめながら、必要に応じて、説明を加えたり、言葉を言いかえたりしましょう。

6 感想を伝え合おう。

友達のスピーチを聞いて、感じたことや考えたことを伝え合いましょう。



ふりかえろう

- 知る 場面や聞き手に合わせて、どんな言葉や表現を使いましたか。
- 話す・聞く 効果的なスピーチにするために、資料の作り方や話し方について、どんな工夫をしましたか。
- つなぐ これから、自分の考えや思いを伝えるときには、どんなことに気をつけたいですか。



資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝える

- 聞き手の知識や興味・関心に合わせて、資料を考える。
- 情報をしぼったり、図表を使ったりして、効果的な資料を作る。
- 聞き手の反応を確かめながら、話し方や表現を工夫する。

スピーチをするときには、資料を効果的に使いましょう。

「資料③を見せる」「当たり前のことですが、体はみんな、食べた物からできているの」
←ここからゆっくりと読み上げる
←間を取る
これは、私の印象に強く残っている小島さんの言葉です。――



漢字の広場

5年生で
習った漢字

6

いつ、どんなことがあったか、そのとき、どんな気持ちだったか、絵を見て想像し、文章に書きましよう。

〔例〕6年前、校舎の周りの桜が満開のころに、小学校に入学した。





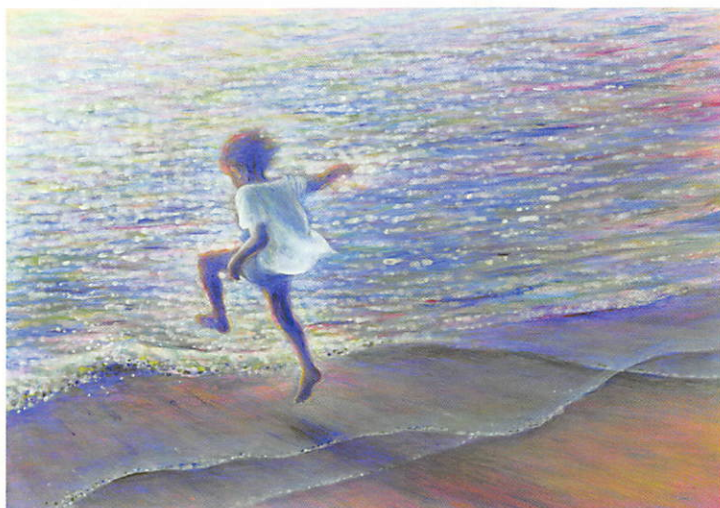
登場人物の関係をとらえ、

人物の生き方について話し合おう

海の命

7


「海の命」では、「太一^{たいいち}」や「太一」を取り巻く人たちの生き方がかかれています。それぞれの人物の生き方が、「太一」にどんないきよをあたえたかを考えながら読みましょう。



これまでの学習

 視点のちがいに着目して、人物像をとらえる

(帰り道)

 作品の世界をとらえる (やまなし)

126
ページ

32
ページ

海の命

立松 和乎 作
伊勢 英子 絵

父もその父も、その先ずっと顔も知らない父親たちが住んでいた海に、太一もまた住んでいた。季節や時間の流れとともに変わる海のどんな表情でも、太一は好きだった。

「ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。」
子どものころから、太一はこう言ってはばからなかった。

父はもぐり漁師だった。潮の流れが速くて、だれにももぐれない瀬せに、たった一人でもぐっては、岩かげにひそむクエをついてきた。ニメートルもある大物をしとめても、父はじまんすることもなく言うのだった。

「海のめぐみだからなあ。」

クエ
岩かげにひそみ、小魚やイカなどを食べる茶褐色ちあかの魚。本州の中部より南の海に





不漁の日が十日間続いて、父は少しも変わらなかった。

ある日、父は、夕方になっても帰らなかった。空っぽの父の船が瀬で見つかり、仲間の漁師が引き潮を待ってもぐってみると、父はロープを体に巻いたまま、水中でこときれていた。ロープのもう一方の先には、光る緑色の目をしたクエがいたという。

父のもりを体につきさした瀬の主は、何人がかりで引こうと全く動かない。まるで岩のような魚だ。結局ロープを切るしか方法はなかったのだった。

中学校を卒業する年の夏、太一は与吉よきちいさに弟子でしにしてくれるようたのみに行った。与吉いさは、太一の父が死んだ瀬に、毎日一本づりに行っている漁師だった。

「わしも年じゃ。ずいぶん魚をとってきたが、もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなつとる。」

「年を取ったのなら、ぼくをつえの代わりに使ってくれ。」

こうして太一は、無理やり与吉じいさの弟子になったのだ。

与吉じいさは瀬に着くや、小イワシをつり針にかけて水に投げる。それから、ゆっくりと糸をたぐっていくと、ぬれた金色の光をはね返して、五十センチもあるタイが上がってきた。バタバタ、バタバタと、タイが暴れて尾で甲板おかんを打つ音が、船全体を共鳴させている。

太一は、なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった。つり針にえさを付け、上がってきた魚からつり針を外す仕事ばかりだ。つりをしながら、与吉じいさは独り言のように語ってくれた。

「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」

10

5



与吉じいさは、毎日タイを二十ぴきとると、もう道具を片づけた。季節によって、タイがイサキになったりブリになったりした。

弟子になって何年もたったある朝、いつものように同じ瀬に漁に出た太一に向かって、与吉じいさはふっと声をもらした。そのころには、与吉じいさは船に乗ってこそきたが、作業はほとんど太一がやるようになっていた。

「自分では気づかないだろうが、おまえは村一番の漁師だよ。太一、ここはおまえの海だ。」

船に乗らなくなった与吉じいさの家に、太一は漁から帰ると、毎日魚を届けに行った。真夏のある日、与吉じいさは暑いのに、毛布をのどまでかけてねむっていた。太一は全てをさとった。

「海に帰りましたか。与吉じいさ、心から感謝しております。おかげさまでぼくも海で生きられます。」

悲しみがふき上がってきたが、今の太一は自然な気持ちで、顔の前に両手を合

10

5

イサキ

緑色を帯びた褐色の魚。幼魚には、黄褐色の縦じまが数本ある。

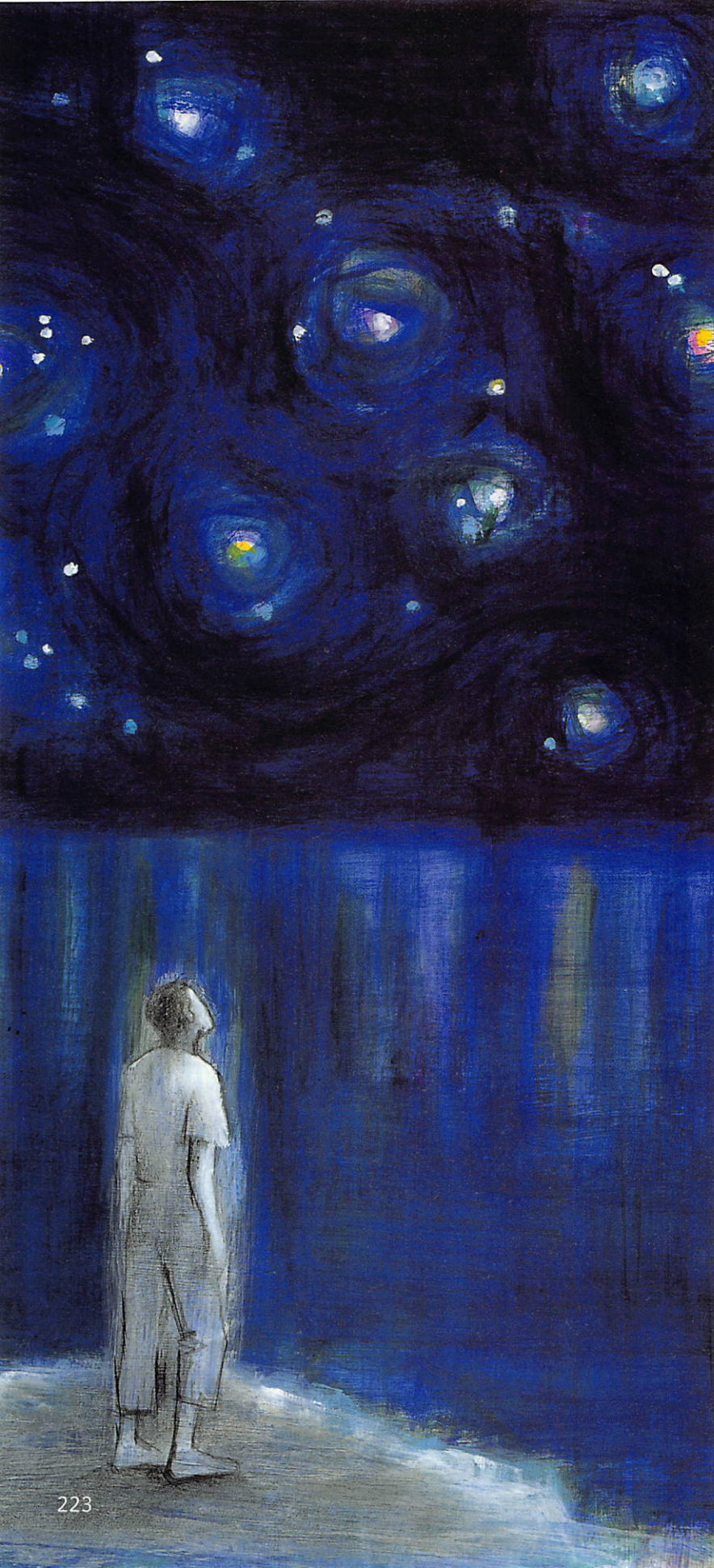


ブリ

背中は暗い青色、腹は銀白色で、中央に一本の筋が入っている魚。



のだ。
わせることができた。父がそうであったように、
与吉じいさも海に帰っていった



ある日、母はこんなふうに言うのだった。

「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、いつ言いだすかと思うと、私はおそろしくて夜もねむれないよ。おまえの心の中が見えるようで。」

太一は、あらしさえもはね返す屈強な若者になっていたのだ。太一は、そのたくましい背中に、母の悲しみさえも背負おうとしていたのである。

母が毎日見ている海は、いつしか太一にとっては自由な世界になっていた。

いつもの一本づりで二十ぴきのイサキをはやばやととった太一は、父が死んだ辺りの瀬に船を進めた。

いかりを下ろし、海に飛びこんだ。はだに水の感触がこちよい。海中に棒になつて差しこんだ光が、波の動きにつれ、かがやきながら交差する。耳には何も聞こえなかったが、太一は壮大な音楽を聞いているような気分になった。とうとう、父の海にやって来たのだ。



太一が瀬にもぐり続けて、ほぼ一年が過ぎた。父を最後にもぐり漁師がいなくなったので、アワビもサザエもウニもたくさんいた。激しい潮の流れに守られるようにして生きている、二十キロぐらいのクエも見かけた。だが、太一は興味をもてなかった。

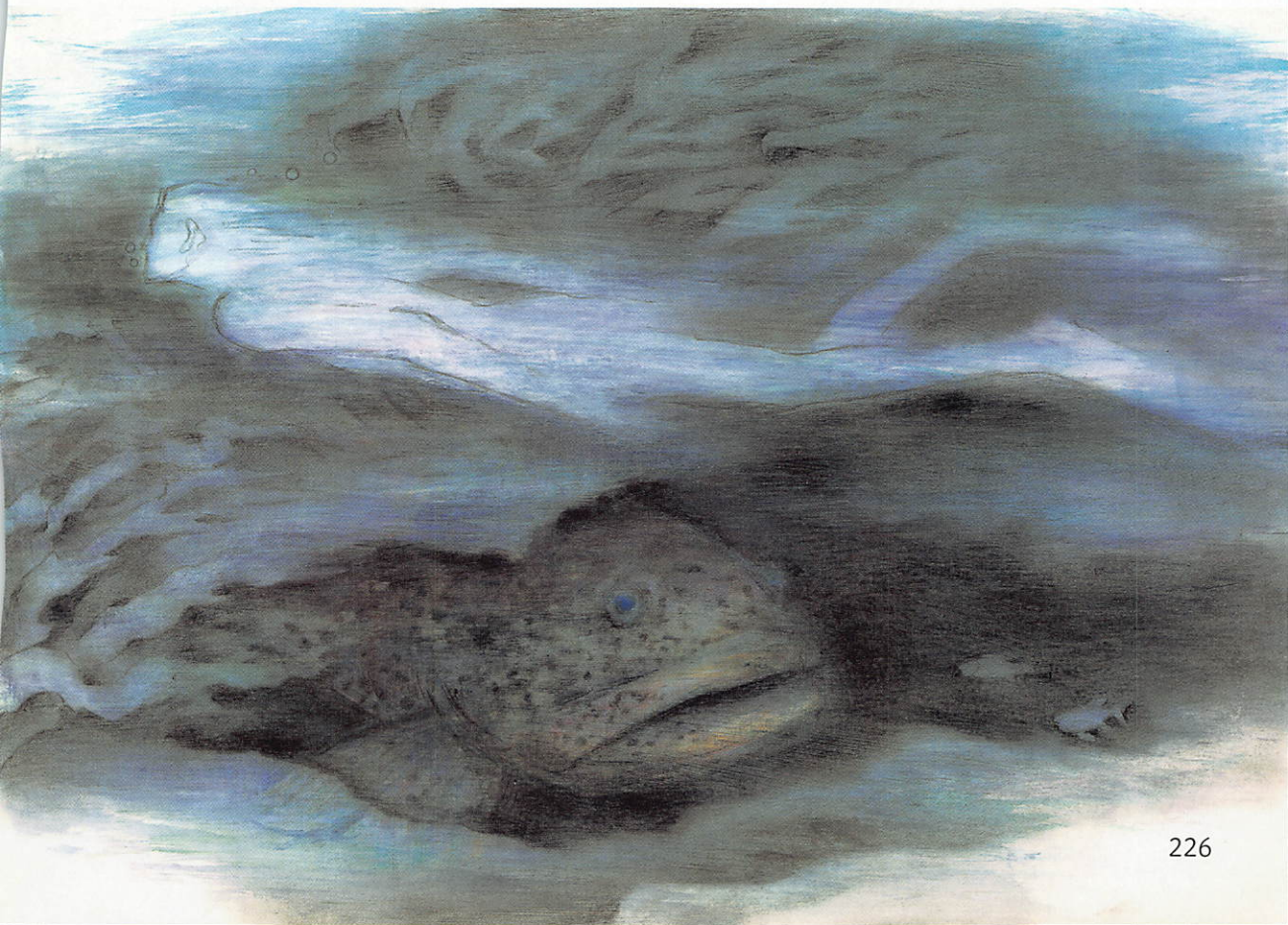
5

追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ。

太一は海草のゆれる穴のおくに、青い宝石の目を見た。

10

海底の砂にもりをさして場所を見失わないようにしてから、太一は銀色にゆれる水面にうかんでいった。息を吸ってもどると、同じ所に同





じ青い目がある。ひとみは黒いしんじゆのようだった。刃物はのような歯が並んだ灰色のくちびるは、ふくらんでいて大きい。魚がえらを動かすたび、水が動くのが分かった。岩そのものが魚のようだった。全体は見えないのだが、百五十キロはゆうにこえているだろう。

興奮フンしていながら、太一は冷静だった。これが自分の追い求めてきたまぼろしの魚、村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主なのかもしれない。太一は鼻づらに

興奮フン

○灰は色

向かってもりをつき出すのだが、クエは動こうとはしない。そうしたままで時間が過ぎた。太一は永遠にここにいられるような気さえした。しかし、息が苦しくなって、またうかんでいく。

もう一度もどってきても、瀬の主は全く動こうとはせずに太一を見ていた。おだやかな目だった。

この大魚は自分たいぎよに殺されたがっているのだと、太一は思ったほどだった。これまで数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。

水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエ



に向かってもう一度えがおを作った。

「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」

こう思うことよって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。大魚はこの海の命だと思えた。

やがて、太一は村のむすめとけっこんし、子どもを四人育てた。男と女と二人ずつで、みんな元気でやさしい子どもたちだった。母は、おだやかで満ち足りた、美しいおばあさんになった。

太一は村一番の漁師であり続けた。千びきに一びきしかとらないのだから、海の命は全く変わらない。巨大なクエを岩の穴で見かけたのにもりを打たなかったことは、もちろん太一は生涯だれにも話さなかった。

10

5

○済む

立松 和平

一九四七〜二〇一

〇年。栃木県生まれ。作家。児童向けに「山のいのち」「街のいのち」などの作品がある。



見通しをもとう

登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

- ・人物どうしの関わりや、人物の生き方が表れている表現に着目しよう。
- ・人物の生き方について、自分の考えをまとめ、友達と話し合おう。

とらえよう

- 「海の命」を読み、構成と内容を確認しよう。
- ・いくつかの場面に分けられるか。
- ・「太一」の他に、どんな人物が出てくるか。それらの人物は、「太一」の成長にどう関わっているか。
- ・どんな出来事が起こり、どのような結末となるか。

1

ふかめよう

- 「瀬の主」は、「太一」にとってどのような存在だろう。「太一」と他の人物との関わりから、考えてみよう。
- 「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはならないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。」(228ページ10行目)とある。
- ・「太一」の考える「本当の一人前の漁師」とは、どう

10

5

1 人物どうしの関わりをとらえるとき

「太一」と周囲の人物たちとの関係をとらえるには、人物の行動や会話、情景などから考えよう。

例えば、次の言葉は、だれが、どの場面で言い、それを「太一」がどのように受け止めたのかを考えることで、「太一」とその人物の関わりが見えてくる。

- ・「海のめぐみだからなあ。」(218ページ9行目)
- ・「千びきにーびきていいんだ。——ずっとこの海で生きていけるよ。」(221ページ13行目)

・「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、——おまえの心の中が見えるようで。」(224ページ2行目)

2 人物の生き方を考えるとき

- ・次のことに気をつけて、人物の生き方をまとめよう。
- ・人物の行動や会話、様子などを表す複数の表現を関連

10

5



ふりかえろう

- 知る 人物どうしの関わりや、人物の生き方を、どのような表現に着目して考えましたか。
- 読む 人物の生き方について話し合うことで、どんな読み方に出会うことができましたか。
- つなぐ 人物の、ものの見方や考え方をとらえるときには、どんなことに気をつけるとよいですか。

ひろげよう

● 人物の生き方について考えたことを、グループで話し合おう。そして、友達の見解にふれて、よく分かったことや、自分の考えが変わったことを伝え合おう。

3

10

まとめよう

● この物語には、「海の命」という題名がつけられている。「太一」や他の人物にとって、「海の命」とは何だろうか。

● それぞれの人物の生き方について考えてみよう。そして、それに対する自分の考えをまとめよう。

2

5

いう漁師だと思おうか。

- なぜ、「太一」は、泣きそうになったと思うか。
- この物語の山場で、「太一」の考え方は、何によって、どう変わっただろうか。

3

グループで話し合うとき

づけて、その人物のものの見方や考え方を想像する。

- 一つの事に対する、別の人物の見方・考え方と比べると、その人物らしさがはつきりする。





たいせつ

物語の読みを広げる

次のことに気をつけて、読んだ人どうして語り合おうと、物語の読みが広がる。

● 周囲の人物が、中心となる人物にどのようなえいきょうをあたえたか。

● それらの人物のものの見方や考え方が、物語が伝えようとしていることは何か。



いかそう

物語の感想を伝え合うときには、どの人物の視点から感じたり考えたりしたことかを、はっきりさせましょう。

10

5

この本、読もう

本を読んで、さまざまな人物や、その考えや、生き方にふれましょう。



ことりをすきになった山
さびしい山にたのまれて、約束をしたことり。小さな約束は大切に守られやがて山は豊かに変わっていった。

15



チェロの木
木に宿った音を見つけて楽器を作り続けた父。「わたし」は、父の作ったチェロを今も大切にひき続ける。

10



西の魔女が死んだ
大好きなおばあちゃんのもとで、魔女になる修行をする、まい。魔女になるために教えてもらったことは――。

5

針
はり

灰
はい

奮
ふる

濟
さい

すむす

卒業するみなさんへ

中学校へつなげよう

生きる

今、あなたに考えてほしいこと

小学校の国語学習も、あとわずかです。できるようにになったことを確かめましょう。そして、詩と文章を読んで、感じたことを友達と話しましょう。



中学校へつなげよう

みなさんは、六年間の国語学習で、どんな言葉の力を身につけましたか。思い出したり、友達と話したりして、できるようになったことを書き残しておきましょう。



話す・聞く



書く

話題を決めるとき

材料を集めるとき



話す・聞く

話すとき

聞くとき

話し合うとき



言葉

言葉の使い方

情報

受けつがれる言葉



文章を組み立てるとき

Blank box for writing notes.

文章を書くとき

Blank box for writing notes.

文章を見直すとき

Blank box for writing notes.

書いたものを伝え合うとき

Blank box for writing notes.



構成や内容をとらえるとき

Blank box for writing notes.

読み深めるとき

Blank box for writing notes.

読んで自分の考えをまとめるとき

Blank box for writing notes.

考えを伝え合い、広げるとき

Blank box for writing notes.

読書

Blank box for writing notes.



「六年生の国語の
学びを見わたそう」

「『たいせつ』のまとめ」


248
ページ


6
ページ

生きる

谷川 俊太郎
たにかわ しゅんたろう

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ

ふっと或るメロディを思い出すということ

くしゃみすること

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ

そして

かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるおこということ

自由ということ

生きているということ

いま生きているということ

いま遠くで犬がほえるということ

いま地球がまわっているということ

いまどこかで産声うぶごえがあがるということ

いまだどこかで兵士が傷つくということ

いまぶらんこがゆれているということ

いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ

いま生きているということ

鳥ははばたくということ

海はとどろくということ

かたつむりははうということ

人は愛するということ

あなたの手のぬくみ

いのちということ

今、あなたに考えてほしいこと

なかむら
中村 桂子 文

おおの
大野 八生 絵

私の家の台所には、春になるとアリの巣がやってくる。庭にアリの巣があるので、そこから歩いてくるのでしよう。アリにとっては、決して短いきよりではありません。えさを探して、どれほど歩き回るのかなと思います。先日は、自分の体より大きいハムの切れはしを見つけて運んでいきました。私に自分より大きな荷物がどこまで運べるだろうと考えたら、アリの力には感心します。

テレビで、野生動物の生活をさつえいした番組を見たことがあるでしょう。とても強そうに見えるライオンやチーターでも、えものをとるのは簡単なことではありません。食べ物を手に入れるだけでなく、子どもを育てることも大変なことです。こうして、生き物はみな、生きることには全力をつくしています。

ですから、野生の生き物たちは、あまり他の生き物のことを考えるよゆうはありません。えさになる生き物をかわいそうだと思っていたら、自分がうえてしまえますし、子どもに食べさせるものがなくなるからです。生き物の世界は厳しいのです。けれども、必要でないときに他の生き物を殺すことはありません。ですから、強い生き物だけが生き残り、他はほろびてしまうというのではないのです。みんなが共に生きているのが、生き物の世界です。

花がさくと、ミツバチがおとずれます。ミツバチは、自分と巣にいる幼虫たちの食べ物である蜜みつと花粉を集めにやって来るのです。そのとき、体に付いた花粉の一部は、次におとずれた花のめしべに付き、植物は、実を付け、種を作って、子孫を増やすことができます。ミツバ

10

5



チは、一生けんめい生きようとしていたら、思いがけず他の生き物の役に立っていたわけです。このような例は、たくさんあります。こうして生き物全体がうまく生きています。

ここで、私たち人間のことを考えてみましょう。私たちも生き物ですから、自分の力を思い切り使って一生けんめい生きることが大切です。

人間は、二本の足で歩くようになったので、手を自由に使うことができ、脳が大きくなりました。また、のどが、言葉を話せる構造になりました。そうして、考えたり、話し合ったりするなど、他の生き物とはずいぶんちがうことができるようになったのです。

そして、二本の足で歩くようになった人間は、自由な手と考える力を使って技術を開発し、自分の力ではできないことができるようになりました。自分でものを運ぶ力はアリの負けるけれど、手おし車を使って大きな荷物を運べるようになりました。今ではトラックも使えます。人間として思い切り生きるということは、技術を使うということも入っています。ですから、次々に開発される新しい

技術を、私たちは取り入れて生活しています。それにより、利便性は増しました。でも、便利になればよいとだけ思って技術を使っていると、資源を使いすぎたり、はいき物で環境をよごしたりして、自然をこわしてしまうことがあります。

自然がこわれると、さまざまな生き物たちが生きにくくなります。みんなが共に生きている世界なのですから、他の生き物が生きにくければ人間も生きにくくなるにちがいありません。自分のできることを思い切りやって一生けんめい生きることが大事ですが、人間の場合、技術については、自然をこわさないようにということを考えて使わなければなりません。

ところで、私たちの祖先が二本の足で歩くようになった理由について、おもしろいことが分かってきています。人間は、夫婦と子どもで家族をつくっていましたが、しかも人間が暮らしていたのは、あまり食べ物が豊富ではないところでした。から、はなれたところから子どもたちへ食べ物を運ばなければなりません。そこで、食べ物を手に持って運ぶために、立ち上がった、ということです。人間の歩き方の始まりに、見つけた食べ物を自分だけで食べずに、家族に持って帰ると

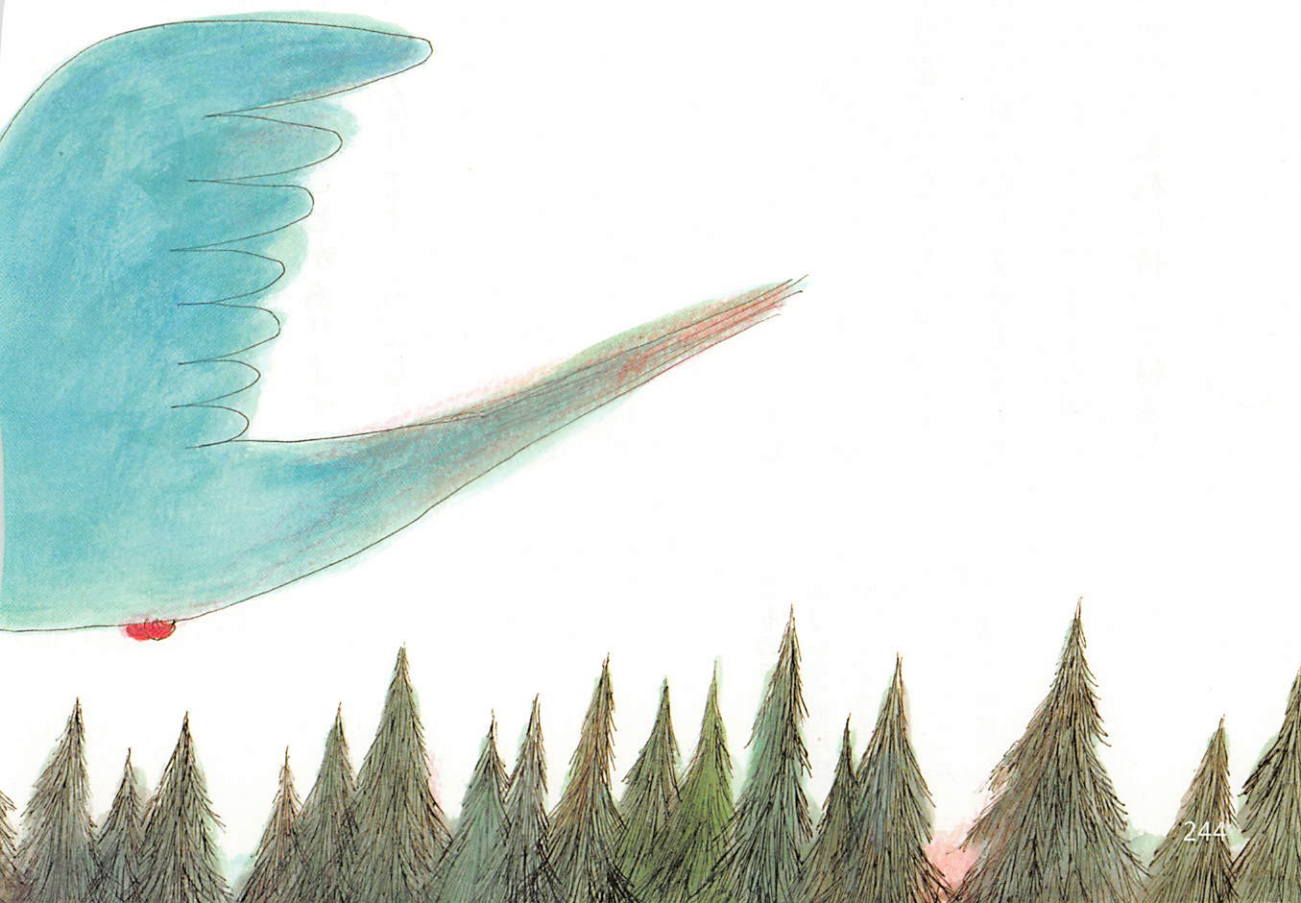
10

5

二本の足で歩くようになった理由
アメリカの学者C.
オーウェン・ラッブ
ジョイが一九八一年
に発表した学説。

いうやさしい心があったらしいと考えると、うれしくなりますね。

家に残っている家族が、おなかをすかせて食べ物してほしいと思っっているだろうと考えるのは、他の人の心を理解することです。生まれたばかりの赤ちゃんには、この能力はありません。でも、赤ちゃんも、家族や周りの人との間でやり取りをしているうちに、だんだん相手の心が分かるようになり、それが全ての人を思いやる気持ちにまで広がるのです。あなたはもう、この心をもっているのではないでしょうか。そして、今、考えたいのは、その思いやりを他の生き物にまで広げることができるはずだということですね。その思いやりがあれば、自然をこわさな



暮らし方を考えようという気持ちになれるにち
がいありません。

この思いやる気持ちから生まれたのが、想像
力です。これは、他の生き物はもっていない、
私たち人間だけにあるものです。遠くはなれた
アフリカにも、あなたと同じ子どもたちが暮ら
していることを想像してみてください。その子
どもたちが食べ物に困っていると知ったら、手
助けしたいと思いませんか。百年も昔にいたで
あろう、あなたと同じくらいの子どもたちのこ
とを思いうかべてみてください。どんな遊びを
していたのだろうと考えると、楽しくなってい
ませんか。また、百年先はどんな社会になっ
ているのだろうと考えると、わくわくしませんか。

10

5



このような想像力で、人間だけでなく全ての生き物が上手に生きるにはどうしたらよいだろうと考えることができるはずで、これから生まれてくる人や、生き物たちのことも考えられるはずで、こうして想像力を働かせて、これからのことを考えていくと、みなが生き生き暮らせる社会を考え出すこともできるでしょう。

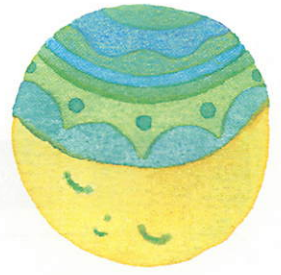
そして、そのような未来にするには、技術をどのように使ったらよいだろうというところにまで思いを広げることができると思うのです。未来のことまで考えて生き方を探していくのが、今、求められている生き方なのではないでしょうか。そのような生き方で暮らしたら、未来はどうなるのか。そのときの技術はどのようなもので、どう使われているのか。難しいけれど、とても大事なことですし、すばらしいことを思いついたら、未来は今よりずっと楽しくなるにちがいありません。それが、今、あなたに考えてほしいことです。みんなでいっしょに考えていきませんか。

10

5

中村 桂子

一九三六年、東京都生まれ。生物学者。生きているってどういうことだろうと考える、研究している。



付録

学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……………248

課題の見つけ方、調べ方……………252

考えを図で表そう……………254

言葉を使って伝えるときには……………256

言葉の交流……………258

敬語……………260

ローマ字の表……………261

対話を通して学び合う……………262

デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう……………264

本の世界を広げよう……………265

いかだ ジムリラマルシエ 作 金原 瑞人 訳……………270

平和のとりにてを築く 大牟田 稔……………276

時代をこえて伝わる古典……………282

六年間に習う漢字……………284

この本で習う漢字……………297

表彰状……………306

言葉の宝箱……………307





「たいせつ」のまとめ

つなげる

話す・聞く

準備する

決める
集める

聞いて、考えを深める

43ページ

- 話し手が、目的や話題に沿って意見を述べ、その理由や事例として適切なものを挙げているかどうかを確かめる。
- 自分の考えと比べる、共感したり納得したりできる点を取り入れるなどして、考えを深める。

目的や条件に応じて、計画的に話し合う

137ページ

- 目的や条件を確かめる。
- 自分の主張や理由、根拠を明らかにして話し合いにのぞむ。
- たがいの考えをよく聞き、問題点を見

10

資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝える

215ページ

- 考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いをくり返して、結論に向かう。
- 聞き手の知識や興味・関心に合わせて、資料を考える。
- 情報をしぼったり、図表を使ったりして、効果的な資料を作る。
- 聞き手の反応を確かめながら、話し方や表現を工夫する。

10

六年生で学習する、大切なことをまとめています。
 ● 確かめたり、他の学習で使ったりしましょう。
 ● できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。
 空欄に書きましょう。

こんな場面で
いかそう



つなげる

書く

組み立てる

決める
集める

言葉を選んで、短歌を作る

 63ページ

- 伝えたい思いや、そのときの様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を
変えたりするなど工夫する。

提案する文章を書く

 75ページ

- 次のことに気をつけて、提案する文章を構成する。

- 現状や問題点を整理し、提案の理由を明確にする。

- 提案の内容を、具体的に示す。

- 提案が実現したときの効果を示す。

伝えたいことに合わせた構成を考える

 157ページ

- 伝えたいことを明確にし、それが効果的に伝わる文章構成を考える。

- 絵や写真などと文章との組み合わせを工夫して、読み手を引きつける。

考えたことや感じたことを伝える

 180ページ

- 自分の経験と、そのときの自分の気持ち
が伝わるように、くわしく書くとい
いところはどこか考える。

- 自分が考えたことや、感じたことによ
さわしい言葉を選んで書く。


伝えたい思いを明確にして書く

 211ページ

- 材料となることを集め、伝えたいこと
を意識しながら整理する。

- どのような形式や表現を使うと、思い
がよく伝わるのかを考える。

- 読んだ人に、自分の思いが伝わってい
るか確かめる。

 こんな場面で
いかそう





説明する文章

筆者の主張と、それを支える事例をとらえる

 56ページ

● 文章全体の構成を確かめ、主張と事例が、それぞれの部分に書かれているかをとらえる。

5

● 筆者の主張や挙げられた事例について、自分の経験や知識と関係づけながら読む。

10

● 何のためにその事例が挙げられているのか、筆者の意図を考える。

筆者の考えと表現の工夫をとらえる

 151ページ

● 筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方との関わりを考えて読む。

15

物語

視点のちがいに着目して、人物像をとらえる

 32ページ

● 人物の様子や行動を表す言葉、会話文

↙

● 取り上げたものに対して、何に着目し、どのような言葉で説明や評価をしているかをとらえる。

複数の文章を読んで考えたことを

 198ページ

5

交流する

● それぞれの文章の論の展開や、表現の特徴に気をつけて、考えや述べ方の共通点や異なる点を見つける。

● 筆者の主張をとらえ、自分の経験や知識と重ね合わせながら自分の考えをもつ。


10

● さまざまな人や文章と対話し、その考えにふれると、自分の考えが深まる。

● 作者の表現によって、どのような作品世界が生まれているかを考える。

15

〈物語〉

 こんな場面で
いかそう

〈説明する文章〉



などから、その人物のものの見方や考え方を想像する。

● 語られる視点によって、人物の見え方はちがってくる。

● 自分と比べながら読むことで、人物像を深くとらえることができる。

作品の世界をとらえる

126ページ

● 内容とともに、次のような点からも、

作者が作品にこめた思いを考える。

● 題名の付け方

● 構成

● 表現のしかたや言葉の使い方

10

読書

自分と本との関わりについて考える

82ページ

本との関わりについて考えることで、

読書生活を豊かにすることができる。

● 本のテーマに着目すると、本が、自分にとってどんな存在かや、自分の考え

15

と関連させて、考えを深める。

物語の読みを広げる

232ページ

次のことに気をつけて、読んだ人どうして語り合うと、物語の読みが広がる。

● 周囲の人物が、中心となる人物にどのようなえいきょうをあたえたか。

● それらの人物のものの見方や考え方も、物語が伝えようとしていることは何か。

5

をどう広げてきたかに気づくことができる。

● 本との関わり方を交流することで、多様な見方や考え方にふれることができる。

10

〈読書〉

課題の見つけ方、調べ方

決めよう

1 立場を決めよう

課題についての自分の立場を決めましょう。

- ① 課題を考える。
- ② その課題について、縦と横にそれぞれ対になる観点を設け、その観点で考えたことを書き出す。
- ③ 書き出したことの中から、特に大切にしたい考えを選ぶ。

外からその地域に来る人に向けて

案内板の表記などについて、海外の方が分かるような工夫をする。

地域の伝統工芸を広く知ってもらえるような取り組みをする。

新たなことを実現する

地域を活性化するために

世代をこえて参加・交流できる行事を行う。

地元の人に親しまれている川を美しく保つ。

これまでのよさを大切に

その地域に住む人に向けて



2 調べたいことを決めよう

自分の考えを支えたり、より具体的にしたりするために必要な情報は何かを考え、調べたいことを決めましょう。

地域の伝統工芸を広く知ってもらいたい。そのためには、ぼく自身が地域の伝統工芸について、くわしく知る必要があるな。

ぼくの町の伝統工芸が知られていない原因は、何だろう。

他の地域で行っている取り組みが、参考になりそうだ。



3 調べよう

知りたいことについて、複数の情報を集め、それらに関連づけながら、調べましょう。

計画を立てて、始めよう。



新聞やインターネットで調べる

調べたいことによつて、メディアを使い分けよう。



施設しに行つて調べる

(図書館・博物館・資料館など)

地域の伝統工芸について、博物館で調べてみよう。



「地域の施設しを活用しよう」

34ページ

情報を読み取る

多くの主張を支える事例として適切なのはどれかな。



「主張と事例」

57ページ

情報を組み合わせる

共通点から、まとめて言えることがありそうだ。



「ものの考え方、伝え方」

11ページ

「情報と情報をつなげて伝えるとき」

68ページ

地域の伝統工芸を広く知ってもらうことが、地域の活性化につながるという主張の根拠きよこと事例が見つかったよ。

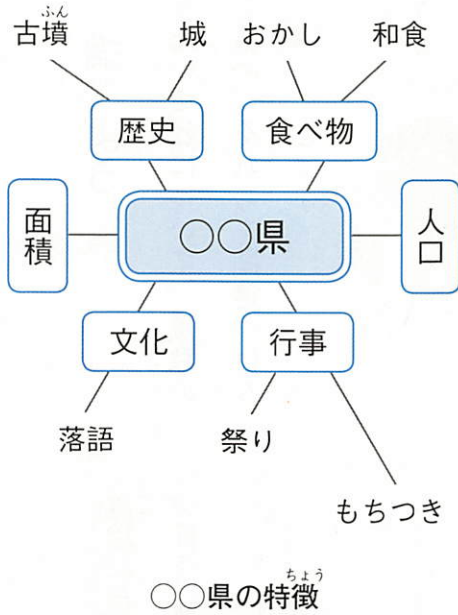


考えを図で表そう

考えをつなぐ、広げる

中央にテーマを表す言葉を書き、そこから考えや物事をつないだり、広げたりしていく。

考えや物事の関係を整理したり、アイデアを広げたりするのに役立つ。



5

アイデアを出したり、考えをまとめたりするとき、図や表を書きながら考えましょう。

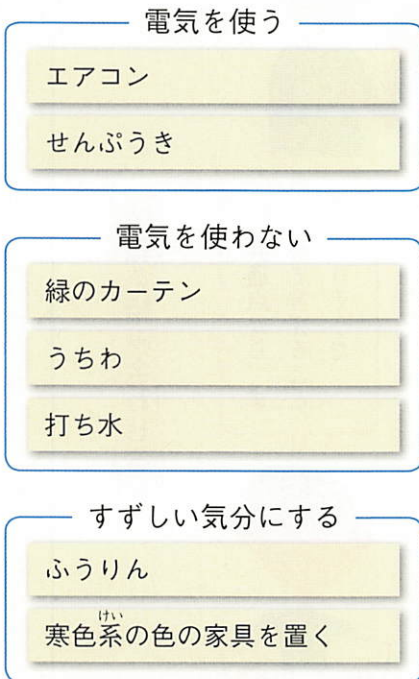
「ものの考え方、伝え方」

11ページ

分類する

似ている事がらどうしをグループにして、名前をつける。

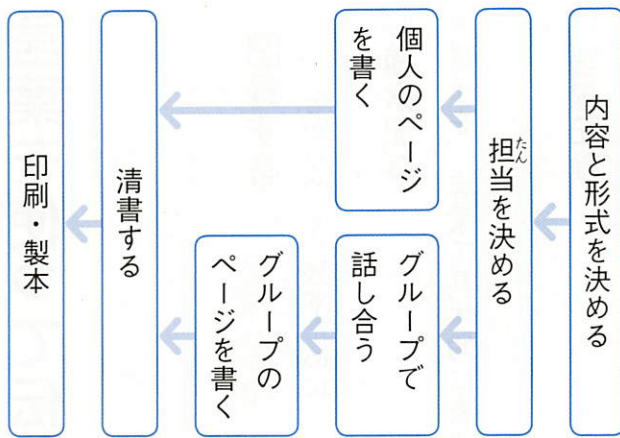
たくさんの事がらを整理するのに役立つ。



順序を確かめる

時間や事からの順序に沿って物事を書き出し、矢印でつなぐ。二つに分かれるところもある。

進め方を考えたり、今の位置や順序を確かめたりするのに役立つ。



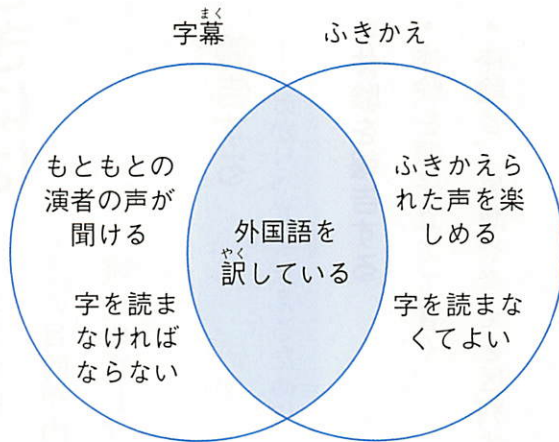
卒業文集作成の計画

5

同じ点と異なる点で比べる

二つの物事について、二つともがもつ特徴、それぞれにしかない特徴を分けて書く。

二つの物事を、同じ点と異なる点で比べることができる。



外国の映画を字幕とふきかえて見る場合

5

観点を挙げて比べる

縦と横の線で表を作り、一方に比べる物事を、もう一方に比べる観点を挙げ、中身を書きこむ。

それぞれの物事を観点別に見ることがができる。

水溶液 調べた観点	食塩水	アンモニア水	塩酸	炭酸水
様子	水と同じ	水と同じ	水と同じ	あわ
におい	なし	あり	あり	なし
蒸発させると残る物	白い物	なし	なし	なし
リトマス紙の変化	青→青 赤→赤	青→青 赤→青	青→赤 赤→赤	青→赤 赤→赤

水溶液の性質

5

言葉を使って伝えるときには

言葉を使って、物事を表したり伝えたりするときには、その目的や内容、方法によって、大切なことが変わります。確かめましょう。

記録する

— 分かりやすく残すために

観察記録

- 様子を、言葉で具体的に表す。

読書記録

- 本の情報を正しく書き取る。
- 引用や要約で、内容を書き留める。

日記

- 出来事をくわしく書く。

10

5

報告する

— 分かりやすく伝えるために

体験を報告する

- 体験を順序立てて書く。
- 体験と、感想や考えを区別する。

調べたことを報告する

- 情報を正確に収集して示す。
- 何を、どうやって調べたのかを示す。

- 問いとその答えを対応させる。
- 順序立てて伝える。

10

5

話し合う

— 考えを広げ、深めるために

- 自分の立場や考え、その理由を明らかにする。
- 出された考えや意見の、共通点と異なる点を明確にする。

インタビューする

— たくさんのことを聞き出すために

- 目的に沿って質問を考える。
- 相手の答えに応じて質問を変えたり、新たに考えたりする。

10

5

説明する

—相手に理解してもらうために

- 説明する事からの関係をとらえ、それに応じた構成を考える。
(順序、全体と中心、考えと理由や例、原因と結果など。)
- 最初に、話題をはっきりさせる。

意見を伝える

—相手に納得してもらうために

- 主張と理由、それを支える根拠きよを明確に示す。
- 予想した反論はんろんをふまえる。

10

5

しよがかいする・すいせんする

—相手によさを伝えるために

- 相手や条件に応じて情報を選ぶ。
- 理由を明確にする。

提案する

—相手に働きかけるために

- 提案と理由を具体的に伝える。
- 提案の効果伝える。

5

手紙を書く

—相手にきちんと伝えるために

■お礼を伝える

- 経験や気持ちをくわしく表す。

■案内する

- 相手にとって大事なことを考える。

詩や物語を作る

—感じたことを表現するために

- 言葉をよりすぐる。
- 構成や、言葉の並べ方ならを工夫する。
- 表現や、言葉の調子を工夫する。

10

5

言葉の交流

日本語にはない物や考え方が外国から入ってきたとき、わたし私たちは、それを表す言葉をどのように取り入れるのでしょうか。

一つには、発音ごと取り入れる方法があります。外来語とよばれ、ふつうは片かた仮か名なで書かきます。

■ 外来語の例

ポルトガル語	カステラ, コンペイトー, パン, オルガン, カルタ など
オランダ語	エキス, ペンキ, ガス, レンズ, インキ, ゴム など
ドイツ語	ガーゼ, カルテ, ゲレンデ, ザイル, アルバイト など
フランス語	ズボン, クレヨン, アトリエ, デッサン, オムレツ, グラタン など
イタリア語	オペラ, ソプラノ, テンポ, パスタ, ピザ など
英語	メモ, カメラ, テーブル, スポーツ, ビジネス, コミュニケーション など

5

上の表のように、さまざまな言語が外来語の元になっていきます。初めに入ってきたのがポルトガル語で、十六世紀から十七世紀に伝わってきました。鎖国せこくしていた江戸時代えども、交易のあったオランダからは、医学や化学に関する言葉が入ってきました。そして、幕末・明治以降こは、各国から次々と新しい言葉が入ってきます。なかでも英語が多いことは、イギリスやアメリカからのえいきょうが大きかったことを物語っています。

5

もう一つ、漢字のもつ意味を利用し、訳語やくごを作ったり取り入れるという方法があります。特に、明治時代の初めごろには、次々と入ってくる新しい考え方や仕組みに対して、「科学」「国際」「時間」「哲学てつがく」「野球」など、多くの訳語が作られ、定着しました。

10

日本語に他の言語を取り入れるのと同じように、世界各地で取り入れられている日本語もあります。

例えば、和食は、さまざまな国で注目されていますが、「すし」や「弁当」、「とうふ」など、そのまま使われている言葉がたくさんあります。また、「津波」は、学

5

術用語「tsunami」として世界各地で使われています。

言葉には、その言葉を使う人たちの文化や考え方が、ちえや技術などがつまっています。人々が交流することによって、言葉も交流します。たがいの言葉を尊重しながら、言葉の交流を大切にしたいものです。

5

アイヌ語の地名が伝えること

アイヌ語は、北海道や本州北部、その周辺で、古くから暮らしてきたアイヌの人たちの言葉です。アイヌ語を身近に感じられるものに地名があります。特に、北海道の地名の多くは、アイヌ語が元になっています。

北海道では、紋別もんべつや登別のぼりべつ、札幌さっぽろといったように、「ペツ」や「ナイ」と付く地名をよく見かけます。これらの多くは、アイヌ語で川や沢を意味する「ペツ」や「ナイ」が元になっています。アイヌの人たちにとって川は、交通手段だんや食料を得る重要な場所だったため、川の様子を表す地名が多いのだと考えられます。

10

5

また、みさきを「エトウ（鼻）」、川の支流を「ウツ（ろつ骨）」などと、体の一部にたとえた地名もあります。アイヌの人たちの、自然も人間と同じく生きているという考えが反映えいされた表現といえます。

アイヌ語が由来となっている地名からは、アイヌの人たちの伝統的な暮らしや考え方をうかがえるのです。

5



しれとこ 知床は、「シリ（地）・エトク（先端）」

敬語^{けいご}

尊敬語^{そんけいご}

相手や話題になっていている人を敬う^{うやま}気持ちを表す。

① 特別な言葉を使った言い方。

・いらっしゃる（いる・来る・行く）

・おっしゃる（言う）

・くださる（くれる） など

② 「お（ご）——になる」という言い方。

・校長先生がお話^{お話し}になります。

③ 「——られる（られる）」という言い方。

・先生は、もう帰^{かえ}られました。

④ 物事を表す言葉に「お」や「ご」を付けた言い方。

・ご卒業おめでとうございます。

10

5

敬語を適切に使って、話したり書いたりしましょう。

謙讓語^{けんじょうご}

自分や身内の者の動作をけんそんして言うことで、

その動作を受ける人への敬意を表す。

① 特別な言葉を使った言い方。

・うかがう（行く・たずねる・聞く）

・いただく（食べる・もらう） など

② 「お（ご）——する」という言い方。

・お客様を、お見送り^{お見送り}しましょう。

・講師の方を、会場^{会場}にご案内^{ご案内}する。

ていねい語

相手（聞き手や読み手）に対する敬意を表す。

「です」「ます」「ご」が「ございます」 など

10

5

ローマ字の表

ローマ字を書いたり、コンピュータに文字を入力したりするときに
いかしましょう。

大文字 ／ 小文字	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段			
	A/a	I/i	U/u	E/e	O/o			
ア行	あ a	い i	う u	え e	お o			
カ行	K/k か ka	き ki	く ku	け ke	こ ko	きゃ kya	きゅ kyu	きょ kyo
サ行	S/s さ sa	し si [shi]	す su	せ se	そ so	しゃ sya [sha]	しゅ syu [shu]	しょ syo [sho]
タ行	T/t た ta	ち ti [chi]	つ tu [tsu]	て te	と to	ちゃ tya [cha]	ちゅ tyu [chu]	ちよ tyo [cho]
ナ行	N/n な na	に ni	ぬ nu	ね ne	の no	にゃ nya	にゅ nyu	にょ nyo
ハ行	H/h は ha	ひ hi	ふ hu [fu]	へ he	ほ ho	ひゃ hya	ひゅ hyu	ひょ hyo
マ行	M/m ま ma	み mi	む mu	め me	も mo	みゃ mya	みゅ myu	みょ myo
ヤ行	Y/y や ya	(い) (i)	ゆ yu	(え) (e)	よ yo			
ラ行	R/r ら ra	り ri	る ru	れ re	ろ ro	りゃ rya	りゅ ryu	りょ ryo
ワ行	W/w わ wa	(い) (i)	(う) (u)	(え) (e)	を* (o) [wo]			
ン	ん* n							
ガ行	G/g が ga	ぎ gi	ぐ gu	げ ge	ご go	ぎゃ gya	ぎゅ gyu	ぎょ gyo
ザ行	Z/z ざ za	じ ji [ji]	ず zu	ぜ ze	ぞ zo	じゃ zya [ja]	じゅ zyu [ju]	じょ zyo [jo]
ダ行	D/d だ da	ぢ* (ji) [di]	づ* (zu) [du]	で de	ど do	ぢゃ* (zya) [dya]	ぢゅ* (zyu) [dyu]	ぢょ* (zyo) [dyo]
バ行	B/b ば ba	び bi	ぶ bu	べ be	ぼ bo	びゃ bya	びゅ byu	びょ byo
パ行	P/p ぱ pa	ぴ pi	ぷ pu	ぺ pe	ぽ po	ぴゃ pya	ぴゅ pyu	ぴょ pyo

[] の中の書き方も使うことができる。() は、重ねて出しているもの。

※コンピュータに文字を入力するときは、次のように打ちます。

を → wo ん → nn ぢ → di づ → du ぢゃ → dya ぢゅ → dyu ぢょ → dyo

対話を通して学び合う

二人で伝え合う

二人で気軽に話すことで、新たな考えを見つけられることがあります。

お話を作ってみたんだけど、どう思う。

楽しいお話だね。山場で、もう少しおどろきがあるといいかもしれない。



グループで意見をまとめる

出合ったアイデアを分類したり、話し合いの目的

5

友達と話すことで新たなことに気づいたり、考えが深まったりすることがあります。これまでに行ってきた対話をふり返り、日常生活や他の教科の学習でいかしましょう。

グループでアイデアを出し合う

何人かで話すと、一人で考えているときよりも、アイデアが出たり、広がったりします。

地域の^{いき}人との交流を深めるために、何ができるだろうか。

音楽祭に来てもらうのはどうかな。

それなら、運動会や学習発表会に招待するのも考えられるよ。



立場を決めて^{よく}討論する

ある問題について、異なる立場に分かれて議論する

5

をふり返ったりすると、よりよい考えにたどり着きます。

地球環境を守るために、
どんな提案をしたらいい
だろう。

たくさんの案が出たけ
れど、まずは、私たちが
できることにしよう。



全員で話し合う

みんなに関係することは、全員で話し合うと納得でき
る結論になります。

音楽祭で歌うクラスの合唱曲に
ついて、意見を出してください。

私は、岩崎さんの意見に賛成です。な
ぜなら、歌詞のイメージが私たちにびつ
たりだからです。



と、論点がはっきりし、考えが深まります。

私は、学級文庫にまんが
を置かないほうがいいと思
います。

まんがには、学習に役立
つものもありますが、その
点はどう考えていますか。



相手に質問する

興味をもって聞き、話の流れに沿って質問すること
で、多くの情報を引き出せます。

矢島さんがピアノを習い
始めたきっかけは何ですか。

実は、最初は母に言われ
て、いやいや始めたんです。



デジタル機器を使って、 プレゼンテーションをしよう

資料を使って発表することを、プレゼンテーションといいます。デジタル機器を使って説明するときには、どんなところに気をつけたらよいかを確かめましょう。

提示しながら話すとき

- 資料を見てほしいときは、見てほしい部分を指さすなどして、聞き手の注意をうながす。
- 聞き手が資料を読むための間を取る。
- 提示している資料ではなく、聞き手を見るようにする。

提示するものを作るとき

- 伝えたい内容や相手に合わせて、見せるものを選ぶ。
- 一つの画面に、情報を入れすぎないようにする。
- 後ろからも見えるように、文字や写真の大きさに気をつける。

この写真を見てください。ここは、地球のいちばん北にある、北極という場所です。ホッキョクグマが小さい氷の上にいるのが分かりますか。実は、この北極では、地球温暖化により、海の氷がとけてしまっているのです。――

北極の氷が減っている



本の世界を 広げよう



盆まねき



ホラぶき山のおじいちゃんたちから、次々と不思議な話を聞いたなっちゃん。「盆まねき」最後の夜にみんなからはぐれてしま

富安陽子
高橋和枝 絵

ルリユールおじさん



ルリユールとは本のお医者さんみたいな人。魔法の手によって、ぼろぼろになった本を立派によみがえらせる。

いせひでこ 作

物語・絵本

冒険者たち



鳥ネズミを助けるため、夢見が島に向かったガンバと仲間たち。どうもうなイタチの群れと力をつくして戦う。

斎藤惇夫 作
荻内正幸 画

トムは真夜中の庭で



トムは、古い大時計が夜中に十三回も鳴るのを聞いた。おどろいたトムは、そっとベッドからぬけ出す。

フィリパピアス 作
高杉一郎 訳

モギ ちいさな焼きもの師



ミンのような焼きもの師になりたい。モギは親のように見守るトルミのはげましを受け、夢の実現に向かう。

リンダスパーバーク
片岡しのぶ 訳

ぼくらの先生!



なくなつたくつ。肝だめしの夜に起きた不思議。定年退職した先生が、学校での出来事を語るミステリー短編集。

はやみねかおる

ヨーンじいちゃん



ヨーンじいちゃんは、おしゃれもするし、恋もする。ちよっと変わっているけれど、にくめない。

ベーターヘルトリング 作
上田真而子 訳

夏の庭



「死ぬ」ってどんなことだろう。それが知りたくて、ぼくらはじいさんを見張り始めた。いつのまにか、それは深い交流へと変わった。

The Friends

湯本香樹実 作



トモ、ぼくは元気です

香坂直

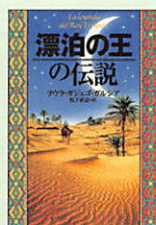
小学校最後の夏休み、和樹を待っていたのは「罰」として祖父母の家で過ごす生活だった。ささくれた心を街が包む。



夏のとびら

泉啓子作
丹地陽子絵

麻也はバスケットクラブの副キャプテンで、練習に燃えていた。しかし、とつぜんの出来事が、日常を大きく変えていく。



漂泊の王の伝説

ラウラ・ガジエゴ・ガルシア
松下直弘訳

のろわれたじゅうたんに追って、王子ワリードは砂ばくをさすらう。自分の行いのつぐないをするために。

科学・知識



世界を動かした塩の物語

マーク・カーランスキー作
S. D. シンドラー 絵
遠藤育枝 訳

人間は、塩がなくては生きていけない。今はいくらも存在になった塩が、世界の歴史を動かしていた。



リバウンド

E.O. オルターズ作
小梨直訳
深川直美 画

カナダに住むシヨーンと、車いすに乗った転校生デヴィッド。二人の少年を結ぶのは、バスケットボールだった。



ハッピーノート

草野たき作
ともこエヴァーソン 画

友達にきらわれたくない。聡子も霧島君もみんな、じゅくて、学校で、家で、いろいろな顔をもつ。でも本当の自分って――。



世界一おいしい火山の本

林信太郎 著

チョコレートやココアを使って、火山を作ってみよう。おいしい実験で、火山の仕組みを分かりやすく説明した本。



今昔物語集

今丈ヒロ子 著
つだなおこ 絵

鬼のあやしい話や、ねこぎらいな金持ちのこっけいな話。「今は昔」で始まる、おかしくて不思議な平安時代の話の宝庫。



両親を
しつけよう!

ビートリッジ・ジョンソン 作
岡本浜江 訳
ささめや ゆき絵

ルーイはお笑いタレントを目指している。でも親は勉強、勉強って。じゃあ、親が変わってもらおう。作戦開始。



月はぼくらの宇宙港

佐伯和人

人が太陽系へ進出するための宇宙港として注目の「月」。解説とミニ実験コーナーで、月にくわしくなれる。



アレルギーってなに？

海老澤元宏 監修
坂上博 著

世界で初めてアレルギーになったのは、今から五千年前のエジプトの王様って本当なのかな。アレルギーのなぞを解説する本。



0.1ミリのタイムマシン

須藤 亨

小さな化石から、地球の歴史が見えてくる。過去を知ることは、未来を考えることにつながる。



3 音楽家にもなろう

松下奈緒 ナビゲーター
ひのまどか 執筆・監修

バッハなど、有名な音楽家はどんな人だったのか、名曲はどうやって生まれたのかなどが分かる本。音楽がもっと身近になる。



キュビズムって、なんだろう？

ケイト・リッグス 編

キュビズムの絵は、丸や四角、三角などの形を重ねてかかれています。絵の中にかかれた形を見つけましょう。



歴史人物・文化遺産 ⑥江戸時代(後期)・幕末

鎌田和宏 監修

徳川吉宗や西郷隆盛など、江戸時代後期から幕末の人物と文化をしようかい。歴史の裏話なども興味深く読める。



ネルソン・マンデラ 自由へのたたかい

メグ・ベルヴェイン 著
伊藤菜摘子 訳

刑務所に入れられながらも、人種差別に立ち向かったマンデラ氏。つらぬいたものは、自由と平等だった。



アンネのバラ

國森 康弘

「アンネのバラ」を育て続けること、それは平和への願いを引きつぐこと。命について思いを深めること。



学校にいくのは、なんのため？

長田徹 監修
稲葉茂勝 著

現代の社会問題をふくめて、学校で学ぶ意味や目的を考える。自分の将来の生活や人生の設計もいっしょに考えたい。



よくわかる ネット依存

ネット依存とは何か、ネット依存による体へのえいきょうなど、便利さの裏にひそむ問題と、予防策が分かる本。

遠藤 美季 監修



もしも日本人がみんな米つぶだったら

一人、百万人といった大きな数字。どれぐらいか想像できるかい。お米を使って、大きな数を実感しよう。

山口 タオ文
津川 シンスケ 絵



鉄は魔法つかい

カキやホタテのようしよくをしている筆者は、カキと鉄の関係を知ったことから、鉄の研究を始める。

島山 重篤 著
スギヤマカナヲ 絵



考える練習をしよう

頭をやわらかくして、いろいろな角度から物事を見てみよう。そうすると、人生が少し豊かになる。

マリリン・バーンズ
マーサ・ウエズトン 絵
左京 久代 訳



深海大探検!

有人せん水調査船「しんかい6500」や無人探査機の、仕組みやかつやくぶりをしようかい。深海の調査について分かる本。

ワン・ステップ 編
海洋研究開発機構 協力



池上彰の ニュースに登場する世界の環境問題 ⑩ エネルギー

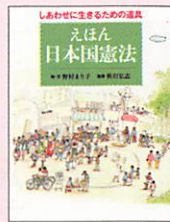
私たちの生活を便利にする、エネルギー。どんな課題があるのかを知り、未来のために行動しよう。



いのる

人は、何のためにいのるのだらう。今日も、世界の各地で人々のいのりは続いている。

長倉 洋海



えほん 日本国憲法

私たちの自由で幸せな暮らしを守るために創られた日本国憲法。その条文を絵と文で読んでみよう。

野村 まり子 絵・文
笹沼 弘志 監修



暑さどくらし

暑さを防ぐさまざまな工夫をしようかい。私たちがより快適に生活するためには、どのようにしたらよいかを考える本。

宿谷 昌則 監修
鈴木 信恵 著

地球への
ピクニック



谷川俊太郎さんの詩が
ぎゅっしりつまっている。初
めてだけれど胸にしみる詩、
どきっと心をノックされ
る詩。

谷川俊太郎 詩
長新太 絵

本のしよっかい合戦

本のみりよくについてスピーチやプレ
ゼンテーションをし合い、聞いている人
が、いちばん読んでみたいと思った本を
決めます。



5

声に出そう
— 自然のうた



中国で生まれた漢詩。
声に出して読むことから始
めてみよう。そこには新し
い言葉の世界が待っている。

全国漢文教育学会 編著
鴨下潤 絵

子ども司書になろう

本や図書館の利用にくわしい子ども司
書になって、学級文庫を運営したり、図
書委員会に学校図書館の改善を提案した
りしましょう。



5

〈学級文庫の運営の例〉

- ・新しく入った本にポップや帯を付ける。
- ・おすすめ本コーナーの設置。 など
- 〈学校図書館の改善提案の例〉
- ・地域の資料を集めたコーナーを作る。
- ・定期的にブックトークを行う。 など

10

サキサキ
オノマトペの短歌



すてきな短歌に、すてき
な絵。絵をめくると、おも
しろい解説が付いている。
よりすぐりの短歌十四首を
集めた絵本。

穂村弘 編
高島那生 絵

読み終わった本には、に印を付けましょう。

書評を書こう

読んだ本をしようかいするため、ど
んな内容か、どんなよいところがあるか
を、自分の感想を交えて書きましょう。



〈例〉

カラスは悪い鳥なのか!?
「わたしのカラス研究」

しばたよしひで
柴田佳秀

いちばん身近で、最もきらわれている鳥、カラス。その暮らしには、多くのなぞがある。食べ物、ねどこ、子育て——。それらを解き明かす筆者の情熱に、目と心をうばわれる。

写真を中心に、ばらばらとめくるだけでもいい。ぜひ手にとってほしい。

いかだ

ジムリラマルシエ 作

かねはら みずひと
金原 瑞人 訳

今年の夏、父さんの仕事の関係で、ぼくは川辺に住んでいるおばあちゃんの家で過ごすことになった。いっしょに遊べる友達もいなければ、テレビもない。おばあちゃんの前で父さんの車を見送っていると、なみだがこみ上げてきた。

そんなぼくを、おばあちゃんは、「おいで、ニツク。夕食にするよ。」と言って、キッチンに連れていった。「コーンブレッドには、はちみつとメープルシロップ、どっちがいい。」

「コーンブレッド、きれいなんだ。」ぼくは小さな声で言いながら、おばあちゃんがむこうを向いているすきに、メープルシロップの中に指をつっこんだ。

▼ 次の課題に取り組もう。

- 情景を想像しながら読もう。
- 物語の中での、「ぼく」と「おばあちゃん」の関係や、「ぼく」自身の変化について考えよう。

「手を洗^{あら}ってからにきなさい。」おばあちゃんが言った。背中^せに目がついてるのかと思った。洗面所^{せん}に行くときちゅう通った部屋がすごかった。かべにスケッチや、川の地図や、つりざおや、つり道具が入ったケースや、シュノーケルや、水中めがねがかけてあった。川ネズミの仕事部屋みたいだ。川のそばに住んでいる人のことを、みんなはよく、川ネズミとよぶ。その部屋には、作りかけのクマのちょうこくもあった。

「ほり始めてもう何年もたつんだけど、なかなか仕上がらなくてね。」おばあちゃんがキッチンから言った。「本物は、外のごみ捨て場^すをうろついているよ。」

さあ、こっちに来て食べなさい。クマにあげちゃうよ。」

ぼくの仕事はたくさんあった。朝、まきを割^わって、雨どいのそうじを手伝って、トラックの点火プラグを取りかえた。夕方近く、つりざおとうきと、えさの赤虫をわたされた。

「今夜は魚料理だね。」おばあちゃんはそう言って、つり針^{はり}にえさを付けてみせてくれた。「この川には太ったブルーギルがいっぱいいるんだ。えさをスイレンの葉のそばに落としてごらん。そうすればつれるよ。」

栈橋^{さん}に行ってみると、スイレンの葉は岸のすぐ近くにあった。そんなところに魚がいるわけない。ぼくは栈橋の先まで行って、さおをふって、えさをできるだけ遠くに放った。そしてすわって、待った。待っても、待っても、うきはびくりともしない。

夕食はハンバーガーになった。

「もう一度やっごらん。」次の日の夕方、おばあ

ちゃんが言った。「何かつれるよ。」

期待しないでね。ぼくは心の中でつぶやきながら、栈橋まで行って、つり糸を垂^たれた。そしてねそべっているうちにねむってしまった、鳥の鳴き声で目が覚めた。起き上がってみると、鳥の群れが川の上をこちらにやって来る。川にうかんでいるものを追いかけているみたいだ。それは川を流れて、どんどん近づいてくると栈橋にぶつかった。

葉や枝のかたまりかと思っただけど、よく見ると、四角いいかだだった。縦^たも横も、ぼくの身長より長い。手をのばして葉をかき分けると、絵がかいてあった。ウサギだ。昔のどくつのかべにかかれた絵みたいだ。葉をはらっていくと、次々に動物の絵が出てきた。クマ、キツネ、アライグマ——。どれもウサギの絵と同じで、かっこいい。だれがかいたんだらう。

家にもどると、おばあちゃんがポーチ^①で本を読ん

でいた。

「ロープある。」

「ここにあるよ、ニック。」おばあちゃんが答えた。何に使うのかは聞かれなかった。

ぼくはいかだを川岸におし上げて、栈橋にくくりつけた。ずっと、鳥たちが頭の上を飛んでいた。ときどき、いかだに下りてくる。いかだの友達みただ。

次の日の朝、栈橋にいと、おばあちゃんがライフジャケットと、長い棒ぼうを持ってきた。いかだを見ても、いかだの絵を見ても、にこにこしていて、ちっともおどろかない。

「知ってたの——」。ぼくはびっくりした。

「さあ、出発。」おばあちゃんはライフジャケットをこっちに放って、いかだに乗りこんだ。おばあちゃん15が棒で川底をぐつとおすと、いかだはゆっく

り川の流れに乗って進み始めた。

「さあ、ニックの番だ。」少しすると、おばあちゃんが、棒の持ち方やいかだの進め方を教えてくれた。ぼくは棒で川底について、いかだを川の真ん中に進めた。

流れに逆らって少し進んでは、ゆったりした流れに乗って元の場所にもどる。鳥がずっとついてくる。しばらくいかだで羽を休める鳥もいた。ヒッチハイクしてるんだよ、おばあちゃんが言った。

ぼくは、ほとんどの時間をいかだで過すごした。大急ぎでその日の仕事を終わらせると、栈橋に走って行って、今日はどんな動物に会えるかなあ、と考えた。いかだの友達10は鳥だけじゃなかった。三びきのアライグマが川辺についてきたこともある。カメが一びき、いかだの上で日なたぼっこをしていたこともある。キツネの家族に会ったこともある。みんな、いかだと知り合いみたいだ。ぼくは楽しくてしやう15がなかった。

暑くて風のない夜には、おばあちゃんが小さなテントをいかだの上に張るのを手伝ってくれた。ひんやりとしたシートにねそべって、懐中電灯の明かりでマンガを読んでいると、いつのまにかねむっていた。ある夜、物音で目が覚めて、はっとした。月明かりの中に大きな雄^おシガが立っていたのだ。川面^{かわも}に顔を近づけて水を飲んでいる。まるで、ぼくなんかないみたいだ。

次の日の朝、おばあちゃんがクマのちょうこくの続きをほっているのを見つけた。

「絵をかく紙あるかな。」

おばあちゃんが、大きなスケッチブックと、えんぴつとクレヨンがたくさん入ったふくろを持ってきてくれた。「ニックのためにとっておいたんだ。それから、シユノーケルと水中めがねも持っていくといい。きっと、いかだの上で役に立つときが来るから。」

昼過ぎ、太陽がじりじりと照りつけていた。ぼくは、いかだをヤナギの木のかげに入れると、動物が近づくの待った。りっぱな青サギが勢いよく下りてきた。くちばしにザリガニをくわえている。ぼくは急いでえんぴつを出して、スケッチを始めた。そしてとうめい人間になったような気持ちで、目の前でのもんぶり食事をする青サギを見ていた。

夜、絵をおばあちゃんに見せた。

「いいね。」おばあちゃんは、かべにはってある自分のスケッチの上に、ぼくのをピンで留めた。ぼくは思わず、にこにこしてしまった。

ある日、これまで行ったことがない上流まで、いかだでのぼってみた。ガマのしげみに、カワウソの家族がいた。カワウソはおどろいて川に飛びこんだけれど、他の動物と同じように、いかだを見てほったしてみた。すぐに、ぼくの周りで遊び始めた。

おばあちゃんが言ったとおり、水中めがねとシユ

ノーケルが役に立った。ぼくはいかだから顔だけ水につけて、夢中になってカワウソをながめた。魚を追いかけてたり、追いかけてっこをしたり、自分のしっぽを追いかけてたりしている。

ある朝、おばあちゃんが、サンドイッチと、よく冷えたレモネードをポットに入れて、持ってきてくれた。ぼくたちは水着に着がえると、タオルと折りたたみのいすとうき輪を持って、上流にあるおばあちゃんのお気に入りの場所まで行った。

「小さいころ、ここに泳ぎに来てたんだよ。おばあちゃんが、いかだを古い栈橋にロープでつなぎながら教えてくれた。「家族で川辺に住んでたこともあってね。それも十人。まるで森の動物の群れだよ。私は川ネズミの中の川ネズミってよばれていたんだ。」^{わたし}

ぼくは飛びこみの練習をした。空中でひざをかかえて飛びこむ。練習の後は昼食。おばあちゃんが、どんなふうに暮らしてきたか話してくれた。川で見

つけた貝の中から黒しんじゅが出てきた話にはわくわくした。「まだ持ってるよ。」おばあちゃんが言った。川のそばにいと、ずっと夏が続くような気がした。でも、やっぱり夏の終わりがやって来た。

おばあちゃんの家で過ごす最後の日、ぼくは思い切り早起きして、栈橋に行った。空気はひんやりとされていて、川はしんじゅのような白いきりに包まれていた。いかだのロープをほどくと、そっと流れに乗って進む。

きりの中でお母さんと子どものシカが川をわたっている。そして岸にたどり着くと、お母さんのシカは急な土手をかけ上がって、子ジカを待った。ところが、子ジカはぬかるんだ土手をかけ上がろうとして、すべり落ちてしまった。お母さんのシカが助けようと川までもどってきた。だけど、子ジカは動けば動くほど、どろの中にはまっていく。

ぼくは川底を棒で強くおして、いかだを土手に近

づけた。子ジカがびっくりする。ぼくはいかだから降りてみた。足首の上までどろにうまった。

「だいじょうぶだよ。」子ジカにささやいた。どうか、いかだがシカを落ち着かせてくれますように。ぼくはいのった。「助けてあげるからね。」

すぐに子ジカは暴れなくなった。ぼくが助けに来たのが分かったみたいだ。子ジカをだきかかえて、引っぱった。少し動いた。もう一度、引っぱってみる。もう一度。ようやく子ジカをどろから引っぱり上げることができた。ぼくは土手の上のお母さんのところまでだいていった。

いかだにもどってふり返ると、お母さんのシカが子ジカに鼻をすり寄せ、それからどろをきれいにし、てやっていた。ぼくは短くなったえんぴつをポケットから出して、野生の子ジカの絵を、灰色のいかだの板にかいた。かき終えると、このいかだにびったりに見えた。自分の顔がほころぶのが分かった。

夕食の後、おばあちゃんに絵を見せながら、子ジカの話をした。

「よくやったね。」おばあちゃんが言った。「でも、もう一つすることがあるよ。」家の方にかけていくと、油絵の具と筆を二本持ってきた。「さあ、行こうか。」

栈橋まで行くと、二人で、ぼくがかいた子ジカを油絵の具でなぞった。絵の具は、いかだの板にしみこんだ。「これで、もう消えないよ。これからはニツクもずっと川といっしょだね。」

「おばあちゃんみたいに。」ぼくは言った。「川ネズミになった。」

おばあちゃんは声を上げて笑った。「ほんとだね。」

①ポーチ

玄関の外側にはり出した、上が屋根でおおわれているところ。

ジム・ヒラマルシエ

アメリカの絵本作家。

金原 瑞人

一九五四年、岡山県生まれ。翻訳家。

平和のとりでを築く

おおむた
みゆる
大牟田 稔

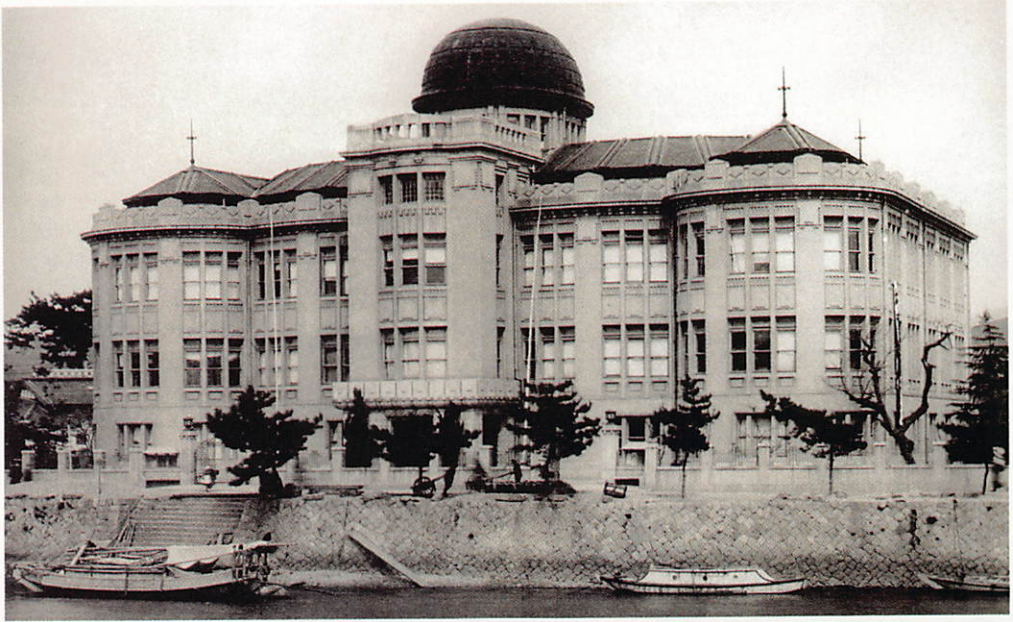
▼次の中から課題を選んで、取り組もう。

・広島「産業奨励館」が「原爆ドーム」とよばれているのはなぜだろう。どうして保存されることになったのだろうか。その理由をまとめよう。

・筆者が、この文章を通じて読者にうったえたいことは何か。それについて自分はどうか考えるか。考えをまとめよう。

広島市には、一発の原子爆弾で破壊され、そのままの形で今日まで保存されてきた「原爆ドーム」とよばれる建物がある。この原爆ドームが、平和を築き、戦争をいましめるための建造物として、ユネスコの世界遺産への仲間入りを果たしたとき、私は、建築されてからこの日まで、この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。その年月は、私たちの父母や祖父父母たちが生きてきた時代、そして、社会が激しく変わっていった時代と重なる。

「原爆ドーム」は、広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っている。もともとは、



原子爆弾で破壊される前の建物

物産陳列館^{ちん}として、一九一五年（大正四年）に完成した。ヨーロッパ出身の若い建築家が設計した鉄骨・れんが造りの三階建てで、建物の真ん中には、楕円形の丸屋根（ドーム）が五階の高さにつき出ている。建てられた当時は、小さいながら、ひときわ目立つ建物だったという。

この建物は、広島を取り巻く時代の流れをじっと見守ってきた。この建物がかげを落とす川には、荷物を運ぶ小舟^{ぶね}が行きかっていたし、夏になると、子どもたちが水遊びや水泳を楽しんでいた。また、小学生たちの絵や書の作品展の会場としても、この建物は多くの市民に親しまれていた。

物産陳列館

広島県の産業をすめるために建てられた展示会場。その後、産業奨励館などと、名前が何度かわわっている。



一九四五年（昭和二十年）八月六日
午前八時十五分、よく晴れた夏空が広がる朝、広島市に原子爆弾が投下された。それは、この建物にほど近い、約六百メートルの上空で爆発した。強烈な熱線と爆風が放射線とともに市街をおそった。市民の多くは一瞬のうちに生命をうばわれ、川は死者でうまるほどだった。ようやく生き残った人々も傷つき、その多くは死んでいった。

10

爆心地に近かったこの建物は、たちまち炎上し、中にいた人々は全員なくなったという。建物は、ほぼ真上からの爆風を受けたため、全焼はしたもの、れんがと鉄骨の一部は残った。丸

15

5



被爆した広島市街の様子

屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となり、この傷だらけの建物の最大の特徴を、後の時代にとどめることとなった。

原爆ドームを保存するか、それとも取りこわしてしまいか、戦後まもないころの広島では議論が続いた。保存反対論の中には、「原爆ドームを見てみると、原爆がもたらしたむごたらしいありさまを思い出すので、一刻も早く取りこわしてほしい」という意見もあった。

市民の意見が原爆ドーム保存へと固まったのは、一九六〇年（昭和三十五年）の春、急性白血病でなくなった一

少女の日記がきっかけであった。赤ちゃんだったところに原爆の放射線を浴びたその少女は、十数年たって、突然、被爆が原因とみられる病にたおれたのだった。残された日記には、あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、おそるべき原爆のことを後世にうったえかけてくれるだろう——、と書かれていた。この日記に後おしされて、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がったのである。

保存といっても、傷ついた建物だけに簡単ではない。風や雨、雪に打たれ、震動にさらされる原爆ドームには、何よりも補強工事が急がれた。このことが新聞やテレビで伝えられると、全国から保存を願う手紙や寄付が次々と広島市に届けられるようになった。その後、補強工事は何度かくり返され、今の形を保っている。

日本が一九九二年（平成四年）にユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、広島では、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった。そして、この動きは、たちまち全国へと広がっていった。この市民中心の活動は、原爆ドームが世界遺産に指定される一九九六年（平成八年）まで続いたのである。

世界遺産は、人間の歴史に大きな役割を果たした文化遺産と、地球上にある貴重な自然遺産を、未来へ向けて大切に守っていくために、ユネスコと世界の国々が調査し、

指定していく制度である。エジプトのピラミッドや、ギリシャのオリンピックア遺跡^{せき}など、すでに六百か所以上が、世界遺産として手厚く保護されている。日本では、原爆ドームより前に、姫路城^{ひめじじょう}や屋久島^{やくしま}などが選ばれている。

原爆ドームが、世界遺産の候補として審査^{しんさ}を受けることになったとき、私は、ちよっぴり不安を覚えた。それは、原爆ドームが、戦争の被害を強調する遺跡であること、そして、規模^ぼが小さいうえ、歴史も浅い遺跡であることから、はたして世界の国々によって認め^{みと}られるだろうかと思っただからであった。しかし、心配は無用だった。決定の知らせが届いたとき、私は、世界の人々の、平和を求める気持ちの強さを改めて感じたのだった。

痛ましい姿^{すがた}の原爆ドームは、原子爆弾が人間や都市にどんな惨害^{さんがい}をもたらすかを私たちに無言で告げている。未来の世界で核兵器^{かく}を二度と使ってはいけない、いや、核兵器はむしろ不必要だと、世界の人々に警告^{けい}する記念碑^ひなのである。

国連のユネスコ憲章^{けん}には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。

15

10

5

六百か所以上

一九九九年三月時点
での世界遺産登録数。

大牟田 稔

一九三〇〜二〇〇

一年。宮崎県生まれ。

新聞記者として被爆

者問題に関わった後、

広島平和文化セン

ター理事長を務めた。

この文章は、一九

九九年に書かれた。

時代をこえて伝わる古典

日本にはまだ文字がなく、たくさんのお話や歌が声によって語りつがれ、歌いつがれていた。

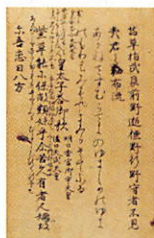
中国から漢字が伝わり、話や歌を漢字で記すようになった。

古事記 (七二二年)

日本最古の歴史書。「いなばの白うさぎ」のような神話や、地方の伝承が記されている。

万葉集 (奈良時代の末ごろ)

現存する日本最古の歌集。



10

5

日本では、いつごろ、どんな作品が作られていたのでしょうか。古典の歴史にふれてみましょう。

武士の活躍や僧侶の考え方が表れたもの、さらには、町の人々が親しみやすい作品が登場する。

平家物語

平家とよばれる武士の一族が栄え、ほろんでゆくさまが書かれた作品。作者不明。

徒然草 (一三三一年ごろ)

兼好法師によって書かれた作品。人間の生活や行動、移りゆく自然の姿について書かれている。



10



5

平仮名と片仮名が生まれ、より多くの人が、文章を読んだり書いたりできるようになる。

竹取物語

日本で初めての物語。作者不明。

枕草子（一〇〇一年）

清少納言によって書かれた作品。作者の経験にもとづいて書かれており、随筆の始まりとされる。

源氏物語（一〇〇八年ごろ）

紫式部によって書かれた作品。当時の貴族の生活や文化がえがかれた物語。



10



5

御伽草子

人々の間で流行した絵の入った短い物語。「一寸法師」や「浦島太郎」などがある。作者不明。

町人が文化の中心となる。

おくのほそ道（一六九四年）

松尾芭蕉によって書かれた作品。江戸から大垣までの旅を記した紀行文。旅での出来事や芭蕉が感じたことが、俳句を交えて、自由にえがかれている。

東海道中膝栗毛（一八〇二年）

十返舎一九によって書かれた作品。町人の生活や、その中で起こる出来事が人情味豊かにえがかれている。



15



10



5

□ ₅ 過 之 ₁₂	□ ₄ 貨 貝 ₁₁	□ ₃ 荷 + ₁₀	□ ₂ 家 + ₁₀	□ ₂ 夏 又 ₁₀	□ ₂ 科 禾 ₉	□ ₅ 河 水 ₈	□ ₄ 果 木 ₈	□ ₅ 価 人 ₈	□ ₁ 花 + ₇	□ ₂ 何 人 ₇	□ ₅ 仮 人 ₆
カ すぎる すこす あやまつ あやまち	カ	に(カ)	やい え	なつ (ゲ)カ	カ	か わ	は たす は てる	(あ)カ たい	は な	なん に	か り

□ ₄ 械 木 ₁₁	□ ₃ 界 田 ₉	□ ₂ 海 水 ₉	□ ₄ 改 文 ₇	□ ₅ 快 心 ₇	□ ₂ 会 人 ₆	□ ₆ 灰 火 ₆	□ ₂ 回 口 ₆	□ ₄ 賀 貝 ₁₂	□ ₄ 芽 + ₈	□ ₂ 画 田 ₈	□ ₆ 我 戈 ₇	□ ₄ 課 言 ₁₅	□ ₂ 歌 欠 ₁₄
カ イ	カ イ	う み	あらた まる	こ ころ よい	あ う	は い	ま わ る	ガ	め ガ	カ ク	(わ) カ	カ	う た う

□ ₆ 革 革 ₉	□ ₆ 拡 手 ₈	□ ₂ 角 角 ₇	□ ₄ 各 口 ₆	□ ₄ 街 行 ₁₂	□ ₄ 害 + ₁₀	□ ₂ 外 夕 ₅	□ ₁ 貝 貝 ₇	□ ₅ 解 角 ₁₃	□ ₃ 階 尸 ₁₂	□ ₃ 開 門 ₁₂	□ ₂ 絵 糸 ₁₂	
(か) カク	カ ク	つ か ど	(お) の お	ま ち	ガ イ	は ず す	か い	と と か す	カ イ	あ け る	ひ ら く	エ イ

□ ₅ 刊 刀 ₅	□ ₆ 干 干 ₃	□ ₆ 株 木 ₁₀	□ ₆ 割 刀 ₁₂	□ ₂ 活 水 ₉	□ ₄ 瀉 水 ₁₅	□ ₅ 額 頁 ₁₈	□ ₂ 楽 木 ₁₃	□ ₁ 学 子 ₈	□ ₅ 確 石 ₁₅	□ ₆ 閣 門 ₁₄	□ ₄ 覚 見 ₁₂	□ ₅ 格 木 ₁₀
カ ン	(ひ) ほ す	か ぶ	(さ) く	カ ツ	か た	ひ た い	た の し む	ま な ぶ	た し か め る	カ ク	さ ま す	(こ) ウ

□ ₆ 簡 竹 ₁₈	□ ₃ 館 食 ₁₆	□ ₄ 関 門 ₁₄	□ ₄ 管 竹 ₁₄	□ ₅ 慣 心 ₁₄	□ ₃ 漢 水 ₁₃	□ ₃ 感 心 ₁₃	□ ₅ 幹 干 ₁₃	□ ₂ 間 門 ₁₂	□ ₃ 寒 + ₁₂	□ ₆ 看 目 ₉	□ ₆ 卷 己 ₉	□ ₄ 官 + ₈	□ ₄ 完 + ₇
カ ン	や か た	か か わ る	く だ	な ら す	カ ン	カ ン	み き	ま い だ	カ ン	さ む い	ま き	カ ン	カ ン

□ ₂ 汽 水 ₇	□ ₄ 希 中 ₇	□ ₄ 岐 山 ₇	□ ₁ 气 气 ₆	□ ₆ 机 木 ₆	□ ₆ 危 尸 ₆	□ ₄ 願 頁 ₁₉	□ ₂ 顔 頁 ₁₈	□ ₅ 眼 目 ₁₁	□ ₂ 岩 山 ₈	□ ₃ 岸 山 ₈	□ ₂ 丸 - ₃	□ ₄ 観 見 ₁₈
キ	キ	(キ)	ケ キ	つ く え	あ ぶ な い	ね が う	か お	(ま な こ)	い わ	き し	ま る め る	カ ン

□ ₄ 旗 方 ₁₄	□ ₆ 貴 貝 ₁₂	□ ₃ 期 月 ₁₂	□ ₆ 揮 手 ₁₂	□ ₅ 喜 口 ₁₂	□ ₅ 規 見 ₁₁	□ ₅ 寄 + ₁₁	□ ₅ 基 土 ₁₁	□ ₂ 帰 中 ₁₀	□ ₃ 起 走 ₁₀	□ ₂ 記 言 ₁₀	□ ₅ 紀 糸 ₉	□ ₄ 季 子 ₈
は た	た つ と い	(ゴ) キ	キ	よ ろ こ ぶ	キ	よ せ る	(も と)	か え す	お こ す	し る す	キ	キ

□ ₆ 吸 口⑥ キユウ すう	□ ₁ 休 人⑥ キユウ やすむ やすまる やすめる	□ ₅ 旧 日⑤ キユウ	□ ₂ 弓 弓③ キユウ ゆみ (キユウ)	□ ₅ 久 ノ③ キユウ ひさしい	□ ₁ 九 乙② キユウ このつ	□ ₅ 逆 之⑨ キヤク さか さからう	□ ₃ 客 ハ⑨ キヤク (カク)	□ ₄ 議 言⑩ ギ	□ ₆ 疑 疋⑭ ギ うたがう	□ ₅ 義 羊⑬ ギ	□ ₅ 技 手⑦ ギ (わざ)	□ ₄ 機 木⑬ キ (はた)	□ ₄ 器 口⑮ キ (うつわ)
--	---	----------------------------------	---	--	---	--	--	--------------------------------	--	--------------------------------	--	--	---

□ ₅ 許 言⑪ キヨ ゆるす	□ ₄ 拳 手⑩ キヨ あがる	□ ₅ 居 尸⑧ キヨ いる	□ ₃ 去 ム⑤ キヨ さる	□ ₂ 牛 牛④ ギユウ うし	□ ₄ 給 糸⑫ キユウ	□ ₃ 球 玉⑪ キユウ たま	□ ₅ 救 文⑪ キユウ すくう	□ ₃ 宮 ハ⑩ キユウ みや (グウ)	□ ₃ 級 糸⑨ キユウ	□ ₃ 急 心⑨ キユウ いそぐ	□ ₄ 泣 水⑧ キユウ なく (キユウ)	□ ₃ 究 穴⑦ キユウ きわめる	□ ₄ 求 水⑦ キユウ もどめる
--	--	---------------------------------------	---------------------------------------	--	----------------------------------	--	---	--	----------------------------------	---	---	--	--

□ ₃ 橋 木⑬ キヨウ はし	□ ₅ 境 土⑭ キヨウ さかい (ケイ)	□ ₆ 郷 尸⑪ キヨウ (ゴウ)	□ ₂ 教 文⑩ キヨウ おしえる (しいる)	□ ₂ 強 弓⑪ キヨウ つよい つよまる	□ ₆ 胸 肉⑩ キヨウ むね (むな)	□ ₄ 協 十⑧ キヨウ	□ ₆ 供 人⑧ キヨウ とも そなえる	□ ₂ 京 ハ⑧ キヨウ (ケイ)	□ ₄ 共 ハ⑥ キヨウ とも	□ ₄ 漁 水⑭ ギヨ リヨウ	□ ₂ 魚 魚⑪ ギヨ うお さかな
--	---	--	---	---	--	----------------------------------	--	--	--	--	--

□ ₆ 筋 竹⑫ キン すじ	□ ₆ 勤 力⑫ キン つとめる (ゴン)	□ ₁ 金 金⑧ キン かね	□ ₂ 近 之⑦ キン ちかい	□ ₅ 均 土⑦ キン キン	□ ₁ 玉 玉⑤ ギヨク たま (きわまる)	□ ₄ 極 木⑫ キヨク (ゴク)	□ ₃ 局 尸⑦ キヨク	□ ₃ 曲 目⑥ キヨク まがる	□ ₃ 業 木⑬ ギヨウ (わざ)	□ ₄ 競 立⑫ キヨウ (きそう)	□ ₄ 鏡 金⑯ キヨウ かがみ
---------------------------------------	---	---------------------------------------	--	---------------------------------------	--	--	----------------------------------	---	--	---	---

□ ₄ 郡 尸⑩ グン	□ ₄ 軍 車⑨ グン	□ ₄ 訓 言⑩ グン	□ ₃ 君 口⑦ グン きみ	□ ₄ 熊 ハ⑭ グン くま	□ ₁ 空 穴⑧ グ あける あく そら	□ ₃ 具 ハ⑧ グ にが にが くるしむ くるしい	□ ₃ 苦 ハ⑧ ク くるしい	□ ₅ 句 口⑤ ク く	□ ₃ 区 口④ ク	□ ₃ 銀 金⑭ ギン	□ ₅ 禁 示⑬ キン
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---	--	--	-------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□ ₃ 軽 車⑫ ケイ かる (かる)	□ ₄ 景 日⑫ ケイ	□ ₆ 敬 文⑫ ケイ うやまう	□ ₅ 経 糸⑪ ケイ へる (キヨウ)	□ ₂ 計 言⑨ ケイ はかる (はからう)	□ ₅ 型 土⑨ ケイ かた	□ ₃ 係 人⑨ ケイ かか かか	□ ₄ 径 イ⑧ ケイ	□ ₆ 系 糸⑦ ケイ	□ ₂ 形 ミ⑦ ケイ かた かた	□ ₂ 兄 ル⑤ ケイ あに (ケイ)	□ ₄ 群 羊⑬ グン むれる むれる
---	---------------------------------	---	--	--	---------------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	---	---	---

□ ₅ 件 人⑥ ケン	□ ₁ 犬 犬④ ケン いぬ	□ ₁ 月 月④ ゲツ つき	□ ₅ 潔 水⑮ ケツ いさぎよい	□ ₄ 結 糸⑫ ケツ むすぶ (ゆわ)	□ ₃ 決 水⑦ ケツ きめる	□ ₃ 血 血⑥ ケツ ち	□ ₆ 穴 穴⑤ ケツ あな	□ ₄ 欠 欠④ ケツ か か	□ ₆ 激 水⑮ ゲキ はげしい	□ ₆ 劇 刀⑮ ゲキ	□ ₄ 芸 ハ⑦ ゲイ	□ ₆ 警 言⑯ ケイ
---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	--	--	--------------------------------------	---------------------------------------	---	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□ ₂ 元 ル④ もトゲン	□ ₄ 験 馬⑱ (ケン)	□ ₆ 憲 心⑱ ケン	□ ₆ 権 木⑱ (ケン)	□ ₆ 絹 糸⑱ (ケン)	□ ₅ 検 木⑱ ケン	□ ₅ 険 険⑱ ケン	□ ₄ 健 人⑱ (ケン)	□ ₃ 梟 目⑱ ケン	□ ₃ 研 石⑱ (ケン)	□ ₄ 建 又⑱ (ケン)	□ ₆ 券 刀⑱ ケン	□ ₁ 見 見⑱ ケン
-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□ ₆ 呼 口⑱ よコ	□ ₂ 古 口⑱ コ	□ ₂ 戸 戸⑱ とコ	□ ₆ 己 己⑱ (おのれ)	□ ₆ 巖 岩⑱ (おんそか)	□ ₆ 源 水⑱ ゲン	□ ₅ 減 水⑱ (へる)	□ ₅ 現 玉⑱ (あらわされる)	□ ₂ 原 原⑱ はら	□ ₅ 限 限⑱ かぎる	□ ₂ 言 言⑱ こと
---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------

□ ₂ 工 工⑱ クコウ	□ ₁ 口 口⑱ クコウ	□ ₅ 護 言⑱ ゴ	□ ₆ 誤 言⑱ あやまる	□ ₂ 語 言⑱ かたる	□ ₂ 後 後⑱ ゴ	□ ₁ 五 五⑱ ゴ	□ ₃ 湖 水⑱ みずうみ	□ ₃ 庫 庫⑱ (ク)	□ ₅ 個 人⑱ コ	□ ₅ 故 故⑱ (ゆえ)	□ ₄ 固 固⑱ かたまる
----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

□ ₂ 考 考⑱ かんがえる	□ ₄ 好 女⑱ すこのむ	□ ₆ 后 后⑱ コウ	□ ₃ 向 向⑱ むく	□ ₂ 光 光⑱ ひかり	□ ₂ 交 交⑱ (かう)	□ ₂ 交 交⑱ まじる	□ ₂ 交 交⑱ まじる	□ ₂ 交 交⑱ まじる	□ ₂ 交 交⑱ まじる	□ ₂ 交 交⑱ まじる	□ ₄ 功 功⑱ (ク)	□ ₂ 公 公⑱ (おおやけ)
------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------

□ ₅ 航 舟⑱ コウ	□ ₅ 耕 耕⑱ たがやす	□ ₁ 校 木⑱ コウ	□ ₄ 候 人⑱ (そうろう)	□ ₄ 香 香⑱ かおる	□ ₄ 香 香⑱ (キヨウ)	□ ₆ 紅 系⑱ (べに)	□ ₆ 皇 白⑱ オウ	□ ₅ 厚 厚⑱ あつい	□ ₃ 幸 千⑱ さいわい	□ ₅ 効 力⑱ きく	□ ₆ 孝 子⑱ コウ	□ ₂ 行 行⑱ ギョウ
---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------

□ ₃ 号 号⑱ ゴウ	□ ₅ 講 言⑱ コウ	□ ₆ 鋼 金⑱ (はがね)	□ ₅ 興 白⑱ (おこる)	□ ₅ 構 木⑱ かまう	□ ₅ 鉦 金⑱ コウ	□ ₃ 港 水⑱ みなと	□ ₂ 黄 黄⑱ (コウ)	□ ₄ 康 康⑱ コウ	□ ₂ 高 高⑱ たか	□ ₆ 降 降⑱ ふる
---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□ ₅ 混 水⑱ まざる	□ ₃ 根 木⑱ ね	□ ₆ 困 困⑱ こまる	□ ₂ 今 人⑱ いま	□ ₆ 骨 骨⑱ ほね	□ ₆ 穀 禾⑱ コク	□ ₂ 黒 黒⑱ くろ	□ ₂ 国 国⑱ くに	□ ₆ 刻 刀⑱ きざむ	□ ₂ 谷 谷⑱ たに	□ ₅ 告 告⑱ つげる	□ ₂ 合 合⑱ あわせる
----------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------

さ

3 祭 示⑪ まつり サイ
 6 济 水⑪ すみ サイ
 5 採 手⑪ とる サイ
 5 妻 女⑧ つま サイ
 5 災 火⑦ (わざわい) サイ
 5 再 口⑥ ふたたび サイ
 2 才 手③ サイ
 6 座 戸⑩ (すわる) サイ
 4 差 エ⑩ さす サイ
 6 砂 石④ すな (シヤ) サイ
 5 查 木④ サ サイ
 4 佐 人⑦ サ サイ
 1 左 エ⑤ ひだり サイ

6 策 竹⑫ サク
 4 昨 日④ サク
 2 作 人⑦ つくる サク
 4 崎 山⑪ さき サイ
 5 罪 四⑬ つみ ギイ
 5 財 貝⑩ (サイ) ギイ
 4 材 木⑦ ギイ
 5 在 土⑥ ある ギイ
 4 埼 土⑪ さい ギイ
 5 際 フ⑭ (きわ) ギイ
 6 裁 衣⑫ (たつ) サイ
 4 最 日⑫ もっとも サイ
 4 菜 ナ サイ
 2 細 糸⑪ (ほそ) サイ

4 散 文⑫ ちらかる サン
 4 産 生⑪ (うむ) サン
 6 蚕 虫⑩ かいこ サン
 4 参 ム⑧ まいる サン
 1 山 山③ やま サン
 1 三 一③ (み) サン
 3 皿 皿⑤ さら サン
 5 雑 佳⑭ ゾウツ サツ
 4 察 ム⑭ サツ
 5 殺 皮⑩ (セツ) サツ
 4 刷 刀⑧ する サツ
 4 札 木⑤ ふだ サツ
 6 冊 口⑤ (サク) サツ

4 司 口⑤ シ
 5 史 口⑤ シ
 3 仕 人⑤ (シ) シ
 4 氏 氏④ (うじ) シ
 2 止 止④ (とまる) シ
 5 支 支④ ささえる シ
 1 子 子③ こスシ
 5 士 士③ シ
 4 残 夕⑩ (のこす) ザン
 5 贖 貝⑮ サン
 5 酸 酉⑭ (すい) サン
 2 算 竹⑭ サン

2 思 心⑨ おもう シ
 6 姿 女⑨ すがた シ
 5 枝 木⑧ えだ (シ) シ
 2 姉 女⑧ あね (シ) シ
 3 始 女⑧ はじめる シ
 3 使 人⑧ つかう シ
 6 私 禾⑦ わたくし シ
 5 志 心⑦ (こころざし) シ
 6 至 至⑥ いたる シ
 1 糸 糸⑥ いと シ
 3 死 夕⑥ しぬ シ
 2 矢 矢⑤ や (シ) シ
 2 市 巾⑤ いち シ
 1 四 口⑤ よん (よつ) シ

2 寺 寸⑥ てら ジ
 1 字 子⑥ (あじ) ジ
 5 示 示⑤ しめす (シ) ジ
 6 誌 言⑭ シ
 5 飼 食⑬ かう シ
 5 資 貝⑬ シ
 3 詩 言⑬ シ
 4 試 言⑬ (ためす) シ
 3 齒 齒⑫ はシ
 6 詞 言⑫ シ
 6 視 見⑪ シ
 2 紙 糸⑩ かみ シ
 5 師 巾⑩ シ
 3 指 手④ さすび (ゆ) シ

4 鹿 鹿⑪ かしか
 6 磁 石⑭ ジ
 4 辞 辛⑬ (やめる) ジ
 4 滋 水⑫ (ジ) ジ
 2 時 日⑩ ととき ジ
 3 持 手⑨ もつ ジ
 4 治 水⑧ (おさめる) チジ
 3 事 一⑧ (ズ) ジ
 4 兎 九⑦ (ニ) ジ
 5 似 人⑦ (に) ジ
 2 自 自⑥ みずから シジ
 1 耳 耳⑥ みみ (ジ) シ
 3 次 欠⑥ つぎ (ジ) シ

□ ₂ 場 土⑫ ば ジヨウ ウ	□ ₅ 情 心⑪ な ぎ け (セイ) ジヨウ ウ	□ ₅ 常 巾⑪ (トコ) つ ね ジヨウ ウ	□ ₄ 城 土⑨ しろ ジヨウ ウ	□ ₃ 乗 ノ⑨ の せる ジヨウ ウ	□ ₅ 状 犬⑦ ジヨウ ウ	□ ₅ 条 木⑦ ジヨウ ウ	□ ₁ 上 一③ ジヨウ ウ	□ ₅ 賞 貝⑮ ジヨウ ウ	□ ₆ 障 障⑭ (さわ る) ジヨウ ウ	□ ₄ 照 火⑬ てる てる て らす て れる ジヨウ ウ
--	--	---	---	--	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	---

□ ₄ 信 人⑨ シン	□ ₃ 身 身⑦ み シン	□ ₄ 臣 臣⑦ ジン	□ ₃ 申 田⑤ も う す (シン) シン	□ ₂ 心 心④ こ ころ シン	□ ₅ 職 耳⑮ シヨク	□ ₅ 織 糸⑮ お る シキ (シヨク)	□ ₃ 植 木⑫ う え る う わ る シヨク	□ ₂ 食 食⑨ た べ る く ら う (ジキ)	□ ₂ 色 色⑥ いろ シキ	□ ₄ 縄 糸⑮ な わ シヨウ ウ	□ ₆ 蒸 +⑮ シヨウ ウ む ら す む ら す む ら す
---------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--	--	----------------------------------	--	--	---	---------------------------------------	---	--

□ ₂ 図 □ ₇ (は か る) ト ズ	□ ₆ 仁 人④ ニ ジン	□ ₁ 人 人② ヒ ト ジン	□ ₂ 親 見⑮ お や し た し む シン	□ ₂ 新 斤⑬ あ た ら し い シン	□ ₁ 森 木⑫ も り シン	□ ₃ 進 之⑪ すす む シン	□ ₃ 深 水⑪ ふ か い ふ か め る シン	□ ₆ 針 金⑩ は り シン	□ ₃ 真 目⑩ ま シン	□ ₃ 神 示⑨ シ ン
--	--------------------------------------	---	---	--	---	--	--	---	--------------------------------------	-------------------------------------

□ ₁ 生 生⑤ な ま セイ	□ ₁ 正 止⑤ た だ し シヨウ	□ ₃ 世 一⑤ よ セイ	□ ₄ 井 二④ い シヨウ	□ ₆ 寸 寸③ ス ン	□ ₂ 数 文⑬ か ぞ え る スウ	□ ₆ 推 手⑪ お す スイ	□ ₆ 垂 土⑧ た れ る スイ	□ ₁ 水 水④ み ず スイ
---	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---	---	--	---

□ ₄ 清 水⑪ き よ め る セイ	□ ₄ 省 目⑨ は ぶ く シヨウ	□ ₂ 星 日⑨ ほ し シヨウ	□ ₅ 政 文⑨ ま つ り シヨウ	□ ₁ 青 青⑧ あ お い シヨウ	□ ₅ 性 心⑧ シヨウ	□ ₅ 制 刀⑧ セイ	□ ₂ 声 士⑦ こ え シヨウ	□ ₂ 西 西⑥ に し サイ	□ ₄ 成 戈⑥ な る シヨウ
---	---	--	---	---	----------------------------------	---------------------------------	--	---	--

□ ₁ 石 石⑤ い し セキ	□ ₁ 夕 夕③ ゆ う セキ	□ ₅ 税 禾⑫ セイ	□ ₃ 整 文⑮ ど の と の う セイ	□ ₄ 静 青⑭ し ず か し ず め る シヨウ	□ ₅ 製 衣⑭ セイ	□ ₅ 精 米⑭ シヨウ	□ ₆ 誠 言⑬ ま こと セイ	□ ₆ 聖 耳⑬ セイ	□ ₅ 勢 力⑬ い き お い セイ	□ ₂ 晴 日⑫ は れ る セイ	□ ₆ 盛 皿⑪ も る シヨウ
---	---	---------------------------------	--	---	---------------------------------	----------------------------------	--	---------------------------------	---	--	--

□ ₄ 節 竹⑬ ふ し セツ	□ ₂ 雪 雨⑪ ゆ き セツ	□ ₅ 設 言⑪ も う け る セツ	□ ₅ 接 手⑪ つ ぐ セツ	□ ₄ 折 手⑦ お り お る セツ	□ ₂ 切 刀④ き る サイ	□ ₅ 績 糸⑮ セキ	□ ₄ 積 禾⑮ つ も る セキ	□ ₅ 責 貝⑪ せ め る セキ	□ ₄ 席 巾⑩ セキ	□ ₃ 昔 日⑧ む か し セキ	□ ₁ 赤 赤⑦ あ か い あ か ら め る セキ
---	---	---	---	---	---	---------------------------------	--	--	---------------------------------	--	---

□ ₂ 船 舟⑪ ふな セ	□ ₆ 染 木④ そめる しみる しみ	□ ₆ 洗 水⑨ あらう セン	□ ₄ 浅 水⑨ あさい セン	□ ₆ 泉 水④ いずみ セン	□ ₆ 専 寸④ もっぱら セン	□ ₆ 宣 ハ④ セン	□ ₁ 先 ル⑥ さき セン	□ ₁ 川 川③ かわ セン	□ ₁ 千 十③ ち セン	□ ₅ 絶 糸⑫ たやす たえる ゼ	□ ₆ 舌 舌⑥ した ゼ	□ ₄ 説 言⑭ とく ゼ
--------------------------------------	---	--	--	--	---	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--	--------------------------------------	--------------------------------------

□ ₄ 争 ！⑥ あら ソ	□ ₁ 早 日⑥ はやい はやまる はやめる ハ	□ ₂ 組 糸⑪ くむ ソ	□ ₅ 素 糸⑩ ス ソ	□ ₅ 祖 示⑨ ソ	そ	□ ₄ 然 火⑫ ネ	□ ₆ 善 口⑫ よい ゼ	□ ₂ 前 刀⑨ まえ ゼ	□ ₃ 全 人⑥ まったく ゼ	□ ₄ 選 之⑮ えらぶ ゼ	□ ₂ 線 糸⑮ セン	□ ₆ 銭 金⑭ ぜに ゼ	□ ₄ 戦 戈⑬ たたかう セ
--------------------------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	---	--------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--

□ ₅ 造 之⑩ つく ソ	□ ₆ 操 手⑯ あやつる ソ	□ ₅ 総 糸⑭ ソ	□ ₆ 層 戸⑭ ソ	□ ₃ 想 心⑬ ソ	□ ₆ 装 衣⑫ よそお ソ	□ ₆ 創 刀⑫ つく ソ	□ ₆ 窓 穴⑪ まど ソ	□ ₄ 巢 …⑪ す ソ	□ ₄ 倉 人⑩ くら ソ	□ ₃ 送 之⑨ おく ソ	□ ₁ 草 …⑨ くさ ソ	□ ₃ 相 目⑨ あい ソ	□ ₆ 奏 大⑨ かなでる ソ	□ ₂ 走 走⑦ はし ソ
--------------------------------------	--	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--	--------------------------------------

□ ₅ 属 戸⑫ ゾ	□ ₃ 族 方⑪ ゾ	□ ₅ 測 水⑫ はかる ソ	□ ₄ 側 人⑪ がわ ソ	□ ₃ 速 之⑩ はやい はやまる はやく ソ	□ ₃ 息 心⑩ いき ソ	□ ₅ 則 刀⑨ ソ	□ ₁ 足 足⑦ あし ソ	□ ₄ 束 木⑦ たば ソ	□ ₆ 臓 肉⑯ ソ	□ ₆ 蔵 …⑮ くら ソ	□ ₅ 増 土⑭ ふやす ます ソ	□ ₅ 像 人⑭ ゾ
--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--	--------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------------

□ ₂ 太 大④ ふと ソ	□ ₃ 打 手⑤ うつ ソ	□ ₂ 多 タ⑥ おおい ソ	□ ₃ 他 人⑤ ほか ソ	た	□ ₅ 損 手⑬ そこな ソ	□ ₆ 尊 寸⑫ たつと ソ	□ ₄ 孫 子⑩ まこ ソ	□ ₁ 村 木⑦ むら ソ	□ ₆ 存 子⑥ ソン	□ ₅ 率 玄⑪ ひき ソ	□ ₄ 卒 十⑧ ソ	□ ₄ 続 糸⑬ つづく ソ
--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------

□ ₃ 第 竹⑪ ダイ	□ ₂ 台 口⑤ ダイ	□ ₃ 代 人⑤ おおい ソ	□ ₁ 大 大③ ダイ	□ ₅ 態 心⑭ タイ	□ ₄ 隊 F⑫ タイ	□ ₅ 貸 貝⑫ かす ソ	□ ₄ 带 巾⑩ おび ソ	□ ₆ 退 之⑨ しりぞ ソ	□ ₃ 待 イ⑨ まつ ソ	□ ₂ 体 人⑦ からだ ソ	□ ₃ 对 寸⑦ ツイ ソ
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------

□ ₅ 断 斤⑪ ことわ ソ	□ ₆ 段 段⑨ ダン	□ ₁ 男 田⑦ おとこ ソ	□ ₅ 团 口⑥ ダン	□ ₆ 誕 言⑮ タン	□ ₃ 短 矢⑫ みじか ソ	□ ₆ 探 手⑪ さがす ソ	□ ₃ 炭 火⑨ すみ ソ	□ ₄ 单 …⑨ タン	□ ₆ 担 手⑧ かたぐ ソ	□ ₄ 達 之⑫ タツ	□ ₆ 宅 ハ⑥ タク	□ ₃ 題 頁⑮ ダイ
---------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□1 中 ④ なか チュウ	□3 着 羊⑫ チュウ	□2 茶 茶⑨ チュウ	□5 築 竹⑬ チュウ	□1 竹 竹⑬ チュウ	□4 置 置⑬ チュウ	□6 値 人⑩ チュウ	□2 知 矢⑧ チュウ	□2 池 水⑥ チュウ	□2 地 土⑥ チュウ	ち	□3 談 言⑮ ダン	□6 暖 日⑬ ダン
---------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---	---------------------	---------------------

□2 長 長⑧ なが チュウ	□1 町 田⑦ まち チュウ	□4 兆 兆⑥ チュウ	□6 庁 庁⑤ チュウ	□3 丁 一② チュウ	□5 貯 貝⑫ チュウ	□6 著 著⑪ チュウ	□3 柱 木⑨ チュウ	□2 昼 日⑨ チュウ	□3 注 水⑧ チュウ	□6 忠 心⑧ チュウ	□4 宙 宙⑧ チュウ	□1 虫 虫⑥ チュウ	□4 仲 人⑥ チュウ
----------------------------	----------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

□3 追 追⑨ お ツイ	つ	□6 賃 貝⑬ チン	□2 直 目⑧ チヨク	□3 調 言⑮ チヨウ	□6 潮 水⑮ チヨウ	□6 腸 肉⑬ チヨウ	□2 朝 月⑫ チヨウ	□2 鳥 鳥⑪ チヨウ	□6 頂 頁⑪ チヨウ	□5 張 弓⑪ チヨウ	□3 帳 巾⑪ チヨウ
--------------------------	---	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

□4 的 白⑧ ま テキ	□5 程 禾⑫ テイ	□5 提 手⑫ テイ	□5 停 人⑪ テイ	□3 庭 戸⑩ テイ	□4 底 戸⑧ テイ	□3 定 定⑧ テイ	□2 弟 弓⑦ テイ	□4 低 人⑦ テイ	て	□6 痛 戸⑫ ツイ	□2 通 通⑩ ツイ
--------------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---	---------------------	---------------------

□2 電 雨⑬ デン	□4 伝 人⑥ デン	□1 田 田⑤ デン	□3 転 車⑪ テン	□6 展 戸⑩ テン	□2 点 火⑨ テン	□2 店 戸⑧ テン	□4 典 戸⑧ テン	□1 天 大④ テン	□3 鉄 金⑬ テツ	□6 敵 文⑮ テキ	□5 適 之⑭ テキ	□3 笛 竹⑪ テキ
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------

□3 鳥 山⑩ トウ	□2 東 木⑧ トウ	□3 豆 豆⑦ トウ	□3 投 手⑦ トウ	□2 当 小⑥ トウ	□4 灯 火⑥ トウ	□2 冬 又⑤ トウ	□2 刀 刀② トウ	□3 度 戸⑨ トウ	□4 努 力⑦ トウ	□1 土 土③ トウ	□3 都 下⑪ トウ	□4 徒 人⑩ トウ	と
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---

□3 童 立⑫ ドウ	□5 堂 土⑪ ドウ	□3 動 力⑪ ドウ	□2 同 口⑥ ドウ	□2 頭 頁⑬ トウ	□6 糖 米⑬ トウ	□5 統 糸⑫ トウ	□3 等 竹⑫ トウ	□2 答 竹⑫ トウ	□3 登 入⑫ トウ	□3 湯 水⑫ トウ	□6 党 ル⑩ トウ	□6 討 言⑩ トウ
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------

□4 奈 犬⑧ ナ	な	□6 届 尸⑧ トド とどける とどく	□4 栃 木⑨ トチ	□2 読 言⑭ トク よむ	□5 独 犬⑨ ドク ひとり	□5 毒 母⑧ ドク	□4 徳 イ⑭ トク	□5 得 イ⑪ トク うる	□4 特 牛⑩ トク	□5 導 寸⑮ ドウ みちびく	□5 銅 金⑭ ドウ	□4 働 人⑬ ドウ はたらく	□2 道 ミ⑫ ドウ みち
--------------------	---	------------------------------------	---------------------	---------------------------	----------------------------	---------------------	---------------------	---------------------------	---------------------	-----------------------------	---------------------	-----------------------------	---------------------------

□6 認 言⑭ ニン みとめる	□5 任 人⑥ ニン まかせる まかす	□6 乳 乙⑧ ニウ ちち	□1 入 入② ニウ いれる はいる	□1 日 日④ ジツ かひ	□2 肉 肉⑥ ニク	□1 二 ニ② ニ ふたつ	に	□6 難 佳⑧ ナン むずかしい	□2 南 十⑨ ナン みなみ	□4 梨 木⑪ なし	□2 内 口④ ナイ うち
-----------------------------	------------------------------------	---------------------------	-----------------------------------	---------------------------	---------------------	---------------------------	---	------------------------------	----------------------------	---------------------	---------------------------

□6 派 水⑨ ハ	□3 波 水⑧ ハ なみ	は	□3 農 辰⑬ ノウ	□6 脳 肉⑪ ノウ	□5 能 肉⑩ ノウ	□6 納 糸⑩ ノウ おさめる おさまる タウ ナツ	の	□5 燃 火⑯ ネン もやす もやす	□4 念 心⑧ ネン	□1 年 千⑥ ネン とし	□4 熱 火⑮ ネツ あつい	ね
--------------------	--------------------------	---	---------------------	---------------------	---------------------	---	---	-----------------------------------	---------------------	---------------------------	----------------------------	---

□1 白 白⑤ ハク しろ しろい	□2 買 貝⑫ バイ かう	□4 梅 木⑩ バイ うめ	□3 倍 人⑩ バイ うれる	□2 売 士⑦ バイ うれる	□4 敗 文⑪ バイ やぶれる	□3 配 百⑩ バイ くばる	□6 俳 人⑩ ハイ	□6 肺 肉⑨ ハイ	□6 背 肉⑨ ハイ せい そむける	□6 拝 手⑧ ハイ おがむ	□2 馬 馬⑩ ウマ	□5 破 石⑩ ハ やぶれる
----------------------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------	---------------------	-----------------------------------	----------------------------	---------------------	----------------------------

□3 板 木⑧ イタ ハ	□4 阪 フ⑦ ハン	□3 坂 土⑦ ハン さか	□5 判 刀⑦ ハン はん	□5 犯 犬⑤ ハン おかす	□2 半 十⑤ ハン なかば	□3 反 又④ ハン そらす	□3 発 又④ ハツ はつ	□1 八 八② ハチ やう やう やう	□3 畑 田⑨ ハタ はたけ	□3 箱 竹⑮ ハコ はこ	□2 麦 麦⑦ バク むぎ	□4 博 十⑫ ハク はく
--------------------------	---------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

□6 秘 禾⑩ ヒ ひめる	□4 飛 飛⑨ ヒ とぶ とばす	□5 非 非⑧ ヒ	□5 肥 肉⑧ ヒ こえる こやす こやし	□6 批 手⑦ ヒ	□6 否 口⑦ ヒ いな	□3 皮 皮⑤ カ かわ	□5 比 比④ ヒ くらべる	ひ	□2 番 田⑫ バン ばん	□6 晚 日⑫ バン ばん	□4 飯 食⑫ ハン めし	□6 班 玉⑩ ハン はん	□5 版 片⑧ ハン はん
---------------------------	---------------------------------	--------------------	---	--------------------	--------------------------	--------------------------	----------------------------	---	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

□4 標 木⑮ ヒョウ	□5 評 言⑫ ヒョウ	□4 票 示⑪ ヒョウ	□6 俵 人⑩ ヒョウ たわら	□3 表 衣⑧ ヒョウ おもて あらわす	□3 氷 水⑤ ヒョウ こおり	□1 百 白⑥ ヒャク	□3 筆 竹⑫ ヒツ ふで	□4 必 心⑤ ヒツ かならず	□3 鼻 鼻⑭ ヒ はな	□5 備 人⑫ ビ そなえる そなわる	□3 美 羊⑨ ビ うつくしい	□5 費 貝⑫ ヒ ついでる	□3 悲 心⑫ ヒ かなしい かなしむ
----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------------	-------------------------------------	-----------------------------	----------------------	---------------------------	-----------------------------	--------------------------	------------------------------------	-----------------------------	----------------------------	------------------------------------

□ ₃ 負 貝⑨ まける おまかす	□ ₄ 阜 阜⑧ フ	□ ₄ 府 府⑧ フ	□ ₅ 布 巾⑤ ぬの	□ ₄ 付 人⑤ つける	□ ₂ 父 父④ ちち	□ ₄ 夫 大④ おつと	□ ₄ 不 一④ フフ	ふ	□ ₅ 貧 貝⑪ まししい	□ ₃ 品 口⑨ しな	□ ₃ 病 疢⑩ やまい	□ ₃ 秒 禾⑨ ビヨウ
--	--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------

□ ₅ 粉 米⑩ こな	□ ₃ 物 牛⑧ もの	□ ₅ 仏 人④ ほとけ	□ ₅ 複 衣⑭ フク	□ ₆ 腹 肉⑬ はら	□ ₃ 福 示⑬ フク	□ ₅ 復 彳⑫ フク	□ ₄ 副 刀⑪ フク	□ ₃ 服 月⑧ フク	□ ₂ 風 風⑨ かぜ	□ ₃ 部 冫⑪ フ	□ ₅ 武 止⑧ ムブ	□ ₄ 富 宀⑫ とみ	□ ₅ 婦 女⑪ フ
---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------

□ ₆ 閉 門⑪ しめる	□ ₆ 陛 冫⑩ へい	□ ₆ 並 一⑧ ならびに	□ ₄ 兵 八⑦ へい	□ ₃ 平 干⑤ ひら	へ	□ ₂ 聞 耳⑭ きこえる	□ ₁ 文 文④ ふみ	□ ₂ 分 刀④ ぶん	□ ₆ 奮 大⑬ ふるう
----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------

□ ₅ 保 人⑨ たもつ	□ ₂ 步 止⑧ あゆむ	ほ	□ ₃ 勉 力⑩ べん	□ ₄ 便 人⑨ たより	□ ₅ 弁 卩⑤ べん	□ ₅ 編 糸⑮ あむ	□ ₄ 变 又⑨ かえる	□ ₃ 返 辶⑦ かえす	□ ₄ 辺 辶⑤ あたり	□ ₆ 片 片④ かた	□ ₄ 别 刀⑦ べつ	□ ₂ 米 米⑥ こめ
----------------------------------	----------------------------------	---	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

□ ₆ 亡 一③ な	□ ₅ 豊 豆⑬ ゆたか	□ ₅ 報 土⑫ むくい	□ ₆ 訪 言⑪ たずねる	□ ₄ 法 水⑧ はつ	□ ₃ 放 攴⑧ はなす	□ ₆ 宝 宀⑧ たから	□ ₄ 包 勹⑤ つつむ	□ ₂ 方 方④ かた	□ ₆ 暮 日⑭ くろ	□ ₅ 墓 土⑬ はか	□ ₂ 母 母⑤ はは	□ ₆ 補 衣⑫ おぎなう
--------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------

□ ₆ 枚 木⑧ まい	□ ₂ 妹 女⑧ いもうと	□ ₂ 每 母⑥ まい	ま	□ ₁ 本 木⑤ もと	□ ₄ 牧 牛⑧ まき	□ ₁ 木 木④ こき	□ ₂ 北 匕⑤ きた	□ ₅ 暴 日⑮ あばく	□ ₅ 貿 貝⑫ ポウ	□ ₆ 棒 木⑫ ポウ	□ ₄ 望 月⑪ のぞむ	□ ₅ 防 冫⑦ ふせぐ	□ ₆ 忘 心⑦ わすれる
---------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------

□ ₅ 夢 夕⑬ ゆめ	□ ₄ 無 火⑫ ない	□ ₅ 務 力⑪ つとめる	む	□ ₄ 民 氏⑤ たみ	□ ₅ 脈 肉⑩ ミヤク	□ ₆ 密 宀⑪ ミツ	□ ₃ 味 口⑧ あじわう	□ ₄ 未 木⑤ ミ	み	□ ₄ 満 水⑫ みちる	□ ₂ 万 一③ マン	□ ₄ 末 木⑤ すえ	□ ₆ 幕 巾⑬ マク
---------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	---	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------	---	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

め

□ ₅ 綿 糸⑭ わた メン	□ ₃ 面 面⑨ （おもて） （おもと） メン	□ ₂ 鳴 鳥⑭ （な） なく メイ	□ ₆ 盟 皿⑬ メイ	□ ₅ 迷 迷⑨ （メイ） まよう	□ ₂ 明 日⑧ メイ あかり あかる あける あきらか あからむ あかるい	□ ₃ 命 口⑧ （メイ） いのち ミヨウ	□ ₁ 名 口⑥ メイ な ミヨウ
---------------------------------------	---	--	---------------------------------	--	--	---	---

も

□ ₃ 葉 +⑬ くすり ヤク	□ ₆ 訳 言⑪ わけ ヤク	□ ₄ 約 糸⑨ ヤク	□ ₃ 役 イ⑦ （ヤク） エキ	□ ₂ 野 里⑪ のヤ	□ ₂ 夜 夕⑧ よる	□ ₃ 問 口⑪ （モ） もん とん どう とい	□ ₂ 門 門⑧ （モ） もん	□ ₁ 目 目⑤ （モ） め モク	□ ₂ 毛 毛④ け モウ	□ ₆ 模 木⑭ ボモ
--	---------------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	--	--	---	--------------------------------------	---------------------------------

ゆ

□ ₅ 余 人⑦ あまる ヨ	□ ₃ 予 イ④ ヨ	□ ₆ 優 人⑭ （ユウ） やさしい すぐれる ユウ	□ ₃ 遊 之⑫ （ユウ） あそぶ ユウ	□ ₆ 郵 下⑪ ユウ	□ ₄ 勇 力⑨ いさむ ユウ	□ ₃ 有 月⑥ （ユウ） ある ユウ	□ ₂ 友 又④ とも ユウ	□ ₅ 輸 車⑬ ユ	□ ₃ 油 水⑧ あぶら ユ	□ ₃ 由 田⑤ （ユウ） （ユイ） よし ユウ
---------------------------------------	--------------------------------	---	--	---------------------------------	--	---	---------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	---

ゆ

□ ₆ 翌 羽⑪ ヨク	□ ₆ 欲 欠⑪ （ヨク） ほっする （ほしい） ヨク	□ ₄ 浴 水⑩ （ヨク） あびる あびせる ヨク	□ ₂ 曜 日⑧ ヨウ	□ ₄ 養 食⑮ （ヨウ） やしなう ヨウ	□ ₃ 様 木⑭ さま ヨウ	□ ₃ 陽 下⑫ ヨウ	□ ₃ 葉 +⑫ は ヨウ	□ ₅ 容 +⑩ ヨウ	□ ₄ 要 西⑨ （ヨウ） かなめ いる ヨウ	□ ₃ 洋 水⑨ ヨウ	□ ₃ 羊 羊⑥ ひつじ ヨウ	□ ₂ 用 用⑤ もちいる ヨウ	□ ₆ 幼 糸⑤ （ヨウ） おさない ヨウ	□ ₆ 預 頁⑬ （ヨウ） あずかる あずける ヨウ
---------------------------------	--	--	---------------------------------	---	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--	---------------------------------	--	---	---	---

ら

□ ₆ 律 イ⑨ （リツ） リツ	□ ₁ 立 立⑤ （リツ） たつ （立つ） リツ	□ ₄ 陸 下⑪ リク	□ ₆ 裏 衣⑬ （リ） うら リ	□ ₂ 理 五⑪ リ	□ ₂ 里 里⑦ さと リ	□ ₄ 利 刀⑦ （リ） き リ	□ ₆ 覧 見⑭ ラン	□ ₆ 卵 下⑦ （ラン） たまご ラン	□ ₆ 乱 乙⑦ （ラン） みだれる みだす ラン	□ ₃ 落 +⑫ （ラク） おちる おとす ラク	□ ₂ 来 木⑦ （ライ） くる きたる （きたす） ライ
---	---	---------------------------------	---	--------------------------------	--------------------------------------	--	---------------------------------	--	--	---	---

る

□ ₆ 臨 臣⑮ （リン） のぞむ リン	□ ₄ 輪 車⑮ リン	□ ₁ 林 木⑧ （リン） はやし リン	□ ₃ 緑 糸⑭ （ロク） みどり リョク	□ ₁ 力 力② （リキ） ちから リキョク	□ ₅ 領 頁⑭ リョウ	□ ₄ 量 里⑫ はかる リョウ	□ ₄ 料 斗⑩ リョウ	□ ₄ 良 良⑦ よい リョウ	□ ₃ 両 一⑥ リョウ	□ ₃ 旅 方⑩ たび リョ	□ ₅ 留 田⑩ （リュウ） とどめる とまる リュウ	□ ₃ 流 水⑩ （リュウ） ながれる ながす リュウ	□ ₅ 略 田⑪ リヤク
--	---------------------------------	--	---	--	----------------------------------	---	----------------------------------	--	----------------------------------	---------------------------------------	--	--	----------------------------------

る

□ ₃ 路 足⑬ （ロ） じ ロ	□ ₃ 練 糸⑭ （レン） ねる レン	□ ₄ 連 之⑩ （レン） つらなる つらねる つれる レン	□ ₃ 列 刀⑥ （レツ） レツ	□ ₅ 歴 止⑭ （レキ） レキ	□ ₄ 例 人⑧ （レイ） たとえる レイ	□ ₄ 冷 下⑦ （レイ） つめたい ひえる ひや ひやく ひやくす さめる さます レイ	□ ₃ 礼 示⑤ （レイ） レイ	□ ₄ 令 人⑤ レイ	□ ₄ 類 頁⑮ （ルイ） たぐい ルイ
--	---	--	---	---	---	---	---	---------------------------------	--

特別な読み方をする言葉

□ 4 老 ロウ 6 (おいる)

□ 4 労 ロウ 7

□ 6 朗 ロウ 10 (ほがらか)

□ 1 六 ロク 4

□ 4 録 ロク 16

□ 6 論 ロン 15

わ

□ 3 和 ワ 8 (オ)

(やわらぐ) (やわらげ) (なごむ) (なごやか)

□ 2 話 ワ 13 (はなす) (はなし)

□ 明日 あす

□ 大人 おとな

□ 母さん かあ

□ 河原・川原 かわら

□ 昨日 きのう

□ 今日 きょう

□ 果物 くだもの

□ 今朝 けさ

□ 景色 けしき

□ 今年 ことし

□ 清水 しみず

□ 上手 じょうず

□ 七夕 たなばた

□ 一日 ついたち

□ 手伝 てつだ

□ 父さん とう

□ 時計 とけい

□ 友達 ともだち

□ 兄さん にい

□ 姉さん ねえ

□ 博士 はかせ

□ 二十日 はつか

□ 一人 ひとり

□ 二人 ふたり

□ 二日 ふつか

□ 下手 へた

□ 部屋 へや

□ 迷子 まいご

□ 真面目 まじめ

□ 真つ赤 まつか

□ 真つ青 まつきお

□ 眼鏡 めがね

□ 八百屋 やおや

□ 愛媛 えひめ

□ 茨城 いばらき

□ 岐阜 ぎふ

□ 鹿兒島 かごしま

□ 滋賀 しが

□ 宮城 みやぎ

□ 神奈川 かながわ

□ 鳥取 とっとり

□ 大阪 おおさか

□ 富山 とやま

□ 大分 おおいた

□ 奈良 なら

この本で習う漢字

() は、小学校では習わない読み方。

17 ページ
漢字
11画 画数
読み方
シ 視 視 視 視 視 視 視
視 視 視 視 視 視 視
視点 視界
筆順
使い方

帰り道

17 視
11画
シ 視 視 視 視 視 視 視
視 視 視 視 視 視 視
視点 視界

18 穴
5画
(ケツ)
あな 穴が空く
穴 穴 穴 穴 穴

19 砂
9画
サ 砂 砂 砂 砂 砂 砂 砂
砂糖 砂鉄
(シャ)
すな 砂ぼり 砂場

19 腹
13画
フク 腹 腹 腹 腹 腹 腹
中腹 腹痛
はら 腹がへる

20 段
9画
ダン 段 段 段 段 段 段
階段 段落

21 並
8画
(ヘイ)
なみ 並木 並の品
ならべる かたを並べる
ならぶ 一列に並ぶ
ならびに 本並びに雑誌

22 降
10画
コウ 以降 降雨
おろる 列車を降りる
おろす 乗客を降ろす
ふる 雨が降る
降 降 降 降 降 降 降

22 認
14画
(ニン)
みとめる 実力を認める
認 認 認 認 認 認 認 認

22 洗
9画
セン 洗面所
あらう 洗い流す
洗 洗 洗 洗 洗 洗 洗 洗

22 異
11画
イ 異物 異議
こと 意見が異なる
異 異 異 異 異 異

22 純
10画
ジュン 単純 純真
純 純 純 純 純 純 純 純

24 射
10画
シャ 反射 発射
いる 矢を射る
射 射 射 射 射 射 射 射

24 背
9画
ハイ 背景 背後
せ 背中 背負う
せい 背比べ
(そむく)
(そむける)

27 舌
6画
(ゼツ)
した 舌つつみ
舌 舌 舌 舌 舌 舌

28 乱
7画
ラン 乱打 散乱
みだれる 咲き乱れる
みだす 列を乱す
乱 乱 乱 乱 乱 乱

地域の施設を活用しよう

34 域
11画
イキ 地域 流域
域 域 域 域 域 域

34 蔵 15画

蔵蔵蔵蔵蔵蔵蔵蔵
ゾウ 所蔵 蔵書
(くら)

35 展 10画

展展展展展展展展
テン 展示 發展

35 訪 11画

訪訪訪訪訪訪訪訪
ホウ 訪問 来訪
(おとずれる)
たずねる 外国を訪ねる

漢字の形と音・意味

36 我 7画

我我我我我我我我
(ガ) われ 我々
(わ)

36 承 8画

承承承承承承承承
シヨウ 伝承 承知
(うけたまわる)

36 蒸 13画

蒸蒸蒸蒸蒸蒸蒸蒸
ジヨウ 蒸気 蒸発
(むす)
(むれる)
(むらす)

36 処 5画

処処処処処
シヨ 対処 処理

36 就 12画

就就就就就就就就
シユウ 就職 就任
(ジユ)
(つく)
(つける)

36 干 3画

干干干
カン 干拓 干潮
ほす 洗濯物を干す
(ひる)

36 層 14画

層層層層層層層層
ソウ 地層 高層

37 恩 10画

恩恩恩恩恩恩恩恩
オン 恩人 恩返し

37 裁 12画

裁裁裁裁裁裁裁裁
サイ 裁判官 独裁
(たつ)
さばく 罪人を裁く

37 律 9画

律律律律律律律律
リツ 法律 規律
(リチ)

37 脳 11画

脳脳脳脳脳脳脳脳
ノウ 頭脳 首脳

37 臓 19画

臓臓臓臓臓臓臓臓
ソウ 心臓 臓器

37 肺 9画

肺肺肺肺肺肺肺肺
ハイ 肺活量

37 胃 9画

胃胃胃胃胃胃胃胃
イ 胃腸

37 腸 13画

腸腸腸腸腸腸腸腸
チヨウ 胃腸 大腸

聞いて、考えを深めよう

41 映 9画

映映映映映映映映
エイ 映画 映像
うつる 鏡に映る
うつす 映し出す
(はえる)

41 幕 13画

幕幕幕幕幕幕幕幕
マク 字幕 開幕
バク 幕府 幕末

41 補 12画

補補補補補補補補
ホ 補強 立候補
おぎなう 言葉を補う

43 裏 13画

裏裏裏裏裏裏裏裏
(リ) 裏つけ 裏返す
うら

43 浴 8画

浴浴浴浴浴浴浴浴
エン 沿岸漁業
そう 話題に浴う

笑うから楽しい
時計の時間と心の時間

45 私 7画

私私私私私私私
シ 私語 私服
わたくし 私事 私ども
わたし ぼくと私

46 密 11画

密密密密密密密
ミツ 密接 精密

46 呼 8画

呼呼呼呼呼呼呼
コ 呼吸 点呼
よぶ 呼び起こす

47 吸 6画

吸吸吸吸吸吸吸
キユウ 呼吸 吸入
すう 空気を吸う

48 存 6画

存存存存存存存
ゾン 存在 存続
保存 存分

50 刻 8画

刻刻刻刻刻刻刻
コク 時刻 一刻
きざむ 心に刻む

51 激 16画

激激激激激激激
ゲキ 刺激 感激
はげしい 激しく流れる

52 簡 18画

簡簡簡簡簡簡簡
カン 簡単 簡潔

52 机 6画

机机机机机机机
(キ) つくえ 机に向かう

53 難 18画

難難難難難難難
ナン 災難 難問
(かたい) むずかしい難しい問題

55 疑 14画

疑疑疑疑疑疑疑
ギ うたがう 疑問
うたがう 人を疑う

話し言葉と書き言葉

58 卵 7画

卵卵卵卵卵卵卵
(ラン) たまご ゆで卵 生卵

58 乳 8画

乳乳乳乳乳乳乳
ニユウ 牛乳 乳児
(ち) ちち 乳を吸う

58 創 12画

創創創創創創創
ソウ 創業 創作
つくる 文化を創る

58 敬 12画

敬敬敬敬敬敬敬
ケイ 敬語 尊敬
うやまう 相手を敬う

59 除 10画

除除除除除除除
(ジ) ジョ 除雪 除去
のぞく 雑草を除く

59 誤 14画

誤誤誤誤誤誤誤
ゴ 誤解 誤字
あやまる 誤った字

たのしみは

60 暮 14画

暮暮暮暮暮暮暮
(ホ) くれる 夕暮れ
くらす 日々の暮らし

61 探 11画

探探探探探探探
タン (さぐる) 探検 探求
さがす 本を探す

62 座 10画

座座座座座座座
ザ (すわる) 星座 座席

65 券 8画

券券券券券券券
ケン 券売機 食券

文の組み立て

65 障 14画

障障障障障障障障
シヨウ 故障 支障
(さわる)

65 派 9画

派派派派派派派派
ハ 立派 流派

65 警 19画

警警警警警警警警警警
ケイ 警察署 警告

65 署 13画

署署署署署署署署署署
シヨ 警察署 署名

65 銭 14画

銭銭銭銭銭銭銭銭銭銭
セン (ぜに) 銭湯 金銭

65 庁 5画

庁庁庁庁庁
チヨウ 県庁 市庁舎

65 訳 11画

訳訳訳訳訳訳訳訳訳訳
ヤク 通訳 訳者
わけ 言い訳

私たちにできること

70 源 13画

源源源源源源源源
ゲン 資源 源流
みなもと 生命の源

71 策 12画

策策策策策策策策策策
サク 解決策 対策

71 忘 7画

忘忘忘忘忘忘忘忘忘忘
(ボウ) わすれる 消し忘れる

73 討 10画

討討討討討討討討討討
トウ (うつ) 検討 討論

74 供 8画

供供供供供供供供供供
キヨウ (ク) 供給 提供
そなえる 花を供える
とも 供を連れる

74 模 14画

模模模模模模模模模模
モ 模造紙 模様
ボ 規模

私と本
森へ

79 冊 5画

冊冊冊冊冊冊冊冊冊冊
サク (サク) サツ 一冊 冊子

79 宅 6画

宅宅宅宅宅宅宅宅宅宅
タク 自宅 宅配便

79 推 11画

推推推推推推推推推推
スイ (おす) 推理 推敲

79 宇 6画

宇宇宇宇宇宇宇宇宇宇
ウ 宇宙

79 宙 8画

宙宙宙宙宙宙宙宙宙宙
チュウ 宇宙 宙返り

80 装 12画

装装装装装装装装装装
ソウ (シヨウ) 装置 服装
(よそおう)

84 姿 9画

姿姿姿姿姿姿姿姿姿姿
シ 姿勢 容姿
すがた バジヤマ姿

84 潮 15画

潮潮潮潮潮潮潮潮潮潮
チヨウ 風潮 満潮
しお 潮風 満ち潮

85 樹 16画

樹樹樹樹樹樹樹樹樹樹
ジュ 樹木 果樹園

86 割 12画

割割割割割割割割割割
(カツ) 割割割割割割割割割割
わる 竹を割る
わり 役割 割合
われる 皿が割れる
(さく)

86 垂 8画

垂垂垂垂垂垂垂垂垂垂
スイ 垂直
たれる 垂れ下がる
たらず 糸を垂らす

86 胸 10画

胸胸胸胸胸胸胸胸胸胸
キヨウ 胸囲 度胸
むね 胸が高鳴る
(むな)

88 骨 10画

骨骨骨骨骨骨骨
コツ 鉄骨 骨折
ほね 動物の骨

88 巖 17画

巖巖巖巖巖巖巖
ゲン 厳守 厳重
(ゴン)
(おこそか)
きびしい 厳しい自然

利用案内を読む

98 勤 12画

勤勤勤勤勤勤勤
キン 在勤 勤務
(ゴン)
つとめる 会社に勤める
つとまる 無事に勤まる

98 誌 14画

誌誌誌誌誌誌誌
シ 雑誌 週刊誌

98 延 8画

延延延延延延延
エン 延長 延期
のびる 試合が延びる
のべる 延べ三百人
のばす 出発を延ばす

99 幼 5画

幼幼幼幼幼
ヨウ 幼児 幼虫
おさない 幼い妹

熟語の成り立ち

100 熟 15画

熟熟熟熟熟熟熟
ジユク 熟語 実が熟す
(うれる)

100 収 4画

収収収収
シユウ 収納 吸収
おさめる 成功を収める
おさまる 争いが収まる

100 納 10画

納納納納納納納
ノウ 収納 納税
(ナツ)
(ナン)
(ナ)
(トウ)
おさめる 品物を納める
おさまる 倉庫に納まる

100 縦 16画

縦縦縦縦縦縦縦
ジユウ 縦横 縦断
たて 縦書き

100 頂 11画

頂頂頂頂頂頂頂
チヨウ 山頂 頂上
いたたく 雪を頂く
いただき 山の頂

100 忠 8画

忠忠忠忠忠忠忠
チュウ 忠誠 忠実

100 誠 13画

誠誠誠誠誠誠誠
セイ 忠誠 誠心誠意
(まこと)

100 敵 15画

敵敵敵敵敵敵敵
テキ 強敵 天敵
(かたき)

100 蚕 10画

蚕蚕蚕蚕蚕蚕蚕
サン 養蚕
かいこ 蚕を飼う

100 仁 4画

仁仁仁仁
ジン 仁愛 仁義
(に)

100 泉 9画

泉泉泉泉泉泉泉
セン 温泉 源泉
いずみ 泉がわく

101 系 7画

系系系系系系系
ケイ 銀河系 系図

101 盟 13画

盟盟盟盟盟盟盟
メイ 加盟国 同盟

101 臨 18画

臨臨臨臨臨臨臨
リン 臨時 臨機応変
(のそむ)

やまなし
イーハトーヴの夢

104 枚 8画

枚枚枚枚枚枚枚
マイ 二枚 枚数

107 縮 17画

縮縮縮縮縮縮縮
シユク 縮小 短縮
ちぢむ 縮む
ちぢまる 縮まる
ちぢめる 縮める
ちぢれる 縮れる
ちぢらす 縮らす

120 批 7画
 120 痛 12画
 120 晩 12画
 118 揮 12画
 118 暖 13画
 117 寸 3画
 107 棒 12画

批批批批批批批批批批
 ツウ 頭痛 痛快
 いたい 頭が痛い
 いたむ 歯が痛む
 いためる 心を痛める
 晩晩晩晩晩晩晩晩晩晩
 キ 指揮者 発揮
 暖暖暖暖暖暖暖暖暖暖
 ダン 温暖 暖冬
 あたたか 暖かな気候
 あたたかい 暖かい部屋
 あたたまる 空気が暖まる
 あたためる 室内を暖める
 スン 寸法 原寸大
 寸寸寸
 ボウ 棒 棒 棒 棒 棒 棒
 鉄棒 棒切れ

122 翌 11画
 122 遺 15画
 121 閉 11画
 121 劇 15画
 121 若 8画
 120 傷 13画

ヨク 翌翌翌翌翌翌翌翌翌翌
 翌日 翌朝
 ヨク 翌日 翌朝
 (ユイ) 遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺
 遺書 世界遺産
 しめる 店が閉まる
 (とざす) ドアを閉める
 へい 閉会式 開閉
 とじる 本を閉じる
 (とざす) 閉閉閉閉閉閉閉閉閉閉
 ゲキ 劇団 劇場
 若若若若若若若若若若
 (ジャク) 若者 若い人
 (ニヤク) わかい
 (もしくは) 若者 若い人
 シヨウ 負傷者 重傷
 きず 傷つく 傷口
 (いたむ) 傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷
 (いためる) 傷つく 傷口

138 否 7画
 136 善 12画
 134 優 17画
 133 危 6画
 133 班 10画
 133 論 15画

ヒ 否否否否否否否否否否
 否定的 安否
 (いな)
 よい 善善善善善善善善善善
 ゼン 改善点 善意
 (すぐれる) 善善善善善善善善善善
 (やさしい) 優先 優勝
 エウ 優優優優優優優優優優
 (あやうい) あぶない 危険 危機
 (あやぶむ) あぶない 危険 危機
 ハン 班班班班班班班班班班
 班長 班員
 ロン 論論論論論論論論論論
 結論 討論

みんなで楽しく
 過ごすために

139 紅 9画
 139 糖 16画
 139 至 6画
 139 窓 11画
 139 捨 11画
 139 専 9画

べに 紅紅紅紅紅紅紅紅紅紅
 コウ 紅茶 紅白
 (くれない) 紅
 トウ 砂糖 糖分
 糖糖糖糖糖糖糖糖糖糖
 シ 至至至至至至至至至至
 いたる 目的地に至る
 至急 冬至
 ソウ 車窓 同窓会
 まど 窓口 天窓
 シヤ 捨捨捨捨捨捨捨捨捨捨
 取捨選択
 すてる ごみを捨てる
 セン 専専専専専専専専専専
 (もっぱら) 専用 専門家

『鳥獣戯画』を読む
日本文化を発信しよう

143 筋 12画

筋筋筋筋筋筋筋
キン 筋肉 鉄筋
すじ いく筋

143 盛 11画

盛盛盛盛盛盛盛
(セイ) 盛り上がる
(ジヨウ) もる
(さかる) (さかん)

143 卷 9画

卷卷卷卷卷卷卷
カン 全巻 巻末
まく 取り巻く
まき 巻物

143 宝 8画

宝宝宝宝宝宝宝
ホウ 国宝 宝石
たから 宝物 宝探し

150 貴 12画

貴貴貴貴貴貴貴
キ 貴重 貴族
(たつとひ) (たつとぶ)
(とうとい) (とうとぶ)
(とうとぶ)

152 著 11画

著著著著著著著
チヨ 著作権 著者
(あらわす) (いちじるしい)

152 権 15画

権権権権権権権
ケン 著作権 人権
(ゴン)

152 尊 12画

尊尊尊尊尊尊尊
ソン 尊重 尊敬語
たつとい 尊い精神
たつとぶ 恩師を尊ぶ
とうとい 尊い命
とうとぶ ルールを尊ぶ

154 担 8画

担担担担担担担
タン 分担 担任
(かつぐ) (になう)

155 秘 10画

秘秘秘秘秘秘秘
ヒ 秘密 神秘
(ひめる)

156 従 10画

従従従従従従従
ジユウ 従順 従業員
(シヨウ) (ジユ)

カンジー博士の漢字学習の秘伝

160 奏 9画

奏奏奏奏奏奏奏
ソウ 演奏 合奏
(かなてる)

160 郵 11画

郵郵郵郵郵郵郵
ユウ 郵便局 郵送

161 拡 8画

拡拡拡拡拡拡拡
カク 拡大 拡張

161 操 16画

操操操操操操操
ソウ 体操 操作
(みさお) (あやつる)

161 絹 13画

絹絹絹絹絹絹絹
(ケン) 絹織物
きぬ

161 俵 10画

俵俵俵俵俵俵俵
ヒヨウ 五俵 土俵
たわら 米俵

161 拝 8画

拝拝拝拝拝拝拝
ハイ 拝見 参拝
おがむ 地蔵を拝む

161 聖 13画

聖聖聖聖聖聖聖
セイ 聖火 聖地

161 賃 13画

賃賃賃賃賃賃賃
チン 家賃 運賃

161 孝 7画

孝孝孝孝孝孝孝
コウ 孝行 忠孝

161 預 13画

預預預預預預預
ヨ 預金
あずける お金を預ける
あずかる 荷物を預かる

161 覧

覧覧覧覧覧覧覧覧
一覽表 回覽

161 鋼

鋼鋼鋼鋼鋼鋼鋼
鉄鋼 鋼材
(はがね)

161 亡

亡亡亡
ボウ 死亡 亡命
(モウ)
(ない)

狂言

柿山伏

164 己

己己己
自己 利己的
(おのれ)

165 届

届届届届届届届
荷物を届ける
とどける
とどく
心に届く

169 困

困困困困困困困
困難
返事に困る
こまる
コン

171 看

看看看看看看看
看病 看板
カン

171 尺

尺尺尺尺
一尺 卷尺
シヤク

171 染

染染染染染染染
真つ黒に染める
赤く染まる
(セシ)
そめる
そまる
(しみ)

173 退

退退退退退退退
退場 後退
しりぞく 後方に退く
しりぞける 要求を退ける
タイ

184 朗

朗朗朗朗朗朗朗
朗読 朗報
(ほがらか)
ロウ

詩を朗読して
しようかいしよう

仮名の由来

187 片

片片片片
片仮名
(ヘン)
かた

メディアと人間社会／大切
な人と深くつながるために

190 欲

欲欲欲欲欲欲欲
意欲的
ヨク
(ほつする)
(ほしい)

190 誕

誕誕誕誕誕誕誕
誕生 生誕
タン

漢字を正しく
使えるように

201 穀

穀穀穀穀穀穀穀
穀物 五穀
コク

202 郷

郷郷郷郷郷郷郷
郷里 故郷
キヨウ
(ゴウ)

202 株

株株株株株株株
株式会社
かぶ

202 諸

諸諸諸諸諸諸諸
諸国 諸条件
シヨ

202 衆

衆衆衆衆衆衆衆
親衆 群衆
シユウ
(シユ)

203 磁

磁磁磁磁磁磁磁
磁石 磁力
ジ

203 皇

皇皇皇皇皇皇皇
皇室 皇居
オウ
天皇 皇子

203 后

后后后后后后后
皇后
コウ

203 陛

陛陛陛陛陛陛陛
陛下
ヘイ

203 憲 16画

憲 憲 憲 憲 憲 憲
ケン 憲法 憲章

203 党 10画

党 党 党 党 党 党
トウ 政党 党派

203 閣 14画

閣 閣 閣 閣 閣 閣
カク 内閣 天守閣

203 革 9画

革 革 革 革 革 革
カク (かわ) 改革 革命

203 宗 8画

宗 宗 宗 宗 宗 宗
シュウ (ソウ) 宗教

人を引きつける表現

204 詞 12画

詞 詞 詞 詞 詞 詞
シ 歌詞 作詞

207 宣 9画

宣 宣 宣 宣 宣 宣
セン 宣伝 宣言

思い出を言葉に

209 値 10画

値 値 値 値 値 値
チ 価値 数值
ね 値段 値札
(あたい)

209 俳 10画

俳 俳 俳 俳 俳 俳
ハイ 俳句 俳優

今、私は、ぼくは

213 将 10画

将 将 将 将 将 将
ショウ 将来 將軍

海の命

221 針 10画

針 針 針 針 針 針
シン 方針 秒針
はり つり針

227 灰 6画

灰 灰 灰 灰 灰 灰
(カイ) 灰色 灰皿
はい

227 奮 16画

奮 奮 奮 奮 奮 奮
フン 興奮 奮発
ふるう 勇気を奮う

229 濟 11画

濟 濟 濟 濟 濟 濟
サイ 経済 救済
すむ 仕事が済む
すまず 宿題を済まず

表彰状

あなたは、六年間の国語学習で、言葉について
たくさんのことを学びました。特に、

さん

についての努力は、かけがえのない経験です。
中学校に行っても、ぜひいかしてください。
ここに、六年間の学びを表彰します。



「中学校へつなげよう(234ページ)」、
や『たいせつ』のまとめ(248ページ)」、
「学習に用いる言葉(309ページ)」な
どを見て、あなたがこれまでに身に
つけた言葉の力を確認しましょう。
そして、特にがんばったことや、力
がついたと感じることを書き、自分
に表彰状をおくりましょう。





考えや気持ちを伝える言葉

調べたことを報告するときや、自分の意見や心情を伝えるときに使う言葉を集めています。表現に役立てましょう。

人物を表す言葉

- 楽観的
- 悲観的
- 積極的
- 消極的
- 論理的
- 感情的
- 熱意のある
- 率直
- まっすぐ
- もの静か

- 誠実
- 温かい
- するどい
- 気難しい
- えんりよがち
- 未熟
- に明るい
- に強い

事物を表す言葉

- 適切
- 好ましい
- うってつけ
- にかなう
- 不都合
- 不つり合い
- 明確
- 確実
- 的確
- あいまい

考え方を表す言葉

- 不確か
- 不向き
- 不規則
- 同一
- 共通
- 抽象的
- 具体的
- 現実的
- 理想的
- おそらく
- とみられる
- 具体的には、——
- 共通点は、——
- 中でも、——
- 多くは、——
- の場合は
- ここから、——
- と言える

心情を表す言葉

- したう
- あこがれる
- 好感をもつ
- いとしい
- かんめいを
- 受ける
- 心にひびく
- 圧倒される
- 我を忘れる

- 痛快
- こちよい
- 晴れやか
- 胸をふくらませる
- 待ち望む
- 意気ごむ
- くつろぐ
- 気が楽になる
- 解放感

- かたの荷が下りる
- くすぐったい
- そわそわする
- 心もとない
- 気がかり
- 気が気でない
- もどかしい
- ふさぐ
- たまらない
- なやましい

- わずらわしい
- 嫌気が差す
- むっとする
- 鼻につく
- ぐらつく
- ためらう
- なごりおしい

- 心残り
- 後悔
- 味気ない
- いじける
- くじける
- 失望

▼これまでの学習をいかして、これから言葉を広げる方法を考え、取り組みましょう。

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方を確かめて、学習に役立てましょう。

🌿 視点

物語や詩において、語り手がどこからその作品を見て語っているかということ。その作品の登場人物に寄りそった視点から語ることもあれば、登場人物自身の視点から語る場合や、どの人物にもかたよらない視点から語る場合もある。

どの視点から書かれているかを意識して読むと、地の文からも中心となる人物の心情の移り変わりが読み取れたり、作品世界の様子を、その人物に寄りそって想像したりすることができる。

📖 30ページ

🌿 著作権

文章や音楽、絵などの作品を作った人（著作者）がもつ権利

10

🌿 これまでに学んだ言葉

🌿 構成

話や文章の全体が、どのようなまとまりで組み立てられているかということ。

🌿 根拠

考えや主張のもとになるもので、客観的な事実や、体験などの具体的な事例によって示されることが多い。

🌿 主張

自分の意見や思いを他の人にうったえること。また、その意見や思いのこと。話し合いや、意見文などでは、自分の主張や立場を明確に示す必要がある。

🌿 事例

ある物事や考えを説明するために例として挙げられる、具体的な事実のこと。

🌿 心情

登場人物が、心の中で思っていることや感情のこと。直接書かれているだけでなく、行動や会話、情景にも表れる。

🌿 人物像

物語全体を通してえがかれる、人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴を総合的にとらえたもの。

🌿 日本十進分類法

図書資料の分類方法。アメリカで作られた分類方法をもと

20

15

10

5

🌿 推敲

一度書いた文章をよりよくするために、読み直して、誤字などを修正したり、形式や表現を適切な形に整えたりすること。

読み手を意識して推敲することで、自分の伝えたいことが、相手に伝わる文章を完成させることができる。

📖 178ページ

10

🌿 山場

に、日本の図書館に合わせて考案された。全ての図書資料を十の種類に分け、それぞれをさらに細かく十ずつに分ける。

物語の中で、中心となる人物の見方・考え方や人物の関係が大きく変わるところ。

🌿 要旨

筆者が文章で取り上げている、内容や考えの中心となる事から。文章全体をまとめている段落に表れることが多い。

- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> あらすじ | <input type="checkbox"/> 司会 | <input type="checkbox"/> 場面 |
| <input type="checkbox"/> アンケート調査 | <input type="checkbox"/> 質問 | <input type="checkbox"/> 筆者 |
| <input type="checkbox"/> 引用 | <input type="checkbox"/> 取材 | <input type="checkbox"/> 見出し |
| <input type="checkbox"/> 奥付 | <input type="checkbox"/> 出典 | <input type="checkbox"/> メモ |
| <input type="checkbox"/> 会話文・地の文 | <input type="checkbox"/> 情景 | <input type="checkbox"/> 訳者 |
| <input type="checkbox"/> 箇条書き | <input type="checkbox"/> 設定 | <input type="checkbox"/> 要点 |
| <input type="checkbox"/> 語り手 | <input type="checkbox"/> 対比 | <input type="checkbox"/> 要約 |
| <input type="checkbox"/> 議題 | <input type="checkbox"/> 題名 | <input type="checkbox"/> 連 |
| <input type="checkbox"/> キャッチコピー | <input type="checkbox"/> 段落 | <input type="checkbox"/> 話題 |
| <input type="checkbox"/> 句読点 | <input type="checkbox"/> 出来事 | <input type="checkbox"/> 割り付け |
| <input type="checkbox"/> 索引 | <input type="checkbox"/> 問い(問いの文) | |
| <input type="checkbox"/> 作者 | <input type="checkbox"/> 登場人物 | |

20

15

10

5

📖 152ページ

5

編集委員

甲斐陸朗

元国立国語研究所所長

高木まさき

横浜国立大学大学院教授

青山由紀

筑波大学附属小学校教諭

赤木雅宣

ノートルダム清心女子大学教授

阿辻哲次

京都大学名誉教授

阿部昇

秋田大学特別教授

池上彰

ジャーナリスト

石井陸美

作家

石黒圭

国立国語研究所教授

稲田八穂

筑紫女学園大学教授

井上一郎

前京都女子大学教授

浮田真弓

岡山大学教授

内田伸子

お茶の水女子大学名誉教授

岡田博元

お茶の水女子大学附属小学校教諭

甲斐雄一郎

筑波大学教授

鹿毛雅治

慶應義塾大学教授

桂聖

筑波大学附属小学校教諭

茅野政徳

山梨大学教職大学院准教授

工藤直子

作家

鴻上尚史

作家・演出家

輿水かおり

前玉川大学客員教授

佐渡島紗織

早稲田大学教授

逢富洋二

佐賀大学教授

田中洋一

東京女子体育大学教授

棚橋尚子

奈良教育大学教授

土山和久

大阪教育大学教授

永池啓子

横浜国立大学講師

中川一史

放送大学教授

中川李枝子

作家

中村桂子

生命誌研究館館長

長谷浩也

環太平洋大学教授

蜂飼耳

詩人・作家

原田義則

鹿児島大学大学院准教授

藤森裕治

信州大学術研究院教授

細川太輔

東京学芸大学教職大学院准教授

三浦登志一

山形大学術研究院教授

邑上裕子

明星大学客員教授

森 篤嗣

京都外国語大学教授

森山卓郎

早稲田大学教授

吉永幸司

前京都女子大学教授

カラーユニバーサルデザインに関する校閲

市原恭代

工學院大学准教授

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)理事

特別支援教育に関する校閲

佐島 毅

筑波大学准教授

学習のユニバーサルデザインに関する校閲

小貫 悟

明星大学教授

光村図書出版株式会社編集部

アート・ディレクション／デザイン 図工室(坂 啓典／近田宏生／堀ノ内達也)

表紙絵 大野八生 とびら詩 羽曾部 忠 とびら絵 イヌイマサノリ

さし絵 浅倉田美子／イヌイマサノリ／上垣厚子／神山博光／川口澄子／河原崎秀之／斉藤みお／芝野公二／関岡恵美／タケウマ／津田蘭子

ニシハマカオリ／papakori／Hama-House／ハラアツシ／福田玲子／見杉宗則／山田タクヒロ

写真 アフロ／アマナイメジス／荒川区立ゆいの森あらかわ／出光美術館／岡山市立中央図書館／小川未明文学館／神奈川県立歴史博物館

神田佳明／京都国立博物館／高山寺／高知県立文学館／国立科学博物館／国立劇場／国立国会図書館／国立能楽堂／信貴山朝護孫子寺霊宝館

高宮青志／千葉市美術館／壺井栄文学館／TNM Image Archives／DNParion／東京国立博物館／徳川美術館／徳川美術館イメージアーカイブ

長岡博史／日本民藝館／人形浄瑠璃文学座／浜田広介記念館／林 重男／林原美術館／林 義勝／ピクスタ／広島平和記念資料館

藤田三男編集事務所／北海道立総合博物館／水町和昭／山形美術館長谷川コレクション／横浜能楽堂／林風舎

【なかだ】

TEXT COPYRIGHT © 2000 Jim LaMarche

Used by permission of HarperCollins Publishers through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

国語 六 創造

38光村 国語607 小学校国語科用

年月 日印刷
年月 日発行

(平成三十一年二月二十五日検定済)

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した
定価(右記の定価は、各教科書取次供
給所に表示します。)

この教科書にもとづくワークブック・解説書
ならびにこれに類するものの無断発行を禁
じます。

ISBN978-4-138-0073-6

著作者

甲斐陸朗 ほか四十三名別記

発行者

光村図書出版株式会社

代表者 小泉 茂

東京都品川区上大崎二十九九

印刷者

協和オフセット印刷株式会社

代表者 嶋 三津夫

東京都港区浜松町一・三一

発行者

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九九

電話(〇三)三四九三二二二一(代表)

ISBN978-4-8138-0073-6
C4381 ¥00000E



9784813800736



1924381000000

保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k6/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

六年

組

